

富山県射水郡大島町

小林遺跡

—町道北高木小林線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告—

2003年

大島町教育委員会

卷首図版1



上 小林遺跡遠景（北から） 下 F地区【下層面】遺構全景（北から）



上 E地区〔下層面〕81号土坑（東から） 下 81号土坑出土遺物



H地区〔下層面〕1号土器溜り出土遺物

富山県射水郡大島町

小林遺跡

—町道北高木小林線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告—

2003年

大島町教育委員会

序

この報告書は、町道北高木小林線建設事業に伴い、大島町が平成9年度から3箇年に亘って調査を実施した小林遺跡の発掘調査報告であります。

小林遺跡は、射水平野の重要な河川の一つである神楽川流域に立地し、弥生時代から江戸時代に亘る複合遺跡として知られてきました。小林遺跡として初めて発掘調査を実施した今回の調査では、弥生時代以降の各時代の遺構・遺物が検出され、この地には連綿と人々が生活を営んでいたことを実証してくれました。

この発掘調査の成果が、文献には表れない民衆生活の解明や学術研究等の参考となり、埋蔵文化財に対する理解ならびに保護の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元の皆様をはじめ、調査中や整理期間中に様々なご指導を賜りました関係諸機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

大島町教育委員会

教育長 亀 谷 慶 英

例　　言

- 1 本書は、町道北高木小林線建設事業に先立ち実施した、富山県射水郡大島町小林地内に所在する小林遺跡の発掘調査報告である。
- 2 調査は、大島町役場建設課（現：産業建設課）に委託を受けて、大島町教育委員会が実施した。
- 3 調査事務局は大島町教育委員会事務局生涯学習係に置き、学芸員田中 明が調査事務を担当し、事務局長草野信正（平成9年度）・竹内三和（平成10・11年度）が総括した。
- 4 調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。

調査期間 平成9年度 平成9（1997）年8月20日～平成9（1997）年12月17日（実働64日）
平成10年度 平成10（1998）年5月11日～平成10（1998）年9月9日（実働62日）
平成11年度 平成11（1999）年4月6日～平成12（2000）年1月13日（実働134日）

調査面積 平成9年度 1,000m²
平成10年度 2,300m²
平成11年度 4,300m²

調査担当者	大島町教育委員会	生涯学習係	学芸員	田中 明
	同	上	調査員	中村 恭子
	同	上	調査員	大友喜代子

- 5 本書の編集・執筆は、調査担当者田中がこれにあたった。
- 6 本製品樹種同定分析は、(株)吉田生物研究所に委託し、その成果について報文を得た。
- 7 現地調査ならびに資料整理にあたって、下記の方々からご協力を頂いた。記して謝意を表したい。
(敬称略・順不同)
岸本雅敏・宮田進一・池野正男・久々忠義・神保孝造・島田修一・岡本淳一郎・高梨清志・越前慶祐・京田良志・鈴木景二・根津明義・岡田一宏
- 8 現地調査にあたっては、社団法人大島町シルバーパートナーズの協力を得た。記して厚く御礼申し上げる。
- 9 本書の挿図・写真図版に用いた方位は磁北、標高は海拔高である。なお、遺構の標記にあたっては略号を用いた。使用した略号は下記のとおりである。
S D : 溝・河川、S K : 土坑、S B : 掘立柱建物、S E : 井戸、S X : 不明遺構、P : 柱穴
- 10 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(1997年版)に準拠している。
- 11 出土品ならびに記録資料は、大島町教育委員会が保管している。
- 12 資料整理業務の参加者は下記のとおりである。
新中洋子・江幡幸子・高瀬直子・畠山りえ子・三箇正子・中嶋由利子・林紀子・藤井真紀子・吉田和永・井上啓子・野村英美子

目 次

第1章 位置と環境	1
第2章 調査の経緯と経過	2
第1節 調査に至る経緯	2
第2節 調査の経過と方法	2
第3章 調査の概要	4
第1節 地形と層序	4
第2節 遺構と遺物（上層面）	4
第1項 A地区	4
第2項 B地区	5
第3項 C地区	5
第4項 D地区	6
第5項 E地区	6
第6項 F地区	6
第3節 遺構と遺物（下層面）	18
第1項 A地区	18
第2項 B地区	18
第3項 C地区	18
第4項 D地区	19
第5項 E地区	20
第6項 F地区	21
第7項 G地区	22
第8項 H地区	23
第9項 I地区	23
第4章 考 察	49
第5章 自然科学分析	51

卷首図版目次

- 卷首図版 1 小林遺跡遠景 F地区（下層面）遺構全景
卷首図版 2 E地区（下層面）81号土坑 81号土坑出土遺物
卷首図版 3 H地区（下層面）1号土器溜り出土遺物

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第2図 調査区位置図	3
第3図 基本層序模式図	4
第4図 遺構実測図 [A・B地区]	7
第5図 遺構実測図 [C・D地区]	8
第6図 遺構実測図 [E・F地区]	9
第7図 遺構実測図 [A～C地区] SD01 SD03 SD33 SD35 SK16 SK17	10
第8図 遺構実測図 [D～F地区] SD37 SK55 SK56 SB02	11
第9図 遺物実測図 [A地区] SD01 SD03 包含層	12
第10図 遺物実測図 [B地区] SD09 SD10 SD33	13
第11図 遺物実測図 [B地区] 包含層	14
第12図 遺物実測図 [C地区] SD35 SD36 SK18 包含層	15
第13図 遺物実測図 [D地区] SD37 包含層	16
第14図 遺物実測図 [E・F地区] SD37 SD62 SK56 包含層	17
第15図 遺構実測図 [A・B地区]	24
第16図 遺構実測図 [C・D地区]	25
第17図 遺構実測図 [E・F地区]	26
第18図 遺構実測図 [G・H地区]	27
第19図 遺構実測図 [I地区] SD73 SK168	28
第20図 遺構実測図 [A～D地区] SD18 SD24 SD30 SD47 SD51 SK26 SK32 SE01	29
第21図 遺構実測図 [E地区] SD71～SD74 SK76 SK81	30
第22図 遺構実測図 [F・G地区] SD73 SD80 SD83 SD89 SK109	31
第23図 遺構実測図 [G地区] SD73 SB03	32
第24図 遺構実測図 [G～I地区] SD73 SD91 SD97 SK167	33
第25図 遺物実測図 [A・B地区] SD18 SD20 SK26 包含層	34
第26図 遺物実測図 [C地区] SD47 SK32 SK35 SK40 包含層	35
第27図 遺物実測図 [C地区] 包含層	36
第28図 遺物実測図 [D地区] SD48 SD51 包含層	37
第29図 遺物実測図 [E地区] SK76	38

第30図	遺物実測図 [E地区]	S D73 S K81.....	39
第31図	遺物実測図 [E地区]	S D70~S D72 S D74 S K90 包含層	40
第32図	遺物実測図 [F地区]	S D73	41
第33図	遺物実測図 [F地区]	S D80 S K109 包含層	42
第34図	遺物実測図 [G地区]	S D83 S D89~S D91	43
第35図	遺物実測図 [G地区]	S D73 包含層	44
第36図	遺物実測図 [H地区]	S X01	45
第37図	遺物実測図 [H地区]	S X01	46
第38図	遺物実測図 [H地区]	S D73 S D97 S K151	47
第39図	遺物実測図 [H・I地区]	S D73 S D98 S D113 包含層	48

表 目 次

第1表	遺物観察表 (1~40)	53
第2表	遺物観察表 (41~80)	54
第3表	遺物観察表 (81~120)	55
第4表	遺物観察表 (121~160)	56
第5表	遺物観察表 (161~200)	57
第6表	遺物観察表 (201~240)	58
第7表	遺物観察表 (241~280)	59
第8表	遺物観察表 (281~320)	60
第9表	遺物観察表 (321~360)	61
第10表	遺物観察表 (361~400)	62
第11表	遺物観察表 (401~440)	63
第12表	遺物観察表 (441~483)	64

図版目次

図版1	小林遺跡遠景							
図版2	遺構全景	[B・E地区]						
図版3	遺構全景・掘立柱建物	[E~I地区]	S B03					
図版4	溝・土坑・柱穴・井戸	[C・E・G~I地区]	S D73	S D107	S K76	S K90		
			S B01	S E01				
図版5	溝・土坑	[A・C~F地区]	S D01	S D03	S D35	S D37	S K16	
			S K17	S K55				
図版6	溝・土坑	[A~D地区]	S D20	S D24	S D47	S D48	S D51	
			S K26					
図版7	溝・土坑	[E・F地区]	S D71~S D74	S K76				
図版8	溝・土坑	[F~I地区]	S D73	S D83	S D89	S D91	S D97	
			S K118	S K167				
図版9	出土状況 土器・木製品	[A~E地区]	S D01	S D11	S D33	S D35		
			S K56	包含層				
図版10	出土状況 土器	[E地区]	S D71	S D72	S K81			
図版11	出土状況 土器	[E・F地区]	S K81	S K109				
図版12	出土状況 土器	[G・H地区]	S D89	S D91	S X01			
図版13	出土状況 石製品	[H・I地区]	S D73					
図版14	出土遺物 土器	[A・B地区]	S D01	S D03	S D09	S D10	包含層	
図版15	出土遺物 土器・陶磁器	[B・C地区]			包含層			
図版16	出土遺物 土器・木製品・石製品・金属製品	[C~F地区]	S D35	S D37	包含層			
図版17	出土遺物 土器	[A・B地区]	S D18	包含層				
図版18	出土遺物 土器	[C地区]	S K40	包含層				
図版19	出土遺物 土器	[C地区]		包含層				
図版20	出土遺物 土器	[D地区]	S D51	包含層				
図版21	出土遺物 土器・石製品	[E地区]	S K76					
図版22	出土遺物 土器	[E地区]	S K81					
図版23	出土遺物 土器・石製品	[E地区]	S D71~S D73	包含層				
図版24	出土遺物 土器	[F地区]	S D80	S K109	包含層			
図版25	出土遺物 土器	[G地区]	S D91					
図版26	出土遺物 土器・陶磁器・石製品	[G地区]	S D73	S D83	S D89	S D91		
図版27	出土遺物 土器	[H地区]	S X01					
図版28	出土遺物 土器	[H地区]	S X01					
図版29	出土遺物 土器	[H地区]	S X01					
図版30	出土遺物 土器・石製品	[H地区]	S D73	S D97	S K151	包含層		
図版31	出土遺物 獣骨・金属製品	[B~I地区]	S D37	S D73	包含層			

第1章 位置と環境

大島町は、富山県西部にあり、射水平野の中央に位置している。町の西側には飛騨高地に源を発する庄川が流れ、その庄川を挟んで高岡市、東は小杉町、南に大門町、北に新湊市と接している。この射水平野は沖積層で、その大半が約6,000年前の繩文海進期に、現在富山新港となっている放生津潟が射水丘陵付近にまで入り込み、町の大部分も海面下にあったことが想像される。その後、和田川・神楽川・下条川・鍛治川の土砂堆積により潟が狭められ陸地化し、低湿地帯が広がる射水平野を形成していった。町は全体に平坦で、標高は3~8mを測る。

小林遺跡は、弥生時代中期から江戸時代に至る複合遺跡であり、和田川が形成した微高地上に立地している。この和田川は現在庄川へ合流しているが、もとは東神楽川と西神楽川の二つの流れとなって放生津潟へ注いでいた。舟運が重要な交通手段であった頃に砺波郡東部と射水郡を結ぶ東西神楽川流域内に立地していたことがうかがえる。周辺には、奈良・平安時代の川跡から木簡、人形、人面墨書き土器などが出土し、県内有数の祭祀場であった北高木遺跡、同遺跡北側に一連の遺跡と考えられ墨書き土器、布目瓦、などが出土した高木・荒畠遺跡がある。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)

1. 小林遺跡
2. 鳥取遺跡
3. 新開発遺跡
4. 水上・本開発遺跡
5. 熊野神社遺跡
6. 赤井遺跡
7. 小林南遺跡
8. 八塚B遺跡
9. 八塚土田遺跡
10. 八塚A遺跡
11. 八塚C遺跡
12. 小島遺跡
13. 南高木B遺跡
14. 南高木A遺跡
15. 北高木遺跡
16. 中野B遺跡
17. 中野A遺跡
18. 中野北遺跡
19. 若杉遺跡
20. 北野B遺跡
21. 三ヶ・本開発遺跡

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成6年度、大島町は町道北高木小林線の新設道路工事を計画した。大島町教育委員会は町建設課（現：産業建設課）から、路線計画地内の埋蔵文化財包蔵地の有無、その取り扱いについて照会を受けた。これに対し町教育委員会は、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である小林遺跡であることから、今後の対応につき富山県埋蔵文化財センターと協議を図り、事業計画地約10,000m²を対象とした試掘調査を実施することとなった。

平成7年10月、町教育委員会に調査員がない為、県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受け、試掘調査を実施した。調査は対象面積約10,000m²に49本の試掘トレンチを設定し、重機及び人力により地表面下30~100cmの遺構面まで掘り下げ、遺物包含層と遺構の有無を確認した。試掘調査による発掘面積は700m²で全体の7%であった。調査の結果、事業計画地の北端、町道中野本開発線取り付け部分を除きほぼ全域から遺構・遺物が確認されたため、遺構の保護措置について町教育委員会・町建設課・県埋蔵文化財センターの三者による協議を重ねた。道路事業の性格上、計画変更による現状保存は極めて困難であり、記録保存を前提とした発掘調査を実施する方向で協議は進められた。これに伴い町教育委員会では発掘調査の計画策定を進めたが、調査員採用の問題を抱え膠着状態が続いた。平成9年度に入り、町職員として学芸員が採用されたことで調査体制が整い、懸案事項が合意に達し8月下旬より1,000m²の本調査を実施した。同様に平成10年度は2,300m²、平成11年度は4,300m²と3年度に亘る発掘調査に着手することとなった。

第2節 調査の経過と方法

調査対象地は、農道、排水溝で南北に9分割されているため、便宜上A~I地区とし調査を進めるにした。平成9年度はA~B地区（1,000m²）、平成10年度はB~D地区（2,300m²）、平成11年度はE~I地区（4,300m²）の調査を行い、調査総面積は7,300m²である。試掘調査の結果、本遺跡は時代の異なる遺構が検出される複合遺跡であるということで、文化層を2面に分けて調査を実施した。従って実際調査した面積は約2倍に亘る。

発掘調査は試掘調査の結果をもとに重機による表土・耕作土の除去を、調査員立ち会いのもと行った。その後、調査対象地の区画にあわせて10m間隔に測量基準杭の打設を行い（第2図）、X軸を南北にY軸を東西に2×2mを一区画とした調査区を設定した。統いて、第一層目の遺構確認面の精査、遺構の検出を行った。検出した遺構にはマーキングを行い、平板測量による遺構概略図を作成した。

次に、遺構に便宜上の番号を設定し、各々の遺構に適宜、土層観察用の畦を残し掘削を開始した。遺構掘削後は各遺構の断面を20分の1で実測し図化を行った。遺構の平面全体図は航空写真測量を行った。各遺構の断面写真は35mmカメラで、遺物出土状況や個別の完掘写真・ブロック写真はプロニー版もあわせて撮影した。実機ヘリコプターによる空中撮影終了後は最終レベルの確認・記録、遺物の採集を行った。また、空中撮影のために残しておいた畦などを取りはずし、遺構の完掘を確認し第一層目の調査を終了した。引き続き、第二層目も同様に第一層目の遺構検出面を掘り下げ、遺構確認面の精査、遺構の検出作業から順に進めた。

平成9年度は平成9年8月20日~12月17日（実働64日）、平成10年度は平成10年5月11日~9月9日（実働62日）、平成11年度は平成11年4月6日~平成12年1月13日（実働134日）と長期に亘る発掘調査を終了した。



第2図 調査区位置図 (1/2,400)

第3章 調査の概要

第1節 地形と層序

小林遺跡は、和田川によって形成された微高地上に位置し、その支流である東西神楽川に挟まれている。現況は標高4.5m前後を測り、北から南に向かって緩やかに傾斜する。

調査区付近は昭和28年には場整備を受け、調査区の中央を南北に走る農道を境に、東側が西側より低くなり削平を受けている。幅16~18mの調査区には、農道・旧用水が中央を縦断しており、擾乱をひどく受けている。

調査区の基本層序について記述する。その層序は概ね5層に区分できる。1層は褐灰色~灰

黄褐色砂質土で表土・耕作土である。2a層は灰色~灰オリーブ色シルトで上層、2b層は灰色~オリーブ黒色シルトで下層と共に遺構検出面であり、古代から近世の遺物包含層でもある。この2層は色調の違いによりa・b層と分けたが、ともに酸化鉄を豊富に包含している為、同一層位として捉えることとする。3層はオリーブ黒色~黒色粘質シルトで弥生中期から古墳時代の遺物包含層である。4層は明青灰色~緑灰色粘質シルトで、遺物の包含が認められないため、これより下層は地山と判断する。

第2節 遺構と遺物（上層面）

第1項 A地区

1号溝（SD01、第4・7・9図、図版5・9・14）

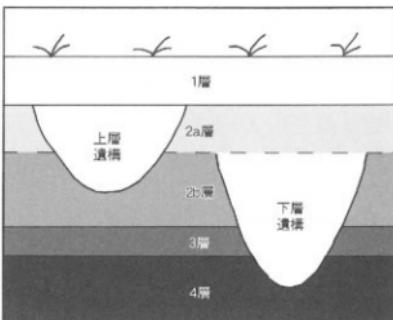
A地区の北側に位置する東西方向の幅120cm~210cmの溝である。途中擾乱により少し途切れるものの全長約17mを検出し、両端とも発掘区外へ伸びる。深さは30cm~45cmを測る。北東端部付近からSD02が南北方向に伸びるが、SD01はこれよりも古い。遺物は弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第9図2は須恵器杯Bである。直線的に斜め上方に伸びる口縁部をもち口径に比して高さが低い器形で、8世紀第2四半期のものである。4は須恵器杯Aで、体部外面に「長」の墨書きがある。7は内面が黒色処理された土師器碗である。

3号溝（SD03、第4・7・9図、図版5・14）

A地区の西側に位置する幅70cm~90cmの溝である。南北方向に直線的に伸び、全長約26mを検出。南端は発掘区外へ伸びるが、北端ではSD02に切られていることからSD02より古い。断面は逆台形を呈し、深さは5cm~15cmと浅い。覆土は灰色~灰オリーブ色粘質シルトである。遺物は須恵器・土師器が出土している。第9図13は口径11.3cm、高さ3.8cmの須恵器杯H身である。たちあがりをもつ杯身の終末にちかい形態で、時期は7世紀第2四半期のものか。18は土師器甕。直線的に外傾する口縁部に外傾する端部が付くもので、内外面ハケメ調整である。時期は7世紀後半から8世紀前半のものである。

包含層出土遺物（第9図、図版14）

包含層からは須恵器（杯・杯蓋・壺）・土師器（ミニチュア・高杯・皿）・珠洲甕が出土している。



第3図 基本層序模式図

第2項 B地区

9号溝（S D09、第4・10図、図版14）

B地区の西側に位置する南北方向の自然流路である。溝の掘り込みが確認されなかつたため、谷部としておく。谷肩部の落ち際から測って、幅60cm～350cmあり、全長約22mを検出した。途中交差するSD10・SD11より古い。遺物は須恵器・土師器が出土している。第10図35は須恵器長頸壺。37は須恵器壺、口径32.3cmを測り、口縁部が外反し端部が外傾して下方に引き出すもの。体部外面はタタキ後カキメ調整、内面は同心円文當て具である。38は土師器壺。口縁部が屈曲し端部を上方につまみ上げ、外端面は面をとり、中央が僅かに窪む。8世紀後半のもの。

33号溝（S D33、第4・7・10図、図版9）

B地区の中央部に位置する南北溝である。幅70cm～140cm、全長約15mを検出した。北端部はSD12に合流し、南端部はC区へ伸びる。深さは10cm～30cmを測り、覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。第10図47～49は須恵器双耳瓶。47・48は単孔、49は二孔の耳が付くもので、時期は9世紀末～10世紀前半にかけてのものである。

包含層出土遺物（第11図、図版15）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・青磁・伊万里が出土している。第10図52～58は須恵器杯A。口径は10.8cm～14.3cmのものがあり、底部外面を除く内外面はロクロナデ、底部外面はヘラ切り痕跡を消すためナデ調整となっている。62の底部外面にはヘラ記号があり、63の底部外面には「□人」の墨書きが残る。64～70は須恵器杯B蓋で時期は8世紀～9世紀前半である。口径は11.8cm～18.5cmを測る。73～75は珠洲壺。76は2.0cm幅に単目9条の珠洲擂鉢。13世紀中葉～14世紀第3四半期のものである。79は内面が黒色処理された土師器碗である。

第3項 C地区

35号溝（S D35、第5・7・12図、図版5・9・16）

C地区的南西隅を南西から北東に向かって直線的に流れ、中央部でカーブして東に折れる溝である。幅50cm～280cm、全長約45mを検出した。途中交差するSD36より古い。断面は不整形を呈し、覆土は粘質シルト。遺物は弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第12図86は6世紀代の須恵器甌か。内面に緑色自然釉がかかる。91は土師器の足鍋の脚。全面に煤が付着しており、時期は10世紀前半のものである。

16号土坑（SK16、第5・7図、図版5）

SD34の北側に位置する円形土坑である。規模は直径60cm、深さ12cm。断面は皿状を呈し、灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

17号土坑（SK17、第5・7図、図版5）

SD34の北側に位置する円形土坑である。規模は直径50cm、深さ5cm。断面は皿状を呈し、灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

包含層出土遺物（第12図、図版15・31）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・伊万里・越中瀬戸・金属製品が出土している。第15図97は須恵器杯身である。時期は7世紀第2四半期。107は体部外面にヘラ記号があり、透かし孔をもつ須恵器円筒鏡である。108は越中瀬戸の陶器皿。見込みに幕の印花と直接重ね焼きした裏がある。109は貝の文様を型どった伊万里の型押し成形による紅皿で18世紀末～幕末頃のものである。111は手づくね成形によるミニチュア土器。時期は5世紀後半のものである。117・118は銅鏡。117は波来鏡の開元通寶（初鈔621年）である。

第4項 D地区

37号溝（S D37、第5・8・13図、図版5・16・31）

D地区の北東隅を東西に直線的に流れ、調査区西端部手前でカーブして南に折れる溝である。幅100cm～330cm。全長約56mを検出し、両端とも発掘区外へ伸びる。断面は不整形を呈し、深さは10cm～25cm、覆土は粘質シルトである。遺物は須恵器・中世土師器・越中瀬戸・伊万里が出土している。第13図122～125は須恵器杯B。128は須恵器壺の口縁部、口径16.5cmで口頭部に細線の櫛描波状文が施される。時期は6世紀後半～7世紀前半のもの。130～132は非クロクロ成形の中世土師器皿。136はコンニャク印判の伊万里碗。体部外面に团鶴を描き、時期は18世紀後半である。

包含層出土遺物（第13図、図版16・31）

包含層からは須恵器・土師器・中世土師器・唐津・越中瀬戸・金属製品が出土している。第13図137～141は須恵器杯B。141は内底面にヘラ記号が残る。145は口径13.9cmの須恵器壺蓋、時期は8世紀後半のもの。147・148は土師器高杯の脚である。149は土師器小型壺。丸底・球胴の体部に口縁部が直線的に伸び、時期は5世紀中葉～後半のもの。151は中世土師器皿。口縁部内外面に油煙による炭化物が付着しており、灯明皿として使われたもの。152は底部削り出し高台の越中瀬戸の鉄釉皿である。153・154は銅鏡。153は錢貨名不明瞭。154は寛永通寶であり、一文銭で背無文。

第5項 E地区

37号溝（S D37、第6・8・14図、図版16・31）

E地区の中央部に位置する南北方向に流れる溝である。北端はD地区、南端はF地区に伸び、全長約50mを検出した。断面は不整形を呈し、深さは20cm～35cm。遺物は弥生土器・須恵器・珠洲・伊万里・金属製品が出土している。第14図158は須恵器甕。口縁部に櫛描波状文があり、時期は8世紀代のものである。159は珠洲擂鉢。2.6cm幅の原体に11条の卸目が隅無く施され、口縁端面に櫛描波状文を加飾として廻らしている。時期は14世紀後半～15世紀前半のものである。

55号土坑（SK55、第6・8・4図、図版5）

S D54の南側に位置する土坑である。S D37に切られているため、正確な外形は不明。断面は皿状を呈し、黄灰色～暗灰黄色シルトが堆積する。遺物は須恵器が出土している。

56号土坑（SK56、第6・8・14図、図版9）

S D55の東側に位置する土坑である。試掘トレンチにより、正確な外形は不明。断面は逆台形状を呈し、黄灰色～暗灰黄色シルトが主体的に堆積する。遺物は土師器が出土している。第14図168は口径15.4cmの土師器甕。体部外面に煤が付着している。

包含層出土遺物（第14図）

包含層からは須恵器・木製品・石製品が出土している。第14図167は近世荷札木簡か。

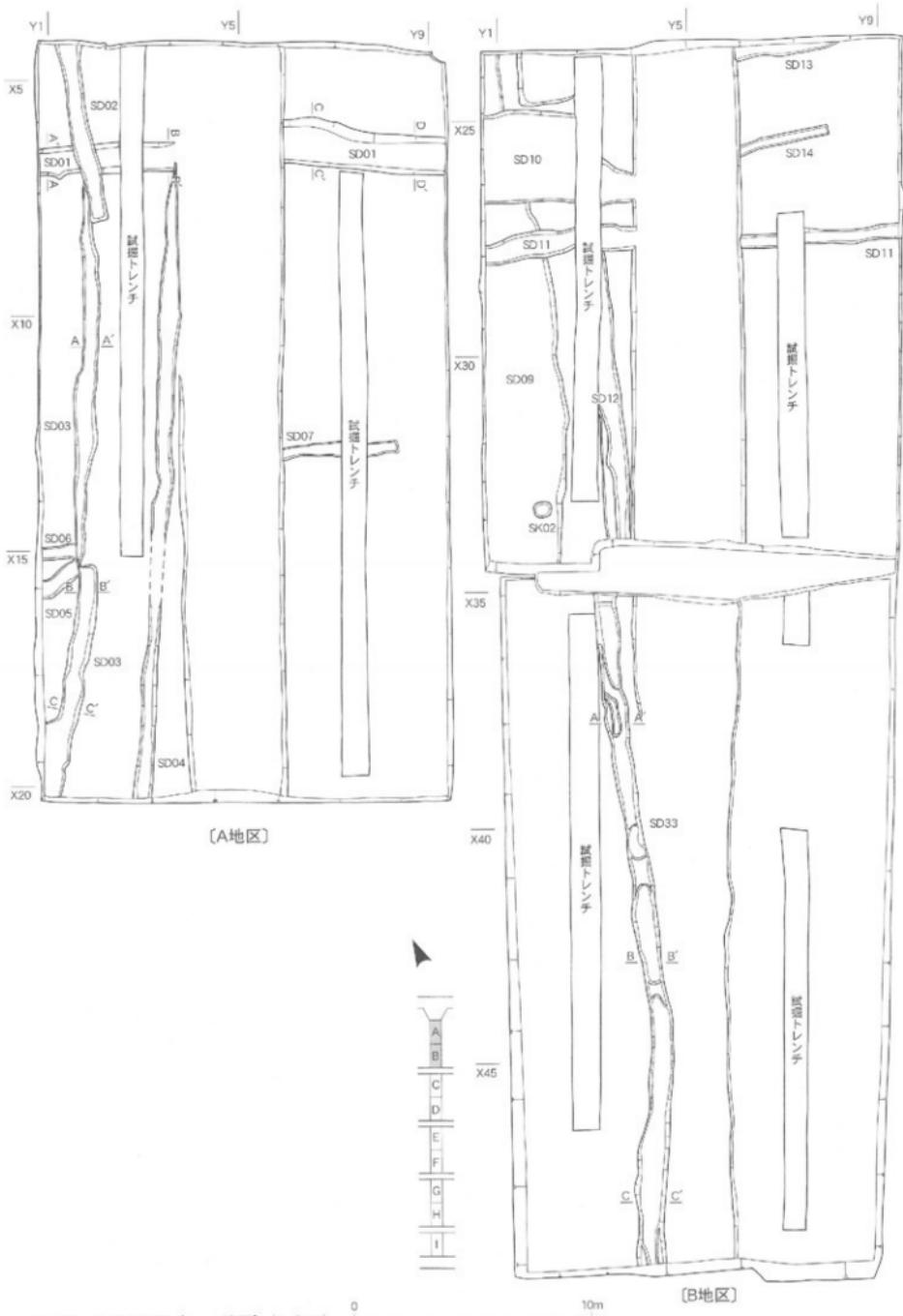
第6項 F地区

37号溝（S D37、第6・8・14図、図版16）

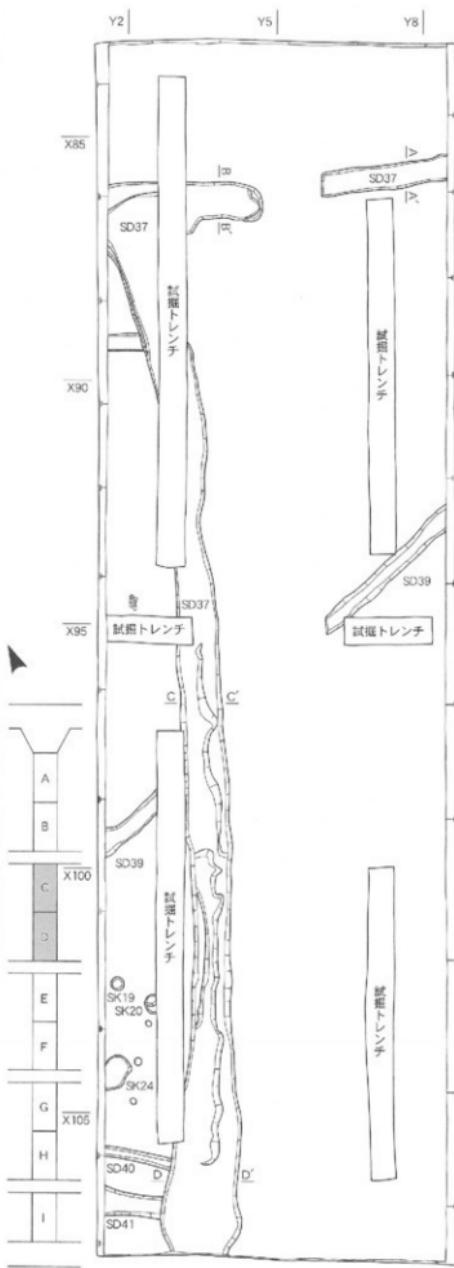
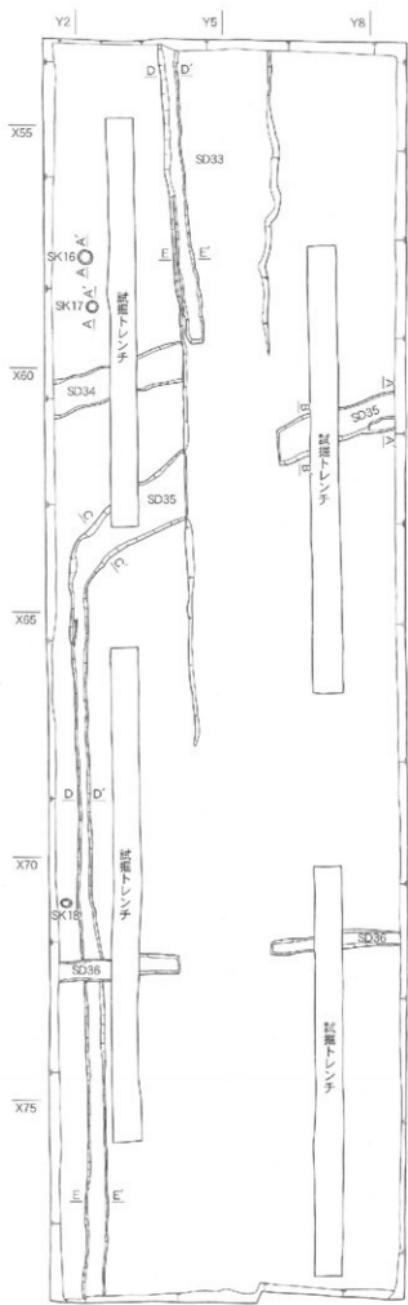
F地区の中央部に位置する南北方向に流れる溝である。D地区から伸びてきた溝も徐々に浅くなつて消滅し、南端は土坑状になる。全長約22mを検出した。断面は不整形を呈し、深さは7cm～30cm。遺物は須恵器・珠洲・石製品が出土している。第14図164は勾玉未製品である。171は口径14.4cmの須恵器壺蓋、時期は8世紀後半のもの。172は珠洲甕。外面頭基部より若干下がった位置から平行叩きを施すもので、時期は13世紀中葉～後半のものである。

包含層出土遺物（第14図）

包含層からは須恵器・金属製品が出土している。第14図181は首部、182は吸口部の銅製煙管。



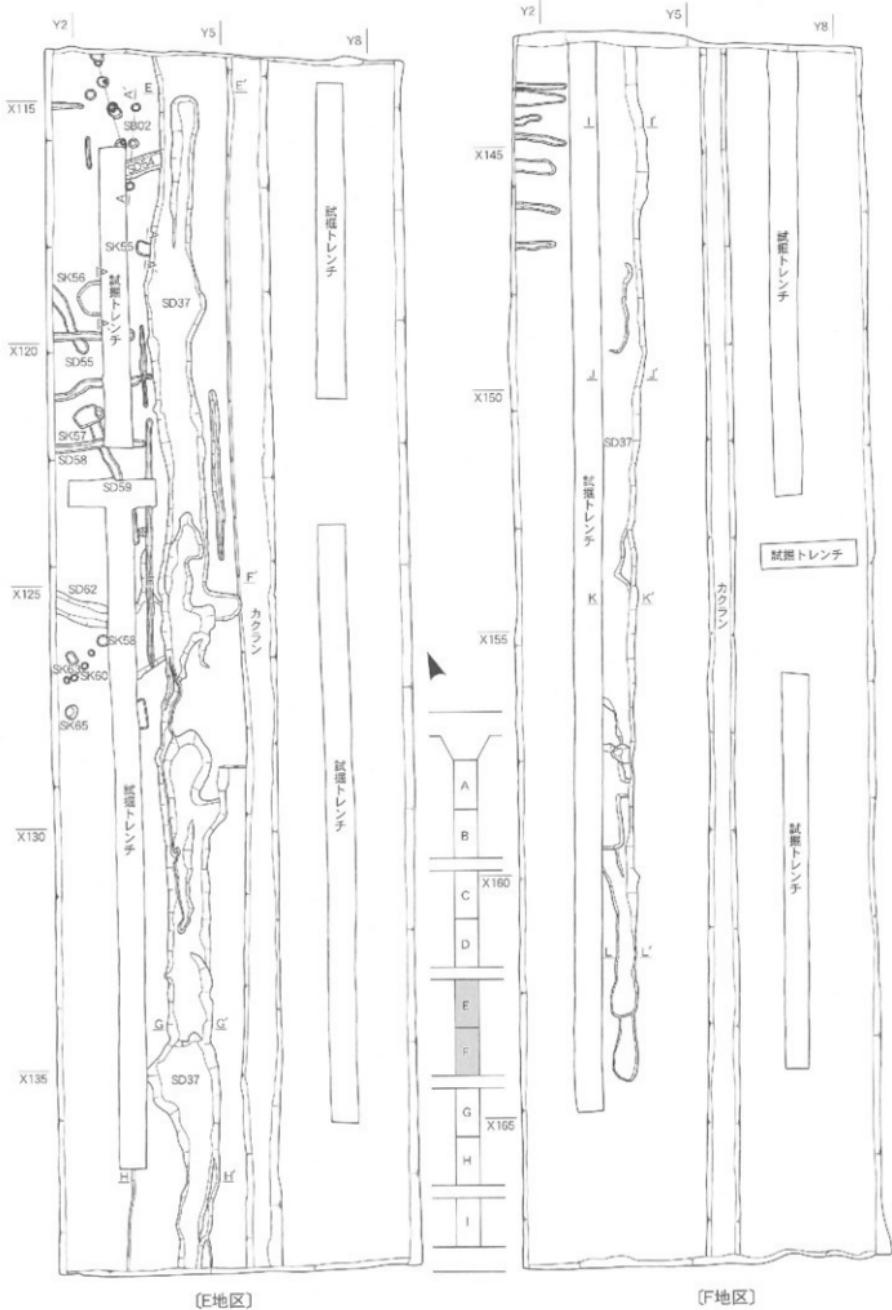
第4図 遺構実測図〔A・B地区〕(1/200)



[C地区]

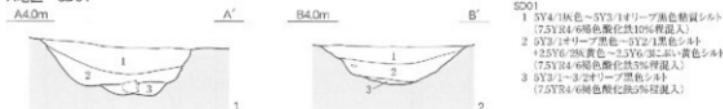
[D地区]

第5図 遺構実測図 [C・D地区] (1/200) 0 10m

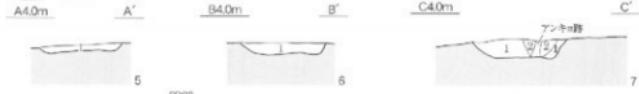


第6図 遺構実測図〔E・F地区〕(1/200)

A地区 - SD01



A地区 - SD03



B地区 - SD33



C地区 - SD33



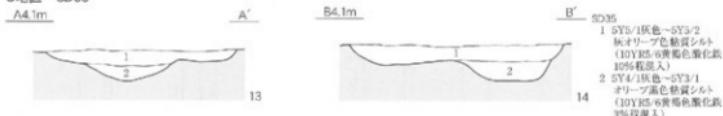
SD33(A-C)

1 5Y4/1灰色～5Y3/1オーリーブ色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色化鉄10%混入)
2 1層+5Y6/1～5Y6/2灰色粘質シルト30%程プロック状混入

SD33(D-E)

1 5Y4/1灰色～5Y3/1オーリーブ色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色化鉄10%混入)
2 1層+5Y6/1～5Y6/2灰色粘質シルト10%程プロック状混入
(10YR5/6黄褐色化鉄3%混入)

C地区 - SD35



SK16
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オーリーブ色粘質シルト
+5Y6/1灰色～5Y6/2灰オーリーブ色粘質シルト3%程プロック状混入
(10YR5/6黄褐色化鉄5%混入)

SK17
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オーリーブ色粘質シルト
+5Y6/1灰色～5Y6/2灰オーリーブ色粘質シルト10%程プロック状混入
(10YR5/6黄褐色化鉄10%混入)

C地区 - SK16



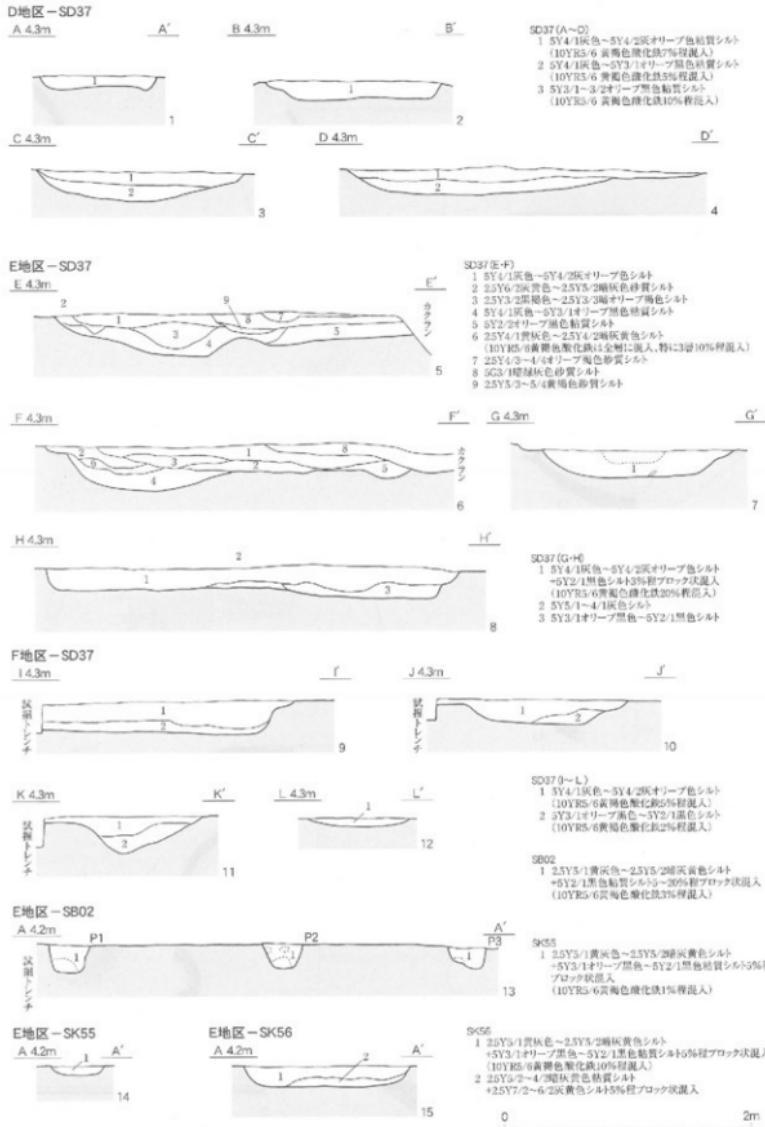
C地区 - SK17



0 2m

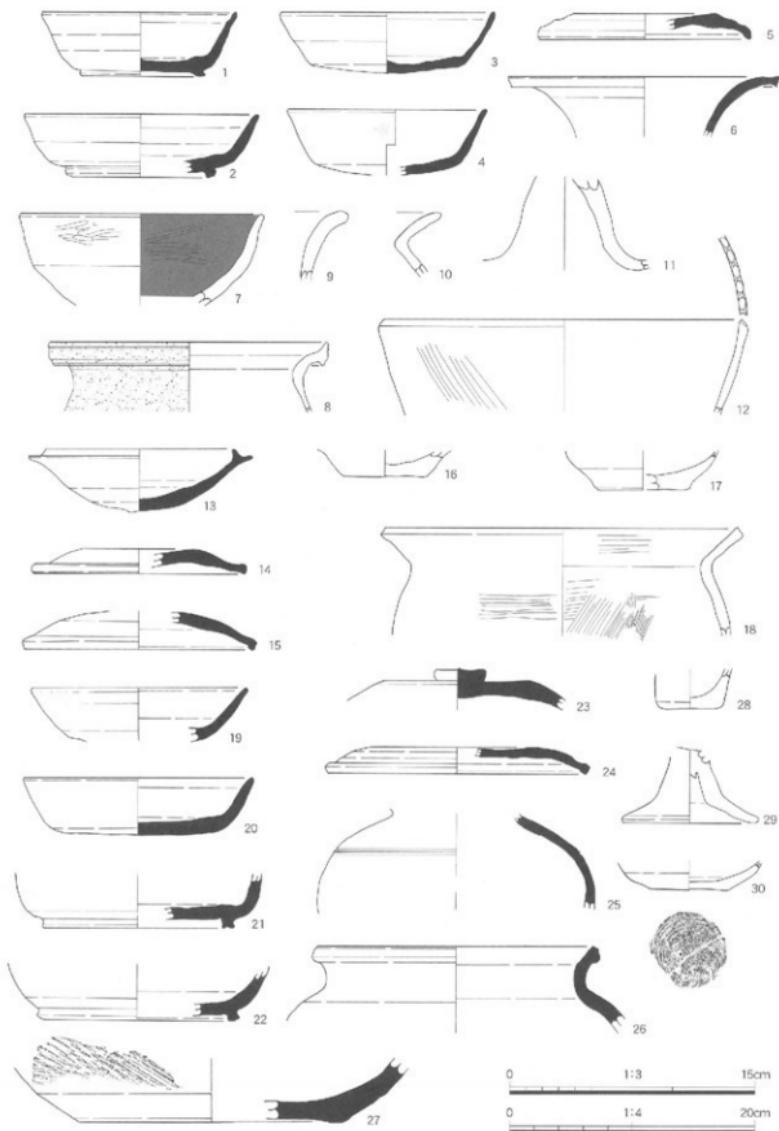
第7図 遺構実測図 [A・B・C地区] (1/40)

A地区 : SD01(1~4) SD03(5~7) B地区 : SD33(8~10) C地区 : SD33(11~12) SD35(13~17)
SK16(18) SK17(19)

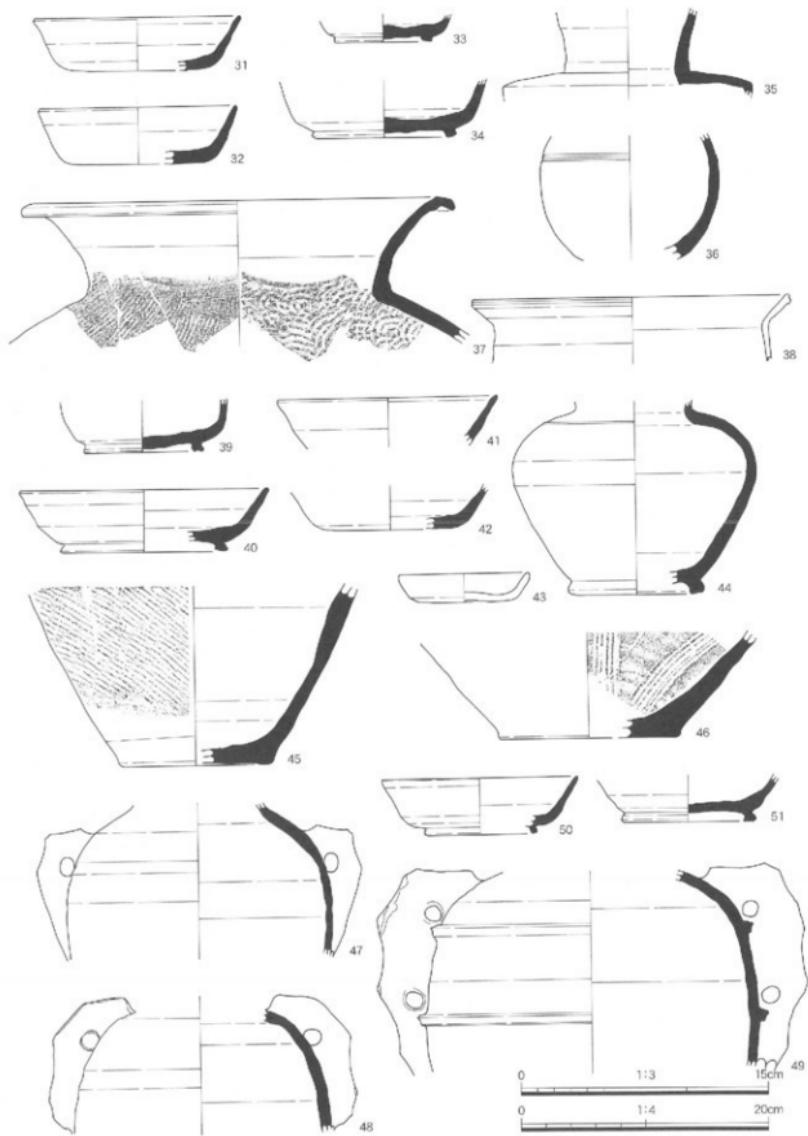


第8図 遺構実測図【D・E・F地区】(1/40)

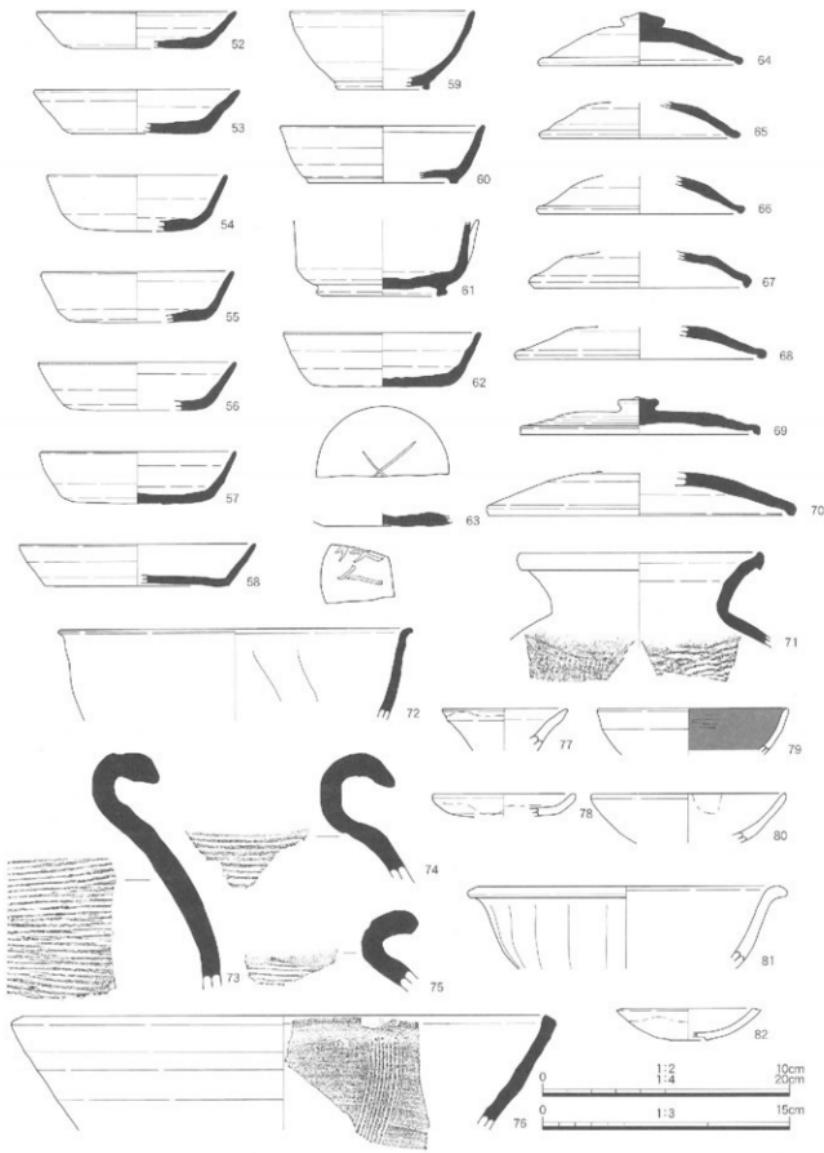
D地区 : SD37(1~4) E地区 : SD37(5~8) SB02(13) SK55(14) SK56(15) F地区 : SD37(9~12)



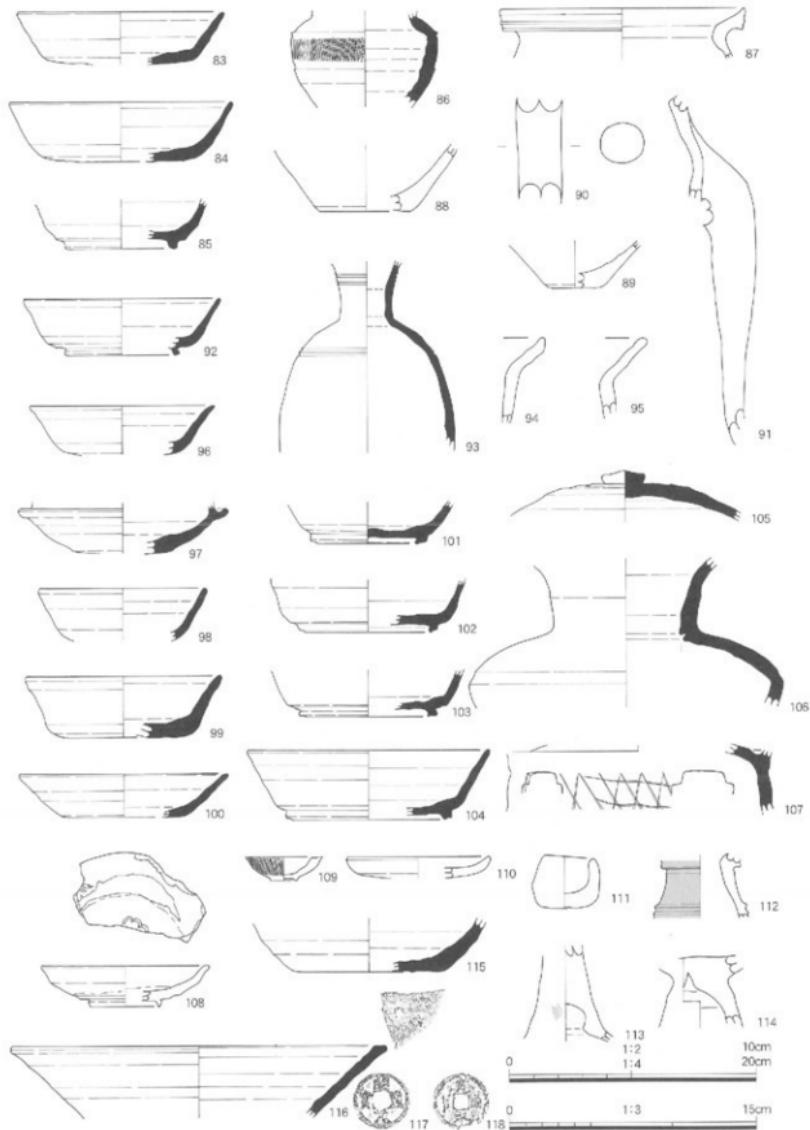
第9図 遺物実測図〔A地区〕(1~25・28~30 1/3, 26・27 1/4)
SD01(1~12) SD03(13~18) 包含層(19~30)



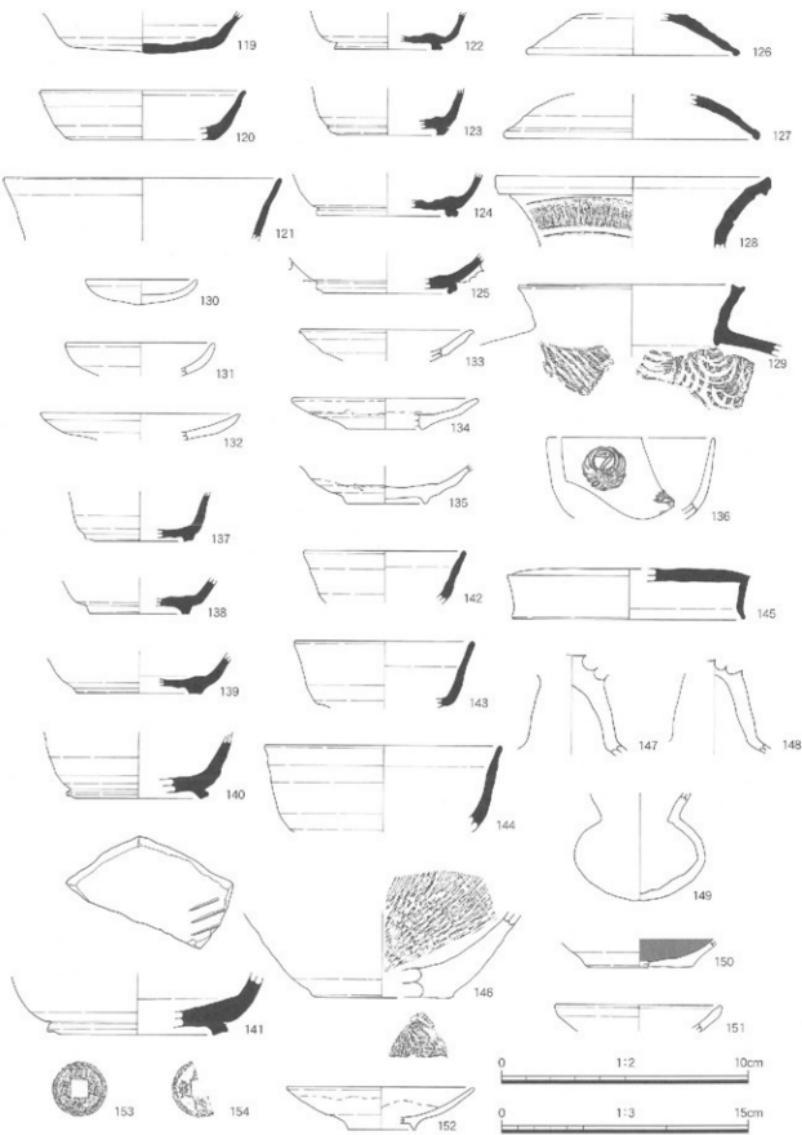
第10図 遺物実測図〔B地区〕(31~34・39~43・47~51 1/3, 35~38・44~46 1/4)
SD09 (31~38) SD10 (39~46) SD33 (47~51)



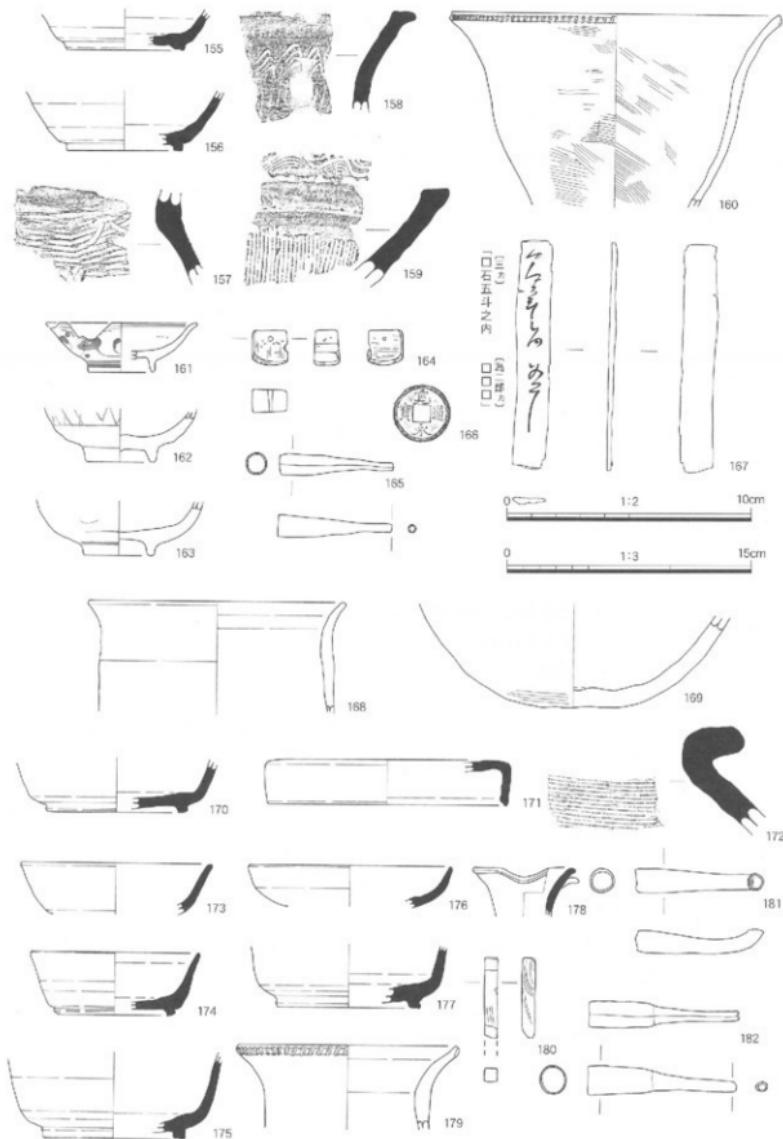
第11図 遺物実測図〔B地区〕(81・82 1/2, 52~70・73~80 1/3, 71・72 1/4)
包含層(52~82)



第12図 遺物実測図【C地区】(117・118 1/2, 83~114 1/3, 115・116 1/4)
SD35 (83~91) SD36 (92~95) SK18 (96) 包含層 (97~118)



第13図 遺物実測図〔D地区〕(153・154 1/2, 119~152 1/3)
SD37(119~136) 包含層(137~154)



第14図 遺物実測図 [E・F地区] (164~166・180~182 1/2, 155~163・167~179 1/3)

E地区: SD37 (155~163・165・166) SK56 (168) SD62 (169) 包含層 (167・173~175・180)
F地区: SD37 (164・170~172) 包含層 (176~179・181・182)

第3節 遺構と遺物（下層面）

第1項 A地区

18号溝（S D18、第15・20・25図、図版17）

A地区の北側に位置する南北方向の幅110～190cmの溝である。全長約3mを検出。北端は発掘区外へ伸びるが、南端はSD01に切られていることからSD01より古い。断面は不整形を呈し、深さは30cmを測る。覆土は灰白色～灰オリーブ色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第25図183は須恵器杯Aである。口径11.1cm、高さ3.3cmを測り、外底面にヘラ記号が残る。

24号溝（S D24、第15・20図、図版6）

A地区の南東側に位置する幅約60cmの溝である。北東～南西方向に直線的に伸び、全長約14mを検出。東端は発掘区外、西端はB区へ伸びる。断面は逆台形を呈し、深さは20cm～25cmを測る。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトである。遺物の出土はない。

包含層出土遺物（第25図、図版17）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲が出土している。第25図192は口径13.4cm、高さ3.3cmの須恵器杯Bである。時期は8世紀後半期のもの。194は珠洲壺。外面頸基部より若干下がった位置から平行叩きを施すもので、13世紀中葉～後半のものである。196は有段口縁のもの、197は口縁部が「く」の字状に外反するもの、共に土師器壺。時期は古墳時代前期のものである。

第2項 B地区

24号溝（S D24、第15・20図）

B地区の北東側に位置する幅50cm～70cmの溝である。北東～南西方向に直線的に伸び、途中少し途切れるものの全長約23mを検出。東端はA区、西端は発掘区外へ伸びる。途中交差するSD30より古い。断面は皿状ないし半円形を呈し、7cm～17cmの深さがあり、オリーブ黒色～黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

30号溝（S D30、第15・20図）

B地区の北側に位置する南北溝である。直線的に伸び、SD24を横切るあたりからカーブして南東に折れる。幅50cm～100cmで、全長約27mを検出した。両端とも発掘区外へ伸びる。深さは14cm～24cmを測り、覆土は灰色～オリーブ黒色シルトである。遺物の出土はない。

26号土坑（S K26、第15・20・25図、図版6）

B地区の南側に位置する不整形な土坑である。規模は長軸565cm、短軸175cm、深さ約28cmである。断面は皿状を呈する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第25図186は須恵器杯B。188は口径18.7cmを測り、有段口縁をもつ土師器壺。時期は古墳時代前期のものである。

包含層出土遺物（第25図、図版17・31）

包含層からは須恵器・土師器・中世土師器・土製品・金属製品が出土している。第25図198～200は須恵器杯A。198は底部ヘラ切り後未調整、焼成不良である。203は6世紀代の須恵器壺か。外面に暗緑色自然釉がかかる。204～206は須恵器杯B壺である。206は口径17.0cmを測り、やや背の高い擬宝珠形のつまみをもつ。208は土師器の器台脚部で内外面赤彩されている。209～211は非口クロ成形の中世土師器皿。212・213は管状土錐。214～216は銅鏡。214は北宋時代の渡米鏡で大觀通寶（初鑄1107年）。他は寛永通寶であり、一文鏡で背無文。

第3項 C地区

47号溝（S D47、第16・20・26図、図版6）

C地区の中央部に位置する東西方向の幅60～120cmの溝である。全長約16mを検出。両端とも発掘

区外へ伸びる。断面は皿状を呈し、深さは10cm程度と浅い。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第26図217は須恵器壺Aである。内底面にヘラ記号が残る。219は有段口縁の土師器壺である。

32号土坑（S K32、第16・20・26図）

S D47の北側に位置する不整形な土坑である。途中カクランにより分断されるが、規模は長軸550cm、短軸120cm、深さ約30cmである。断面は逆台形を呈し、灰色～オリーブ黒色シルトが主体的に堆積する。遺物は須恵器（杯・蓋）・珠洲甕が出土している。

40号土坑（S K40、第16・26図、図版18）

C地区の中央部に位置する格円形土坑である。S D47と重なるが前後関係は不明。規模は長軸300cm、短軸110cm、深さ約14cmである。遺物は弥生土器が出土している。第26図220は弥生土器の高杯か。221は弥生土器壺で、口径14.4cmを測る。擬凹線文を施す口縁部は、横ナデにより口唇面を形成し、上下へつまみ上げたようになる。外面は縦方向の刷毛目調整で下半に煤が付着している。時期は弥生時代後期後半のものである。

1号井戸（S E01、第16・20図、図版4）

C地区の北西側に位置する。掘形の平面が円形を呈する素掘井戸である。掘形の断面は下部がやや開くが、上部は円筒状を呈する。規模は直径約65cm、深さ65cmである。遺物は土師器が出土。

包含層出土遺物（第26図、図版18・19）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・土製品が出土している。第26図229は脚部に円孔をもつ弥生時代後期の器台。234～236は土師器壺。236は口径17.3cmの「く」の字窓で、外面が刷毛目調整。242は底部外面に墨痕が残る須恵器杯Bである。244は須恵器高杯。脚部に長方形の透かしがあり、時期は6世紀後半～7世紀前半のものか。246は管状土錘。249・250は土師器壺の底部で、ヘラ切り痕が未調整である。252・253は弥生土器の長頭壺。255は頂部を平たく柱状に仕上げた土師器蓋。時期は古墳時代前期のものである。256は壺を祖形とするミニチュア土器。259は弥生土器の器台脚部で、外面に赤彩が施される。円孔が横並び2穴1組で2箇所、時期は弥生時代後期のもの。

第4項 D地区

48号溝（S D48、第16・28図、図版6）

D地区の中央部に位置する南北溝である。幅70～100cm、全長約40mを検出。両端とも徐々に浅くなつて消滅し、土坑状になる。遺物は須恵器・土師器が出土している。第28図261は口径22.0cmの須恵器壺である。263は内面黒色処理された土師器碗。

51号溝（S D51、第16・20・28図、図版6・20）

D地区の南端部に位置する南北溝である。幅50～115cm、全長約7.5mを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。途中交差するS D50より古い。断面は逆台形ないし半円状を呈し、深さは27～37cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第28図265～267は弥生土器。265は壺の頭部である。外面に櫛搔横線文・短線文が廻り、時期は弥生時代中期のもの。266は壺か甕の口縁部で、口縁部内面に櫛搔羽状文が2条廻る。267は無頭壺。口径9.0cm、口縁部外面に櫛搔羽状文が1.5条廻る。弥生時代中期後半のものである。

包含層出土遺物（第28図、図版20）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・珠洲が出土している。第28図274は3.2cm幅に鉗目11条の珠洲描鉢である。幅広で溝の深い原体により、間隔をあけながら鉗目が施されている。13世紀中葉～14世紀第3四半期のものである。275は8世紀代の須恵器壺の口縁部である。口径45.0cmで口縁部に

断面三角形の凸帯を廻らし、その下に櫛描波状文が施される。277は弥生土器壺。口端部の内面に3条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。時期は弥生時代中期のものである。

第5項 E地区

70号溝（SD70、第17・31図、図版23）

E地区の北西隅に位置する幅90~130cmの溝である。全長約4mを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。断面は皿状で浅く、深さ約10cmである。遺物は弥生土器が出土している。第31図321は口端部内面に2条、外面頸部やや下に2条の櫛描短線文をもつ弥生土器の壺である。胴部外面に煤が付着している。時期は弥生時代中期のもの。

71号溝（SD71、第17・21・31図、図版7・10・23）

E地区の南西側に位置する東西溝である。幅140~250cmで、全長約5mを検出。SD72と平行に伸び、西端は発掘区外へ伸びる。断面は逆台形を呈し、深さ25~30cmである。覆土に炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土している。第31図325は弥生土器壺。口端部内面、胴上部外面に櫛描短線文、口端部外面に櫛描刻み目文をもつ。弥生時代中期のもの。

72号溝（SD72、第17・21・31図、図版7・10・23）

E地区の南西側に位置する東西溝である。幅150~180cmで、全長約5.3mを検出。SD71と平行に伸び、西端は発掘区外へ伸びる。東端はSD74に切られていることからSD74より古い。断面は逆台形を呈し、深さ約35cmである。覆土は灰色~オリーブ黒色シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第31図327は口径14.5cmの弥生土器の壺である。口端部は内面に1.5条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。胴部外面上に煤が付着している。弥生時代中期のもの。

73号溝（SD73、第17・21・30図、図版7・23・31）

E地区の中央部に位置する南北溝である。旧用水のカクランにより西側の溝肩が不明瞭である。全長約36mを検出。南端はF区へ伸びる。断面は概ね皿状を呈し、深さ25~38cmである。覆土は褐色~灰褐色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器・中世土師器・石製品・金属製品が出土している。第30図312・313は土師器壺の口縁部である。端部を巻き込む形態のもので、9世紀代のもの。314は非クロコ成形の中世土師器皿。内底面に煤が付着している。319はヒスイの勾玉である。320は唐時代の渡来鏡で開元通寶（初鎧621年）である。

76号土坑（SK76、第17・21・29図、図版4・7・21）

E地区の中央部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸330cm、短軸180cm、深さ42cmで、断面は逆台形を呈する。東側底面は一部テラス状に高くなる。覆土は灰色~オリーブ黒色シルトが主体的に堆積し、炭化物が混入する。遺物は弥生土器・石製品が出土している。第29図281~299は弥生土器で、時期はすべて弥生時代中期のものである。281~284は壺。282は口端部外面を波状にするもの、284は口端部に櫛描羽状文を廻らす貼付突帯をもつものである。285・286は口端部に櫛描羽状文を廻らす無頭壺。291~297は壺。291~294は口端部外面に櫛描刻み目文を廻らすもの、295~297は素文のものである。293は口端部内面に2条の半截竹管状の鋸歯文が廻る。294は底部が穿孔されている。ほぼ完形であり、外面は煤が付着している。298は口径18.2cmの台付鉢か。300は砥石。長さ26.4cm、幅17.0cm、厚さ4.9cmで、断面が長方形である。

81号土坑（SK81、第17・21・30図、図版10・11・22）

E地区の中央やや北側に位置する土坑である。旧用水のカクランのため、正確な外形は不明。断面は逆台形を呈し、深さは約34cmである。覆土は灰色~オリーブ黒色シルトが主体的に堆積し、炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土している。第30図301~311は弥生土器で、時期はすべて弥生時代

中期のものである。301～305は壺の口縁部。301は外面に1.5条の櫛描羽状文が廻り、その上に縦1条の貼付突帯が付く。垂下部は波状になる。303は口縁部内面に4条の櫛描短線文、その上に円形浮文、外面に櫛描刻み目文を廻らすものである。305は口縁部外面に櫛描交差文が廻る。310は頸部と胴部外向にヘラ描横線文・繩文・ヘラ描波状文が廻る壺である。東日本に系譜をもつものか。

90号土坑（SK90、第17・31図、図版4）

E地区南西部、SD72の南側に少し離れて位置する楕円形土坑である。規模は長軸150cm、短軸100cm、深さ28cmで、断面は半円状を呈する。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第31図322は口径13.2cmの弥生土器壺の口縁部である。口縁部外面に櫛描交差文が廻り、時期は弥生時代中期のもの。

包含層出土遺物（第31図、図版23・31）

包含層からは弥生土器・須恵器・珠洲が出土している。第31図330～333は須恵器杯B。336は須恵器長頸壺である。口縁部が外反して端部を上方につまみ上げるもの。337は珠洲擂鉢。内面に印花文が叩打されている。時期は13世紀中葉～14世紀第3四半期のものである。

第6項 F地区

73号溝（SD73、第17・22・32図、図版7・8・31）

F地区の中央部に位置する南北溝である。幅320～650cmで、全長約49mを検出。北端はE区、南端はG区へ伸びる。途中で東西方向に分岐し、発掘区外へ東流する溝と流路が分かれる。断面は不整形を呈し、最深で約160cmである。覆土には植物遺体の混入がみられ、溝底にクリ・ヒノキなどの自然流木も堆積している。遺物は須恵器・土師器・中世土師器・珠洲・石製品・金属製品・瓦・動物の骨が出土している。第32図342・343は須恵器杯H身。342は口径11.4cmを測り、受け部が内傾気味に立ち上がる。時期は7世紀前半のものである。344～346は須恵器杯A。350は櫛描波状文を廻らす須恵器壺の口縁部。352～354は珠洲・353は1.9cm幅に卸口8条の珠洲擂鉢。13世紀中葉～14世紀第3四半期のものである。357・358は土師器高杯の脚部。358は円形の透かしが4箇所穿孔されている。時期は古墳時代前期のもの。361・362は中世土師器皿。363・364は凹基式の打製石鎌である。365は北宋時代の渡来銭で紹聖元寶（初鑄1094年）。366は平瓦か。図版31-1は馬齒か。

80号溝（SD80、第17・22・33図、図版24）

F地区の中央やや南側に位置する東西溝である。幅70～120cmで、全長約5mを検出。西端は発掘区外へ伸び、東端はSD73に切られる。断面は不整形を呈し、深さ10～15cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器・珠洲・土製品が出土している。第33図368・369は7世紀前半の須恵器杯H身である。372は土師器壺の口縁部。端部を巻き込む形態のもので、9世紀代のもの。373は土製鋤錘車である。弥生土器片を円形に削り出し穿孔して、再利用したもの。374は口径22.2cmの珠洲壺の口縁部である。外向平行叩き、内面當て具痕を残す。

109号土坑（SK109、第17・22・33図、図版11・24）

F地区的北西部に位置する円形土坑である。規模は直径105cm、深さは86cm。断面が漏斗状を呈するため、井戸の可能性も考えられる。覆土はシルト～粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。第33図376～378は、胴部最大径を中位よりやや下方にもった下膨れの体部をもつ土師器壺である。時期は古墳時代前期のもの。376・377は胴部外面に煤・炭化物が付着している。378は口径12.1cmで、ほぼ完形。胴部の内外面がヘラ削りで、外面上部に刷毛目調整を施している。

包含層出土遺物（第33図、図版24）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第33図380は須恵器杯B。底部外面に

「波」の墨書きが残る。381～385は弥生土器である。381は壺の口縁部。口縁部内面に櫛描刻み目文を廻らす、弥生時代中期のもの。383は口径20.8cmの壺。口縁部内面に櫛描刻み目文が廻る。386は「く」の字口縁の土師器壺。外面に煤が付着し、時期は古墳時代前期のもの。387は土師器高杯の脚部。

第7項 G地区

73号溝 (S D73、第18・23・35図、図版26・31)

G地区の東側に位置する南北方向の溝である。幅6.8～10.5m、全長約50mを検出。北端はF区、南端はH区へ伸びる。旧用水のカクランや調査区境により溝肩が不明瞭である。調査区境が一段深くなっている、中央部やや西側が浅く平坦面を呈している。そこは、人為的に掘削されたというよりも、自然にオーバーフローして流れた跡のように、S D73より古い溝が溝底より検出される。深さは最深で約80cm、覆土はシルト～粘質シルトである。遺物は弥生上器・須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・伊万里・越中瀬戸・金剛製品が出土している。第35図409は口端部内面に4条の櫛描短綱文、外側に櫛描刻み目文をもつ弥生土器の壺である。時期は弥生時代中期のもの。413は口端部に櫛描羽状文を廻らす無頬壺。円形の透かしが横並び2穴1組で2箇所ある。417～420は非クロクロ成形の中世土師器皿。417・418は口端部外側に煤・炭化物が付着している。416は珠洲擂鉢。421は寛永通寶であり、背波文。423は底部に糸切り痕を残す越中瀬戸の陶器皿である。

83号溝 (S D83、第18・22・34図、図版8・26)

G地区の中央部やや北側に位置する溝である。幅80～360cm、全長約8mを検出。大きくカーブし、両端ともS D73に切られる。断面は概ね半円状を呈し、深さ20～45cm。遺物は弥生土器が出土している。第34図404は口端部外側に櫛描刻み目文をもつ弥生土器壺。東海地方に系譜をもつものか。

89号溝 (S D89、第18・22・34図、図版8・12・26)

G地区の中央部やや南側に位置する東西方向の溝である。幅140～240cm、全長約6mを検出した。西端は発掘区外へ伸びるが、東端はS D73に切られていることからS D73より古い。断面は皿状を呈し、深さは約20～25cmである。遺物は弥生土器が出土している。第34図402は口径7.4cmの弥生土器の無頬壺である。円形の透かしが横並び2穴1組で2箇所ある。胴部外側にはヘラ描横線文・ヘラ描刻み目文・繩文・ヘラ描波状文が廻る。弥生時代中期のもので、東日本に系譜をもつものか。

90号溝 (S D90、第18・34図)

G地区の南側に位置する東西溝である。幅180～270cm、全長約5mを検出。西端は発掘区外へ伸びるが、東端はS D73に切られていることからS D73より古い。S D91と途中交差するが、試掘トレンチにより新旧関係は不明。遺物は弥生上器が出土している。第34図407・408は弥生土器壺。407は頭部に突帯を貼り付け、ヘラ描横線文・半截竹管状の鋸歯文が廻る。408は口径21.6cmを測り、口端部内面に2条の櫛描羽状文、外側に櫛描刻み目文が廻る。ともに弥生時代中期のものである。

91号溝 (S D91、第18・24・34図、図版8・12・25・26)

G地区的南西部、S D89の南側に位置し、ほぼ直線的な南北溝である。幅80～140cmで、全長約12mを検出。北端は消滅し、南端はS D73に切られる。途中でS D90と交差するが新旧関係は不明。断面は逆台形を呈し、深さ46～53cmである。覆土は灰色～灰オリーブ色粘質シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・石製品が出土している。第34図391は肥厚する口縁部外側に1条の櫛描羽状文が廻る弥生土器の鉢である。392は口径12.4cm、高さ5.2cmの須恵器杯H蓋。天頂部にはクロ口割り、内面中央は仕上げナデが施される。時期は6世紀代である。393～396は土師器の高杯。395は杯部内面に黒色処理が施される。397は凸基式の打製石鎚。398・399は土師器碗である。398は内面に黒色処理が施され、時期は6世紀前半のものか。

3号掘立柱建物（S B03、第18・23図、図版3）

G地区の北端部に位置する。北西隅の柱穴が未確認であるが、3間×1間の南北棟側柱建物と思われる。桁行4.9m、梁行2.0m、平面積は9.8m²である。主軸方向はN-11°-Eである。柱穴は直径40~55cmの円形・楕円形を呈し、深さ10~50cmを測る。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。全ての柱穴に柱根が残る。第23図P4の柱根は長さ約70cmが遺存し、上部は腐食によってやせ細る。多角に面取りされた心去り材で、直径は約17cmを測る。小口面は多方面から斜め方向の切り込みが入る。樹種はスギである。柱穴からの出土遺物はない。

第8項 H地区

1号土器溝（S X01、第18・36・37図、図版12・27・28・29）

H地区の中央部やや西側、S D97の北側一帯に拡がる凹地状のものである。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第36図429・430は土師器の蓋。つまみ部分がやや凹み、頂部を小さく柱状に仕上げている。430は幅部径12.1cmである。431~443は土師器壺。有段口縁のもの、口頸部が「く」の字状に外反するものがある。胴部外面が刷毛目、内面はヘラ削りやナデで調整している。殆どの器壁に煤が付着。第37図444・445は土師器高杯。445は口径20.6cm、内外全面に赤彩を施し、脚部に円形の透かしが4箇所穿孔されている。446~450は土師器の器台。450は口径20.1cm、脚部外面に赤彩を施し、脚部3箇所・杯部4箇所に円形の透かしが穿孔されている。451・452は底部に穿孔を施す土師器有孔鉢である。453・454は土師器壺。453は「く」の字状口縁、454は有段口縁のものである。455は弥生時代終末期の壺。ほぼ完形で、底部に煤が付着している。

73号溝（S D73、第18・24・38図、図版13・30・31）

H地区の東側に位置する南北方向の溝である。幅4.0~10.0m、全長約50mを検出。北端はG区、南端はI区へ伸びる。途中で東西方向に分歧し、発掘区外へ東流する溝と流路が分かれる。断面は皿状を呈し、最深で約50cmである。オーバーフローして流れていた為か、S D73より古い時期の遺構が溝底より検出される。覆土はシルト～粘質シルト。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・中世土師器・石製品・金属製品が出土している。第38図462・463は永楽通寶（初鋤1408年）。465は板石塔婆、466は五輪塔水輪。最大径が胴部中央にあり、梵字「パン」を刻印。14世紀末~15世紀前半のもの。

97号溝（S D97、第18・24・38図、図版8・30）

H地区の中央部に位置する東西方向の溝である。幅170~250cm、全長約6mを検出した。西端は土坑状になり消滅するが、東端はS D73に切られていることからS D73より古い。断面は皿状を呈し、深さは約25~30cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが主体的に堆積し、植物遺体も混入する。遺物は弥生土器が出土している。第38図467は口径15.0cmの弥生土器壺。口端部内面に3条の櫛描短線文、外面向て櫛描刻み目文が廻る。頸・肩上部外面は櫛描短線文、櫛描横線文が交互に廻る。468は口端部を厚くして櫛描羽状文を施す弥生土器の鉢。ともに弥生時代中期のもの。

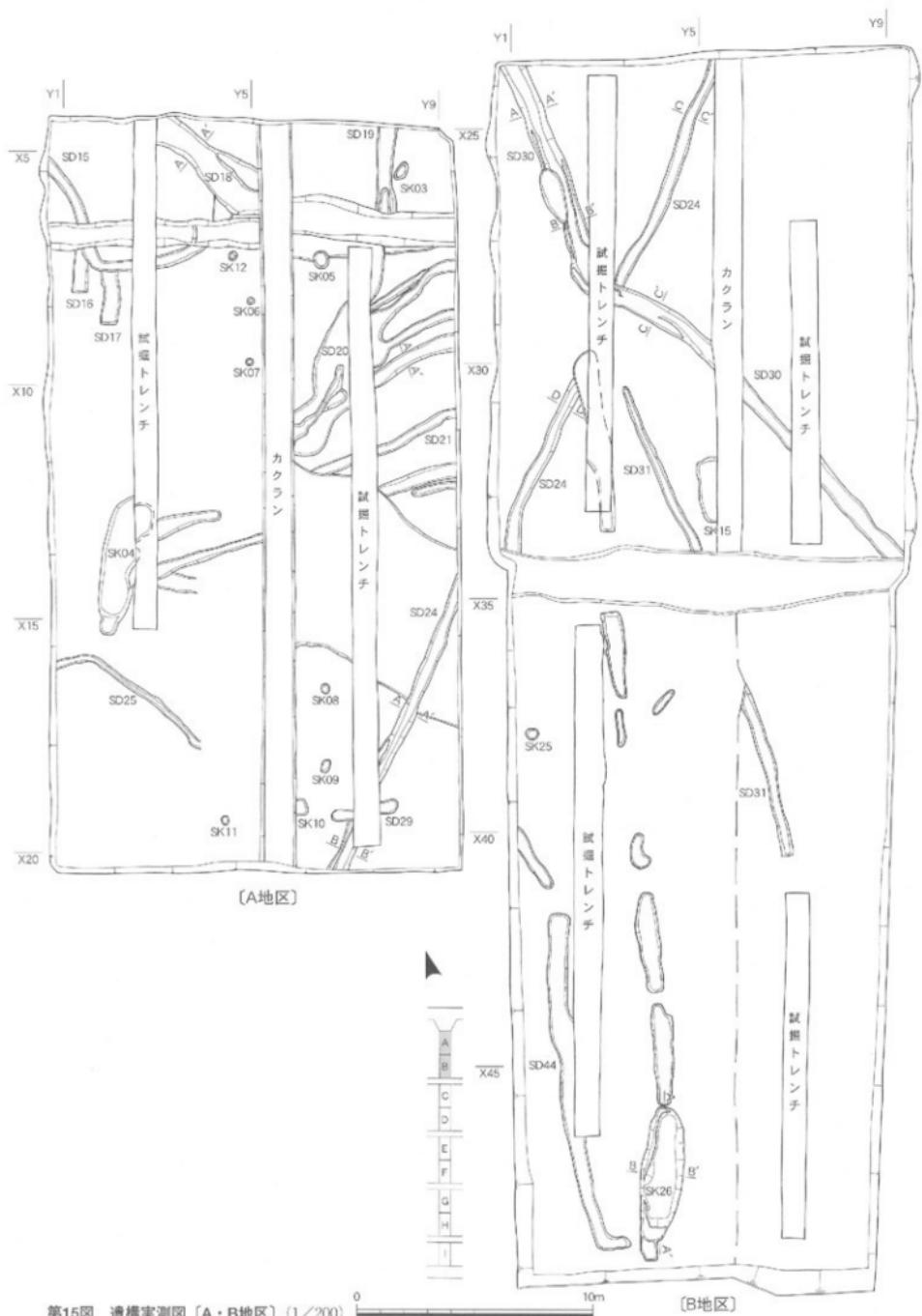
151号土坑（S K151、第18・38図、図版30）

H地区の北東部、S D73のテラス上に位置する円形土坑である。規模は直径65cm、深さ10cmで、断面は皿状を呈する。遺物は弥生土器が出土している。第38図469は弥生時代中期の壺である。

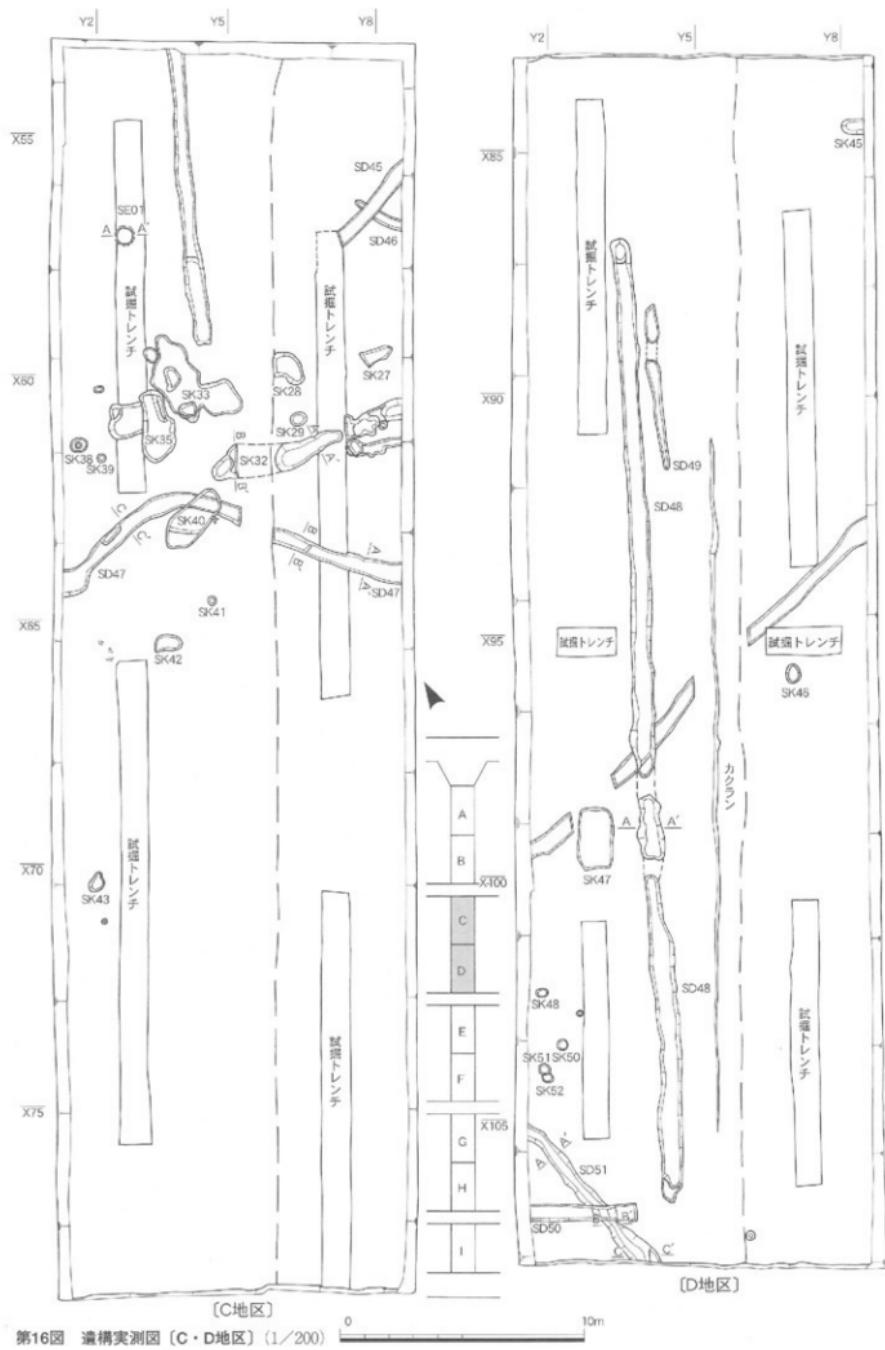
第9項 I地区

168号土坑（S K168、第19図）

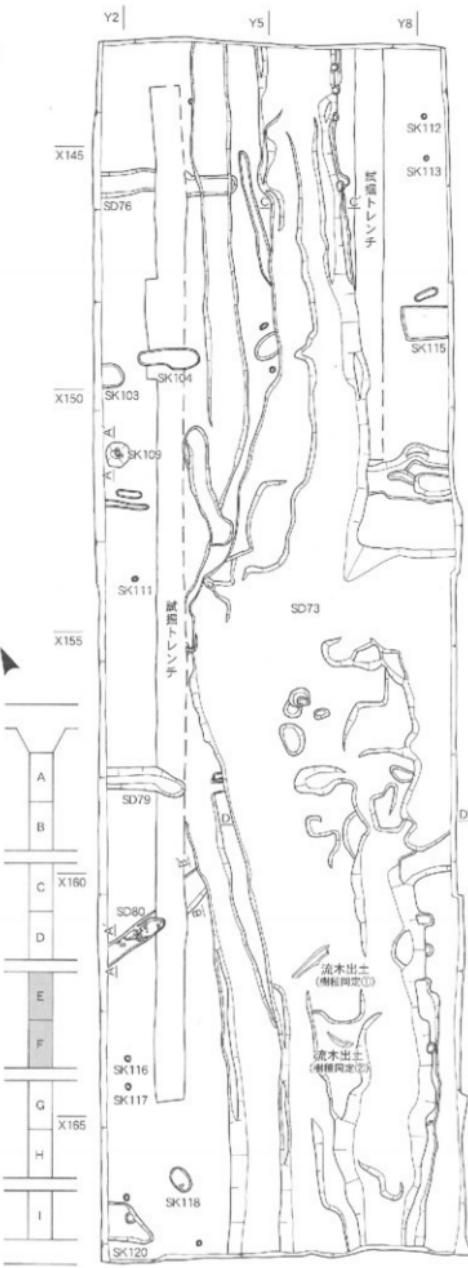
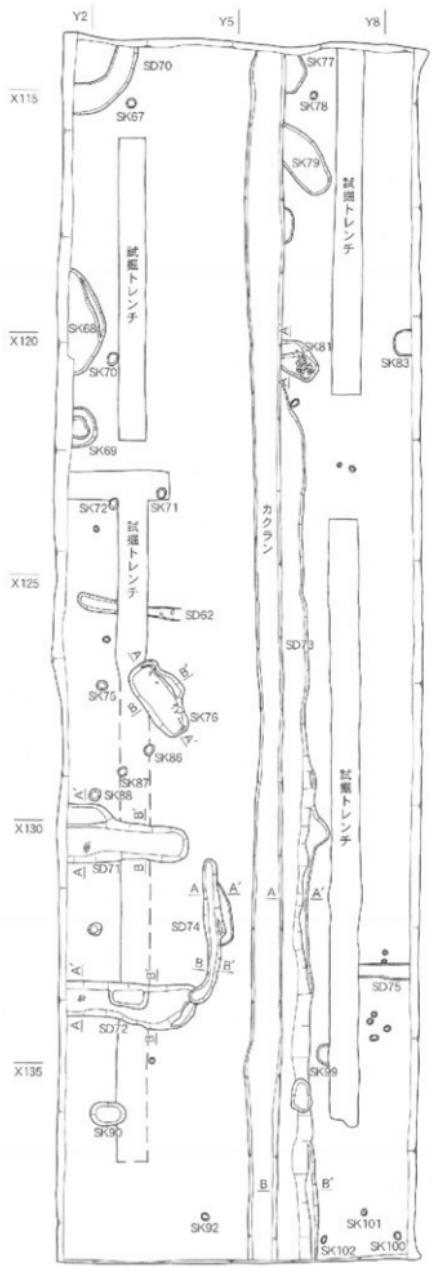
I地区の南西部に位置する不整楕円形の土坑である。規模は長軸280cm、短軸205cm、深さは約40~56cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は灰色～灰オリーブ色シルトが堆積し、炭化物が混入する。遺物は土師器が出上している。



第15図 遺構実測図 [A・B地区] (1/200)

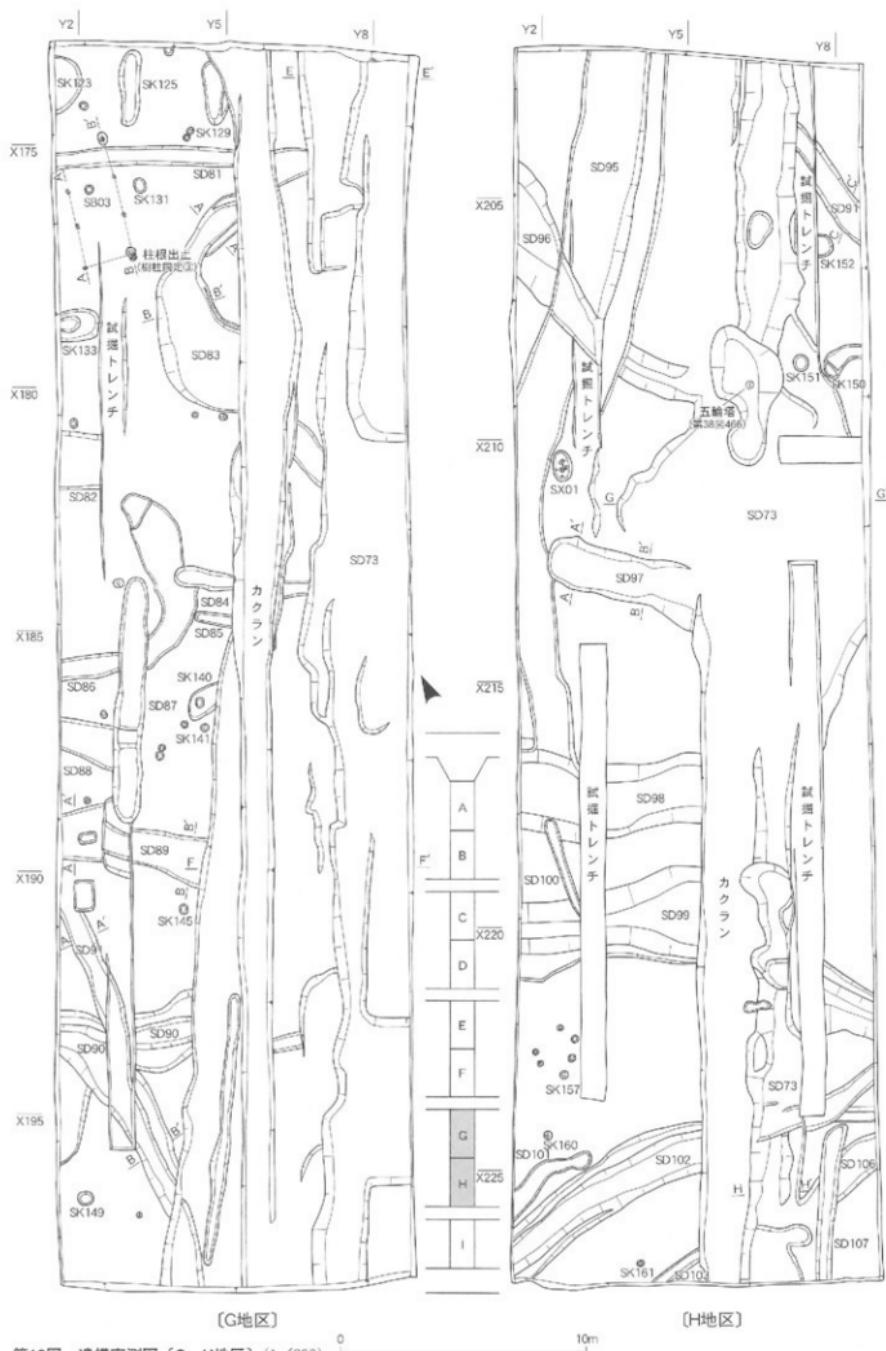


第16図 遺構実測図【C・D地区】(1/200)



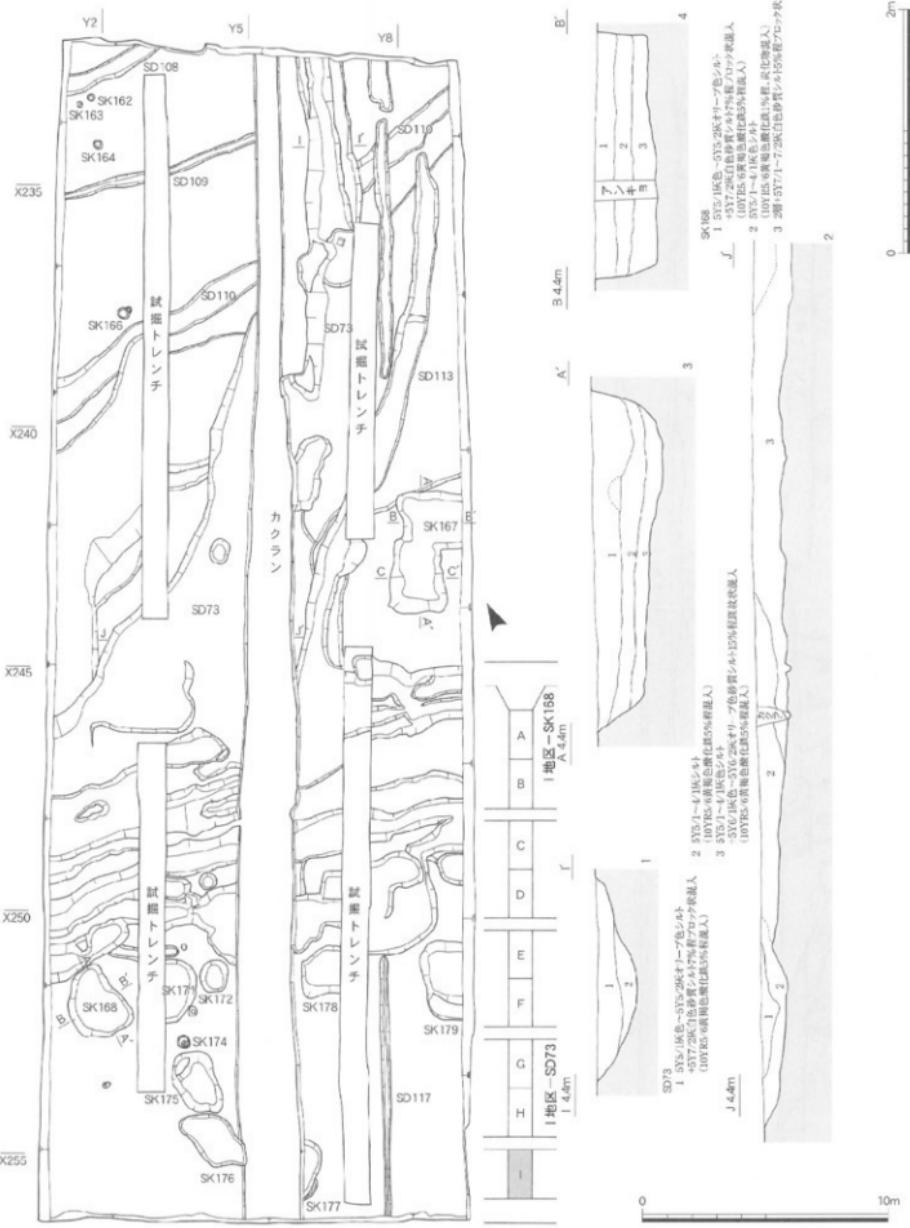
第17図 遺構実測図 [E・F地区] (1/200)

0 10m



第18図 遺構実測図 [G・H地区] (1/200)

A horizontal scale bar with tick marks every 2 units, labeled '0' at the left end and '10m' at the right end.



第19図 遺構実測図 [I地区] (1/200, 断面図1/40)
I地区: SD73(1・2) SK168(3・4)

A地区 - SD24

A 3.9m



A'

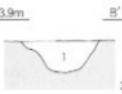
A地区 - SD24

A 3.9m



A'

B 3.9m



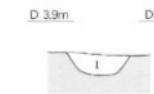
B'

C 3.9m

B地区 - SD24

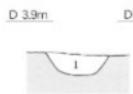
SD18
1 5Y4/1灰色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄5%混入)
2 1層+5Y7/2灰白色~5Y6/2灰オーブー色シルト5%鉄底部に混入
3 5Y7/2灰白色~5Y6/2灰オーブー色シルト

SD24 [C-D]
1 5Y4/1オーブー色シルト~5Y2/1黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄3%混入)
2 7.5GY6/1~5Y1緑灰色シルト



C'

D 3.9m



D'

B地区 - SD30

A 3.7m



A'

B 3.7m



B'

B地区 - SD24

SD26
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(5Y6/1灰色~5Y6/2灰オーブー色シルト5%鉄混入
2 1層+5Y6/1灰色~5Y6/2灰オーブー色シルト5%鉄ブロック状・植物根付混入
3 5Y2/1黑色粘質シルト



C'

A'

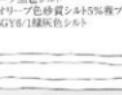
B地区 - SK26

A 3.9m



A'

B 3.9m



B'

B地区 - SD24

SK26
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(5Y6/1灰色~5Y6/2灰オーブー色シルト5%鉄混入
2 1層+5Y6/1灰色~5Y6/2灰オーブー色シルト5%鉄ブロック状・植物根付混入
3 5Y2/1黑色粘質シルト



C'

A'

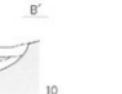
C地区 - SK32

A 3.9m



A'

B 3.9m



B'

C地区 - SK32

SK32(A)
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄6%鉄混入)
2 1層+7.5G7/7/1明灰色シルト+20%鉄ブロック状混入
(10YR5-6黄褐色酸化鉄5%鉄混入)

SK32(B)
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄6%鉄混入)
2 5Y6/1~5Y1灰色シルト+5Y6/2灰オーブー色シルト+10%鉄ブロック状混入
3 1層+5Y6/1灰色~5Y3/2灰オーブー色シルト+50%鉄質根糸混入



C'

A'

C地区 - SK32

SK32(A)
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄6%鉄混入)
2 1層+7.5G7/7/1明灰色シルト+20%鉄ブロック状混入
(10YR5-6黄褐色酸化鉄5%鉄混入)

SK32(B)
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄6%鉄混入)
2 5Y6/1~5Y1灰色シルト+5Y6/2灰オーブー色シルト+10%鉄ブロック状混入
3 1層+5Y6/1灰色~5Y3/2灰オーブー色シルト+50%鉄質根糸混入



C'

A'

C地区 - SD47

A 3.9m



A'

B 3.9m



B'

C地区 - SD47

SD47
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト



C'

A'

D地区 - SD51

A 4.0m



A'

B 4.0m



B'

D地区 - SD51

SD51
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄5%鉄混入)
2 5Y2/1黑色粘質シルト



C'

A'

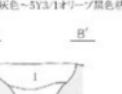
C地区 - SK32

A 3.9m



A'

B 3.9m



B'

C地区 - SK32

SK32
1 5Y4/1灰色~5Y3/1オーブー黑色粘質シルト
(10YR5-6黄褐色酸化鉄6%鉄混入)
2 1層+7.5G7/7/1明灰色シルト+20%鉄ブロック状混入
(10YR5-6黄褐色酸化鉄5%鉄混入)



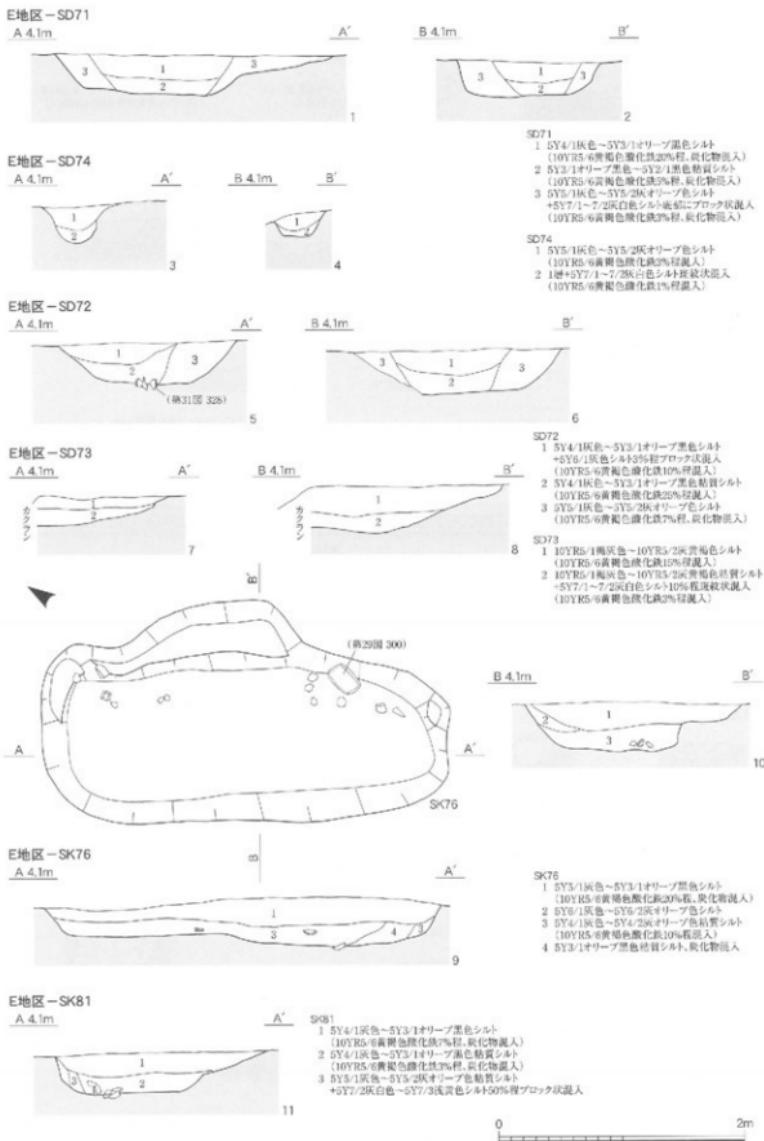
C'

A'

第20回 遺構測定図 [A・B・C・D地区] (1/40)

A地区 : SD18(1) SD24(2・3) B地区 : SD24(4・5) SD30(6~8) SK26(9・10)
C地区 : SK32(11・12) SD47(13~15) SE01(16) D地区 : SD51(17~19)

0 2m

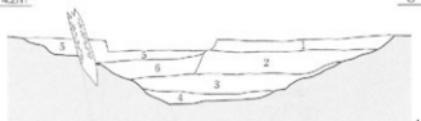


第21図 遺構実測図 [E地区] (1/40)

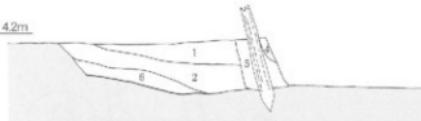
E地区 : SD71 (1・2) SD74 (3・4) SD72 (5・6) SD73 (7・8) SK76 (9・10) SK81 (11)

F地区 - SD73

C 4.2m

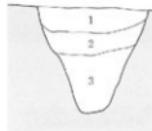


D 4.2m



F地区 - SK109

A 4.3m



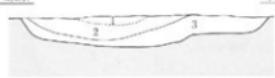
G地区 - SD83

A 4.3m



G地区 - SD89

A 4.4m



SD73(C)

- 1 5Y5/1灰褐色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 2 1W+5Y7/1～7灰白色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 3 5Y4/1灰褐色～5Y4/2灰白色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト5%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 4 5Y4/1灰褐色～5Y3/1リーブ紫色シルト
+5Y6/1～5/1灰色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 5 5Y7/1～7/2灰白色シルト
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 6 5Y4/1灰褐色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト20%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)

- 7 5Y2/1リーブ黑色～5Y2/1頭白色シルト
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 8 5Y5/1灰褐色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト5%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 9 5Y7/1～7/2灰白色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)

SD73(D)

- 1 10YR5/1褐色灰～10YR5/2灰黃褐色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト20%程混入
- 2 5Y5/1～1灰褐色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト4%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 3 5Y4/1灰褐色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト20%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)

SK109

- 4 5Y7/1～7/2灰白色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)
- 5 5Y2/1リーブ黑色～5Y2/1頭白色シルト
(10YR5/6黄褐色顔化鉄10%混入)



F地区 - SD80

A 4.3m



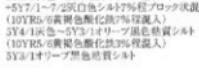
SD80

B 4.3m



SK109

B 4.3m



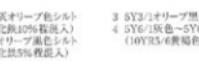
SD83

B 4.3m



SD83

B 4.3m



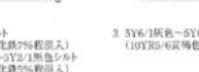
SD89

B' 4.4m



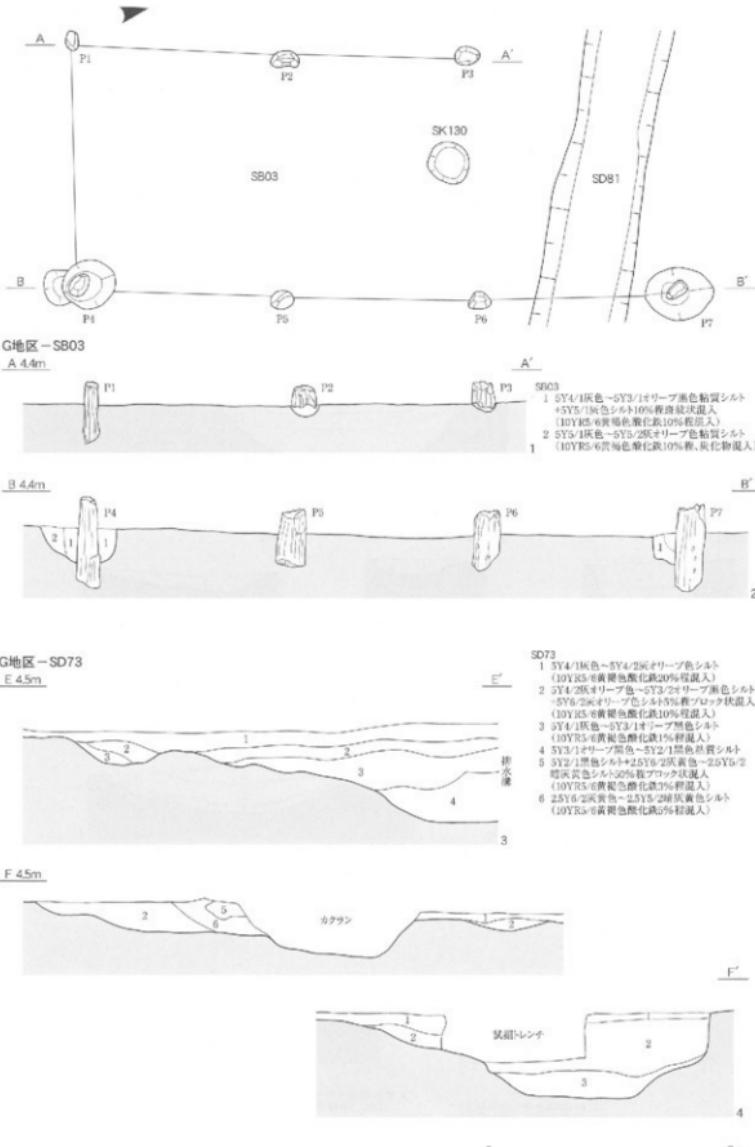
SD89

B' 4.4m

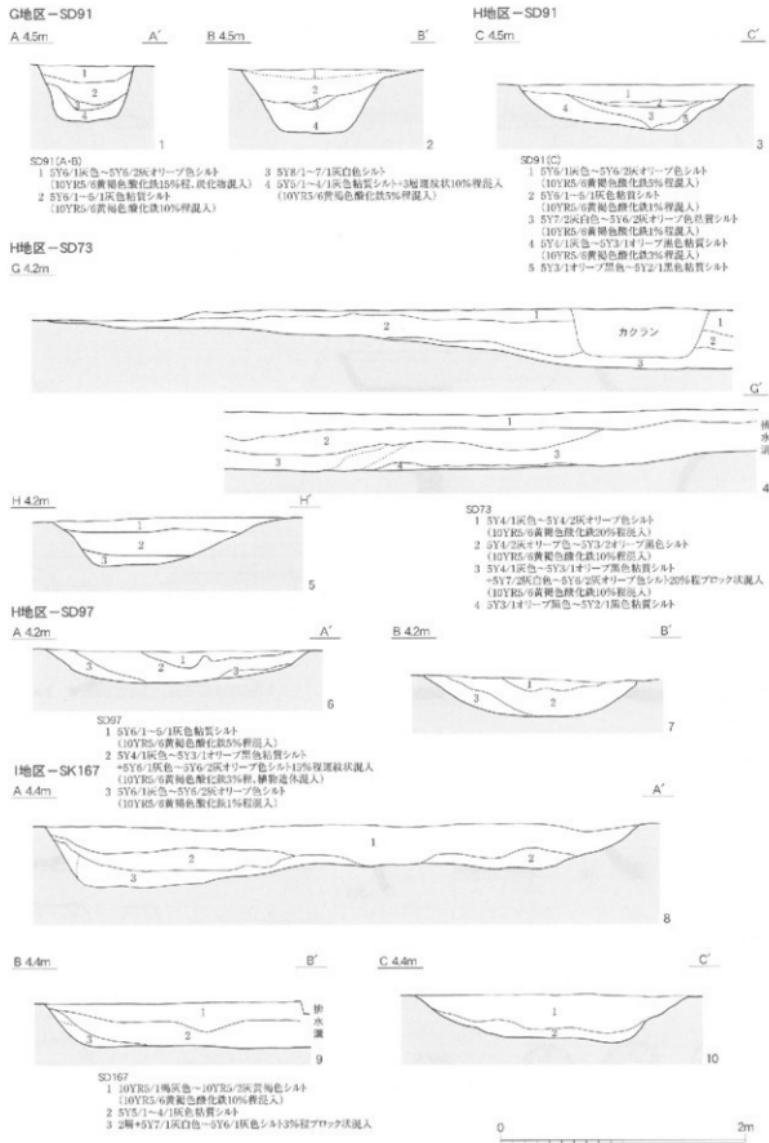


第22図 遺構実測図〔F・G地区〕(1/40)

F地区 : SD73 (1・2) SK109 (3) SD80 (4・5) G地区 : SD83 (6・7) SD89 (8・9)

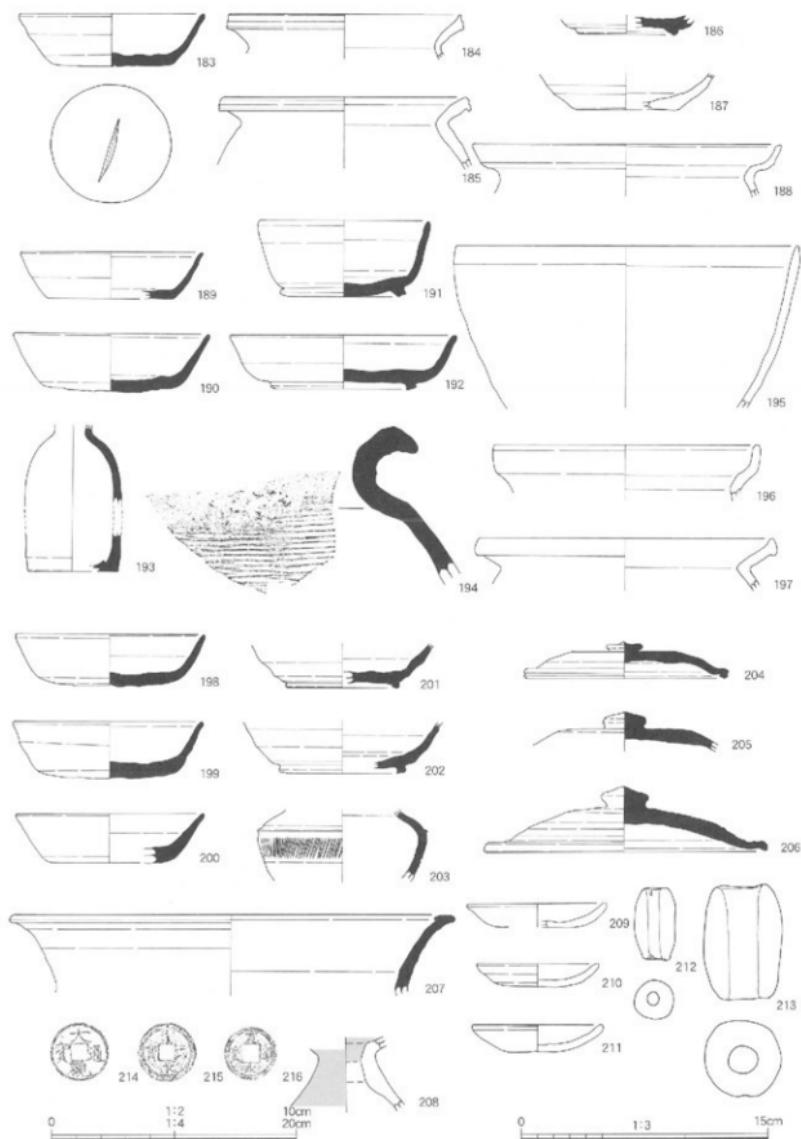


第23図 遺構実測図 [G地区] (1/40)
G地区: SB03(1・2) SD73(3・4)

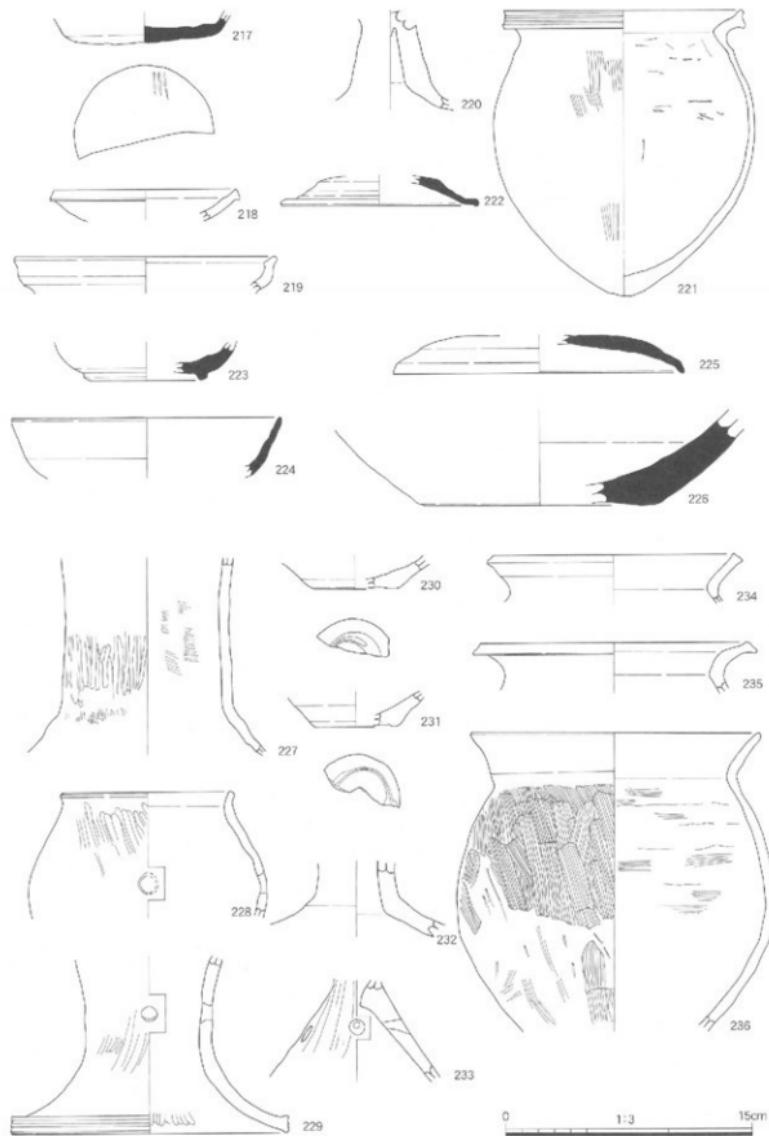


第24図 遺構実測図 [G・H・I地区] (1/40)

G地区 : SD91(1・2) H地区 : SD91(3) SD73(4・5) SD97(6・7) I地区 : SK167(8~10)

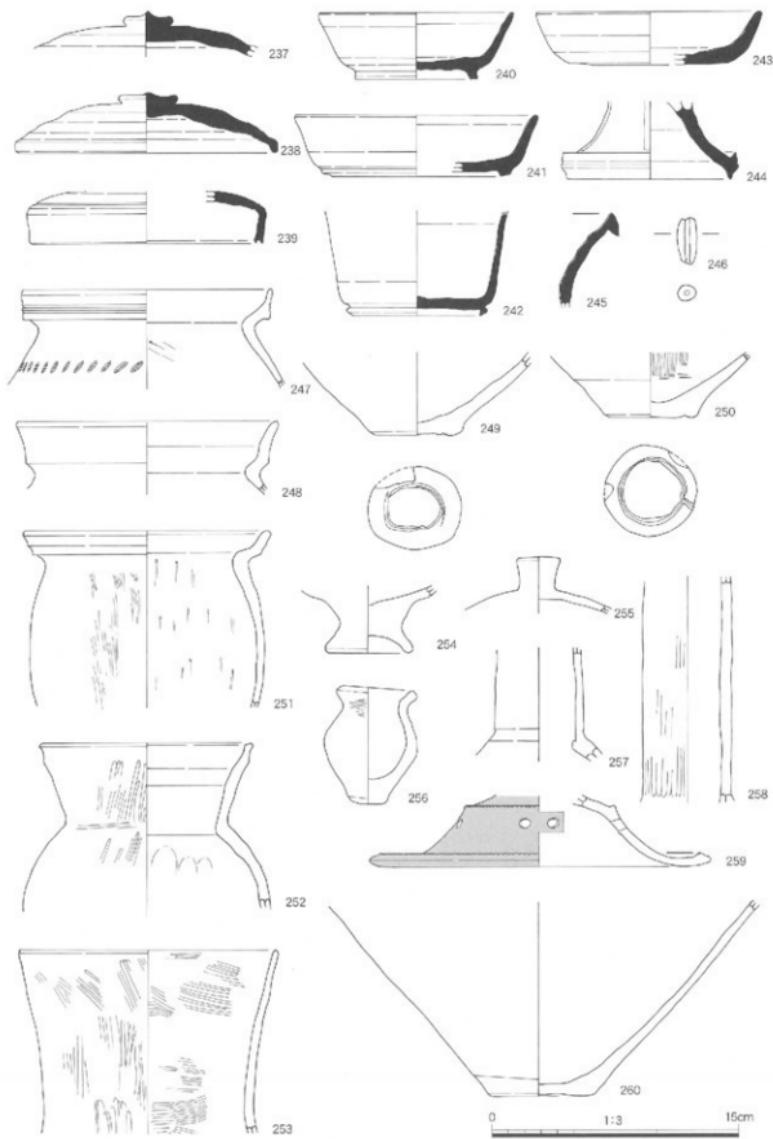


第25図 遺物実測図【A・B地区】(214~216 1/2, 183~186・194~196~213 1/3, 184~185・195 1/4)
A地区: SD18(183) SD20(184・185) SK26(186~188) 包含層(189~197) B地区: 包含層(198~216)

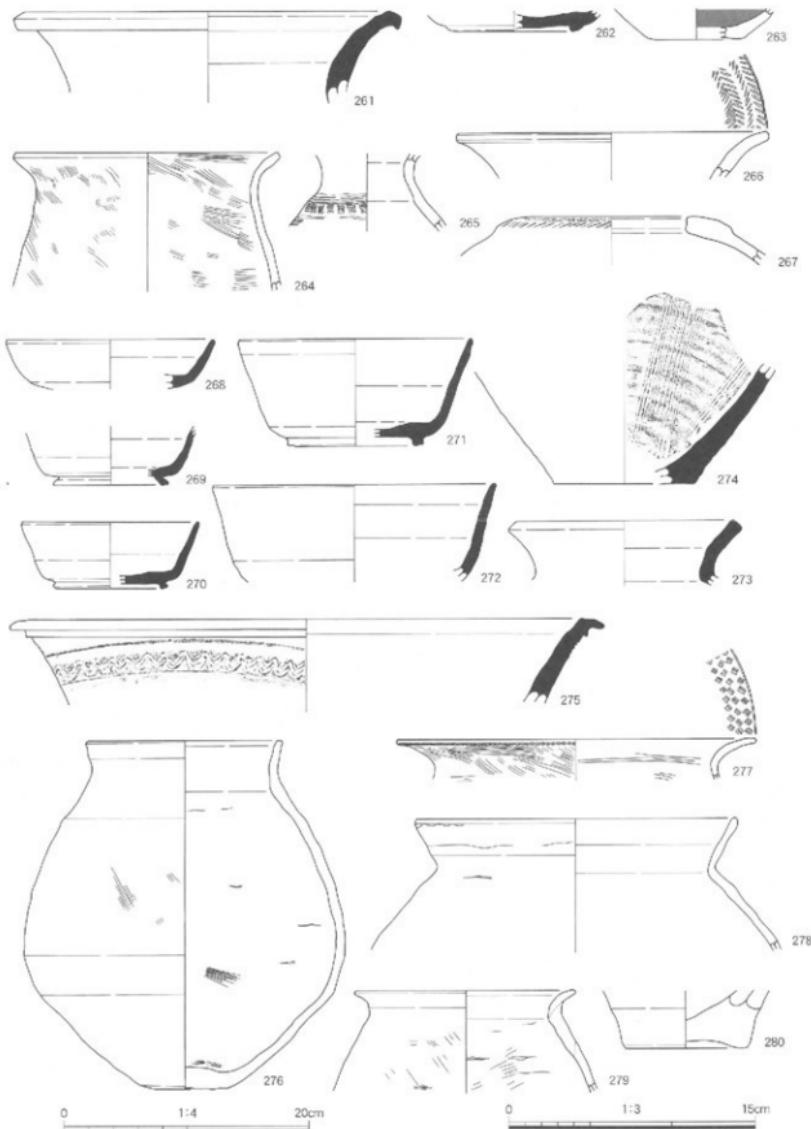


第26図 遺物実測図〔C地区〕(1/3)

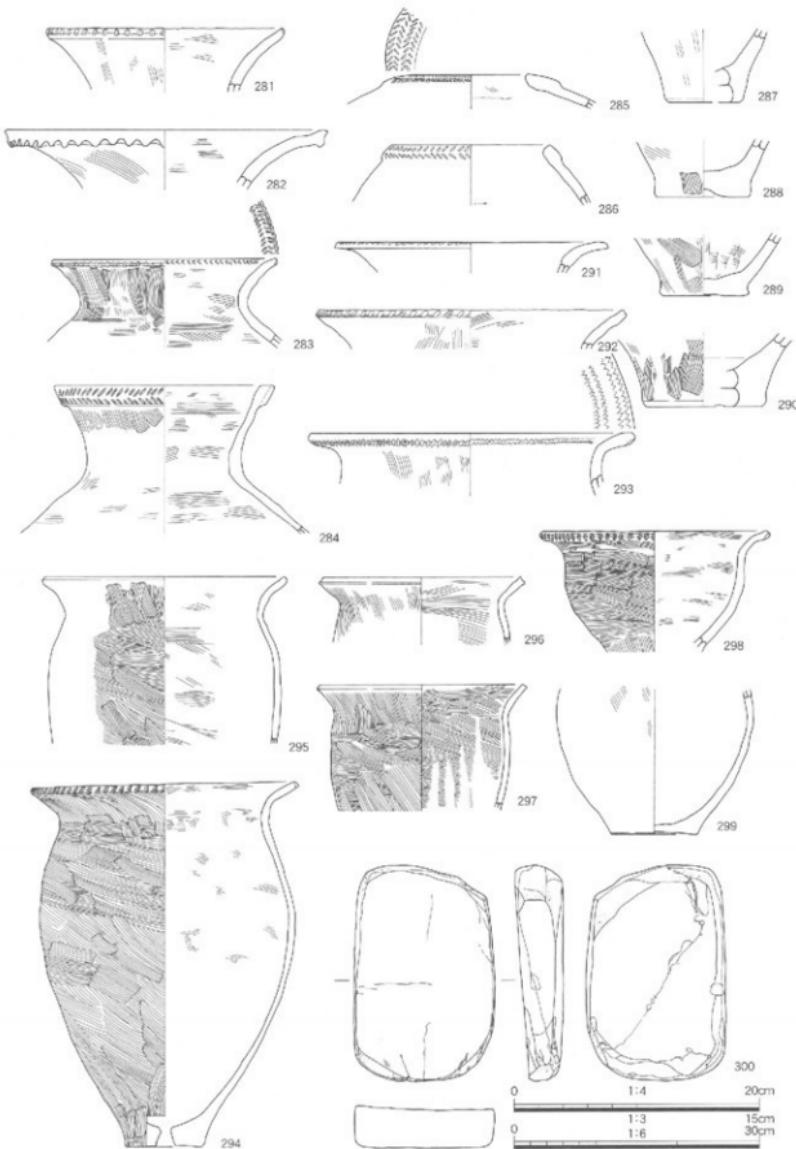
SD47 (217~219) SK32 (223~226) SK35 (222) SK40 (220・221) 包含層 (227~236)



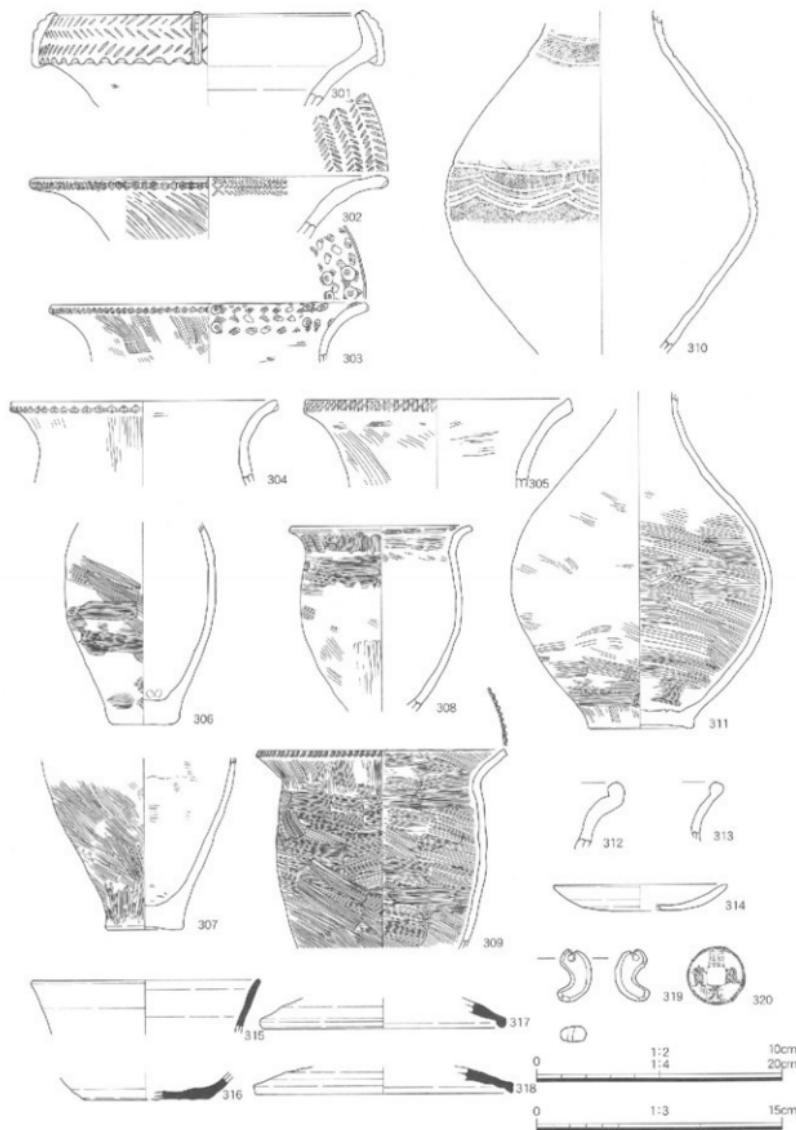
第27図 遺物実測図【C地区】(1/3)
包含層(237~260)



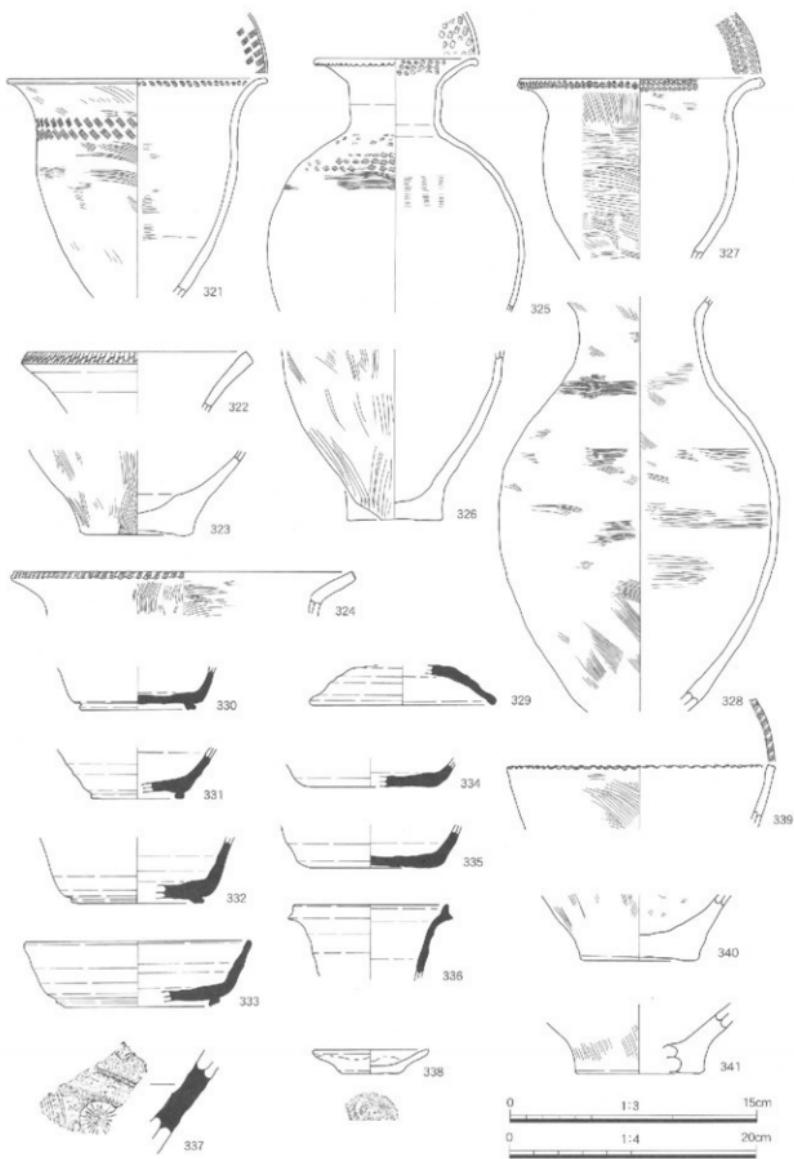
第28図 遺物実測図〔D地区〕(261~273・280 1/3, 274~279 1/4)
SD48 (261~263) SD51 (264~267) 包含層 (268~280)



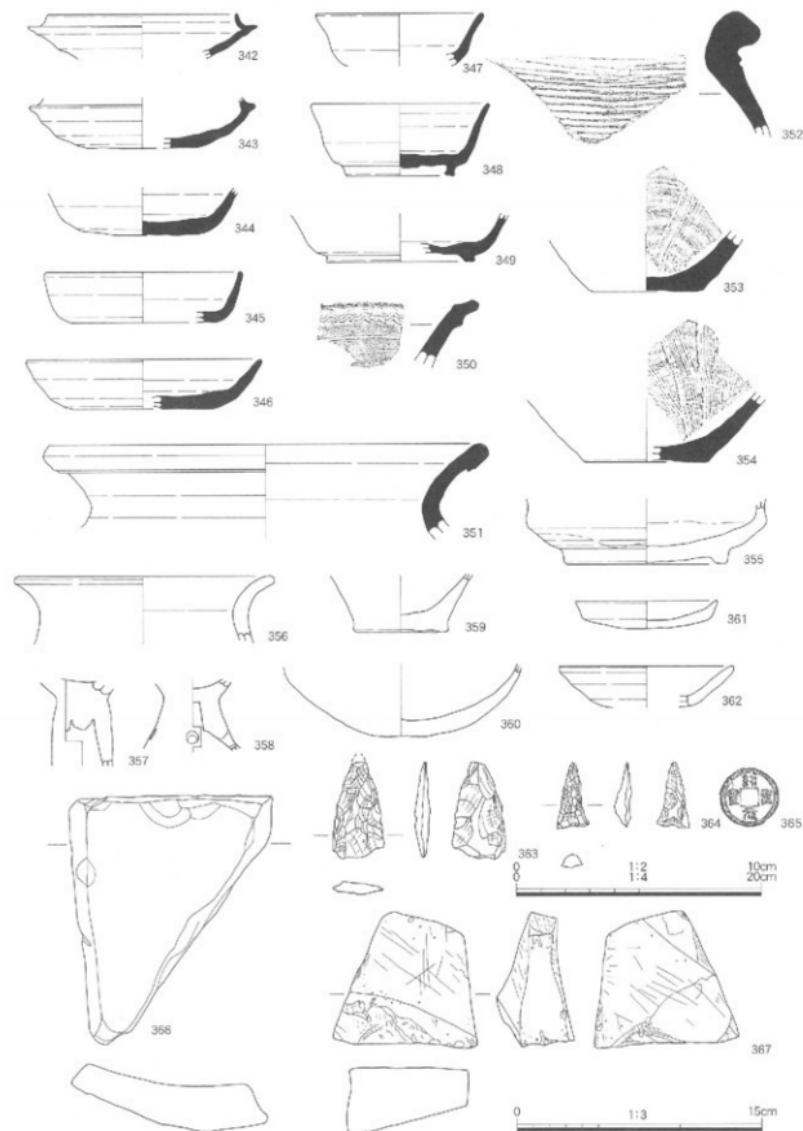
第29図 遺物実測図〔E地区〕(281・282・285~293 1/3, 283・284・294~299 1/4, 300 1/6)
SK76 (281~300)



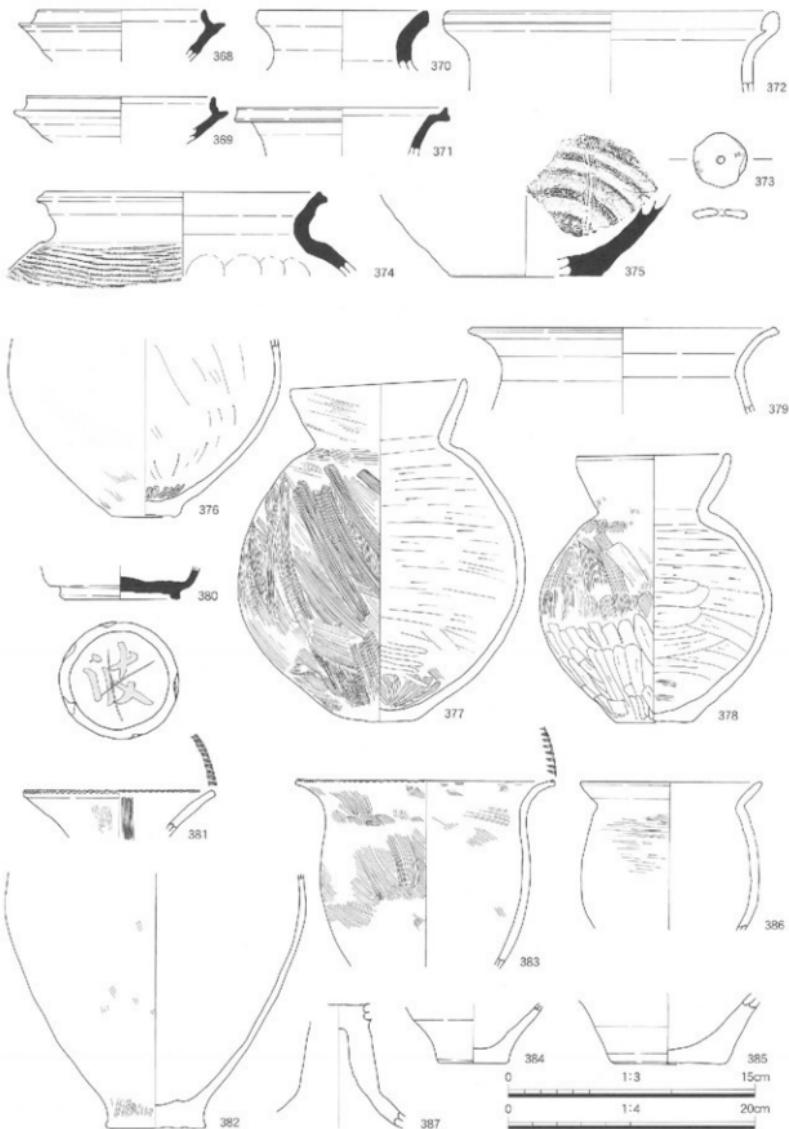
第30図 遺物実測図〔E地区〕(319・320 1/2, 301~305・312~318 1/3, 306~311 1/4)
SK81(301~311) SD73(312~320)



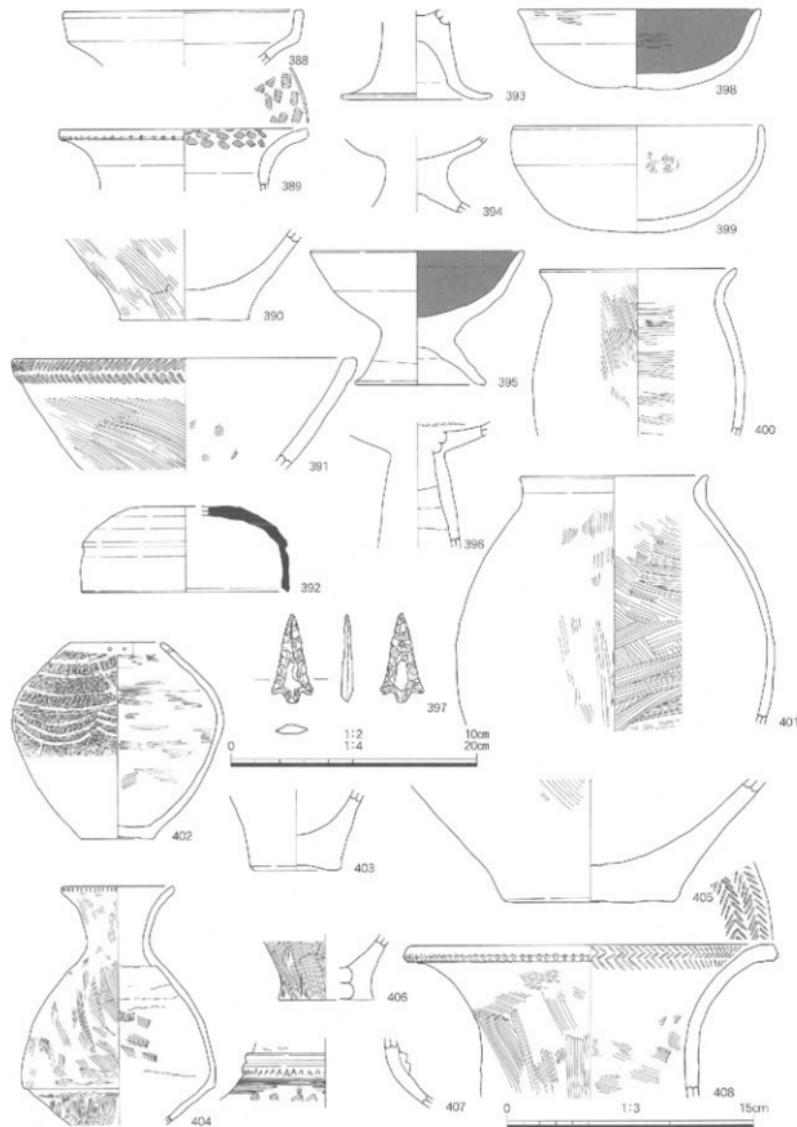
第31図 遺物実測図【E地区】(321~324・326・327・329~341 1/3, 325・328 1/4)
 SD70 (321) SD71 (325・326) SD72 (327・328) SD74 (329) SK90 (322~324) 包含層 (330~341)



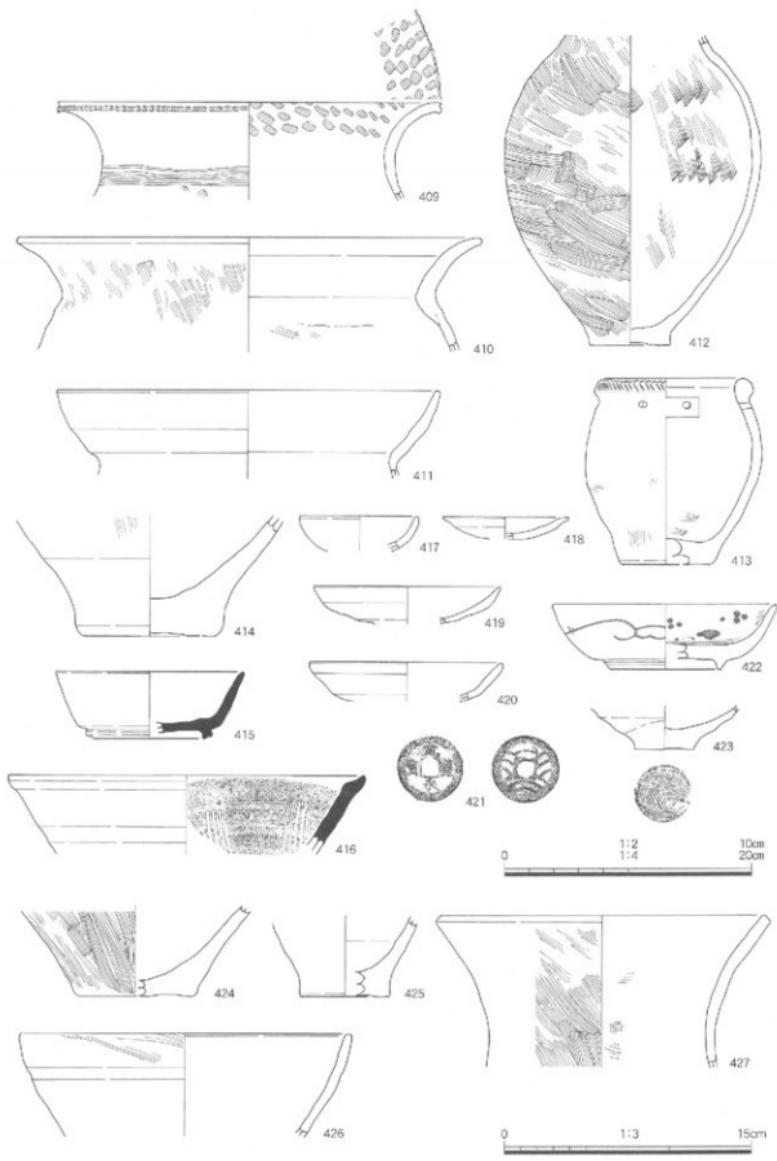
第32図 遺物実測図〔F地区〕(363~365 1/2, 342~352・355~362・366・367 1/3, 353・354 1/4)
SD73 (342~367)



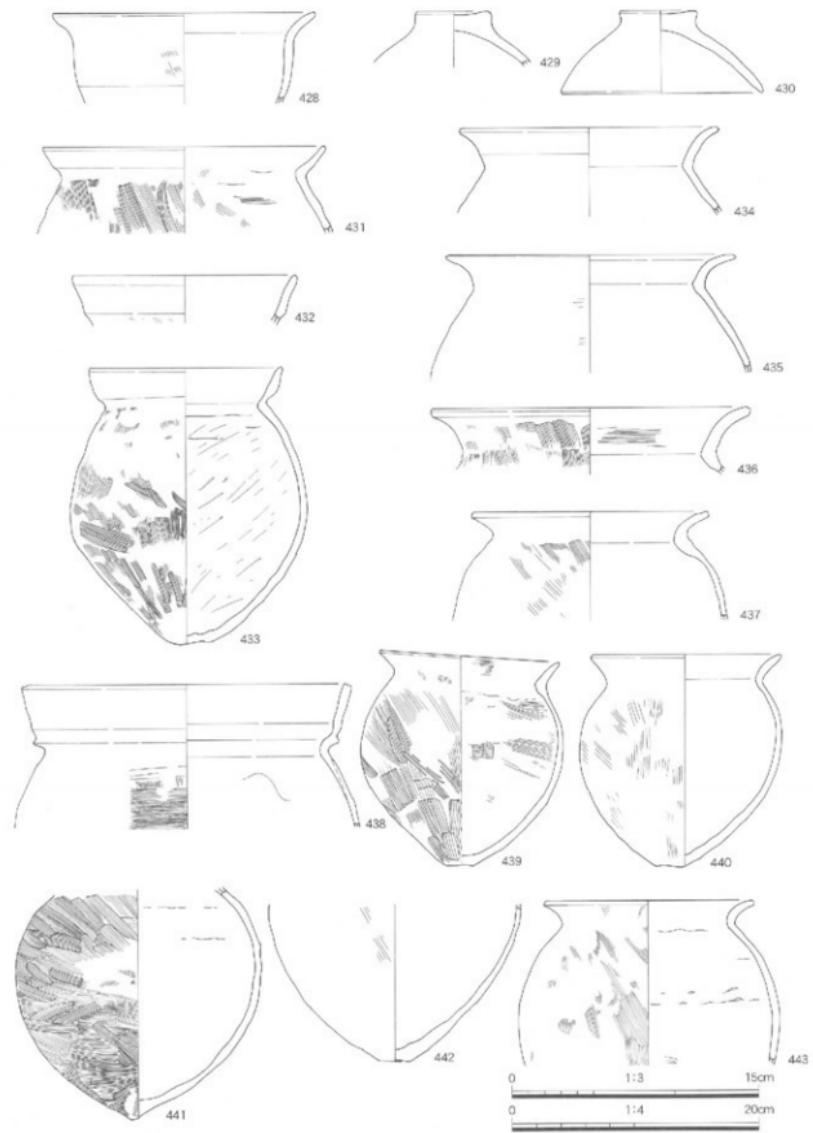
第33図 遺物実測図〔F地区〕(368~373・380・381・384・385・387 1/3, 374~379・382・383・386 1/4)
SD80(368~375) SK109(376~379) 包含層(380~387)



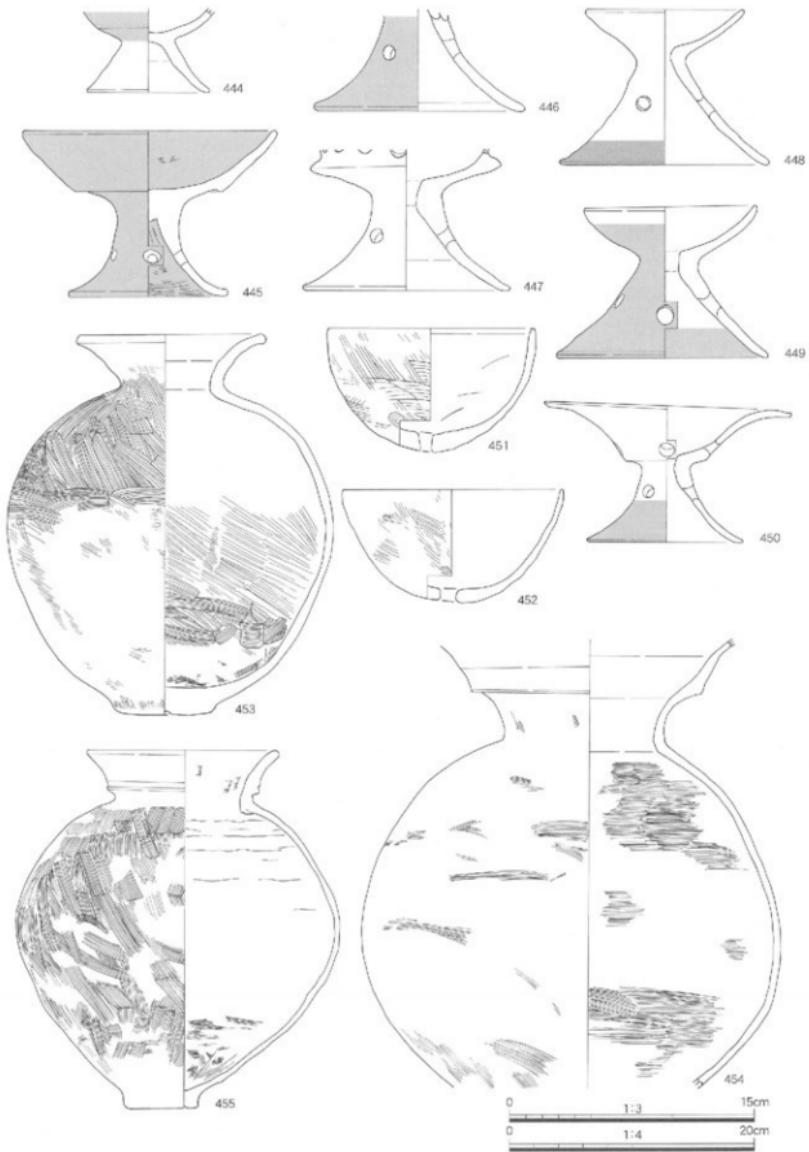
第34図 遺物実測図〔G地区〕(397 1/2, 388~396・398・399・403・405~408 1/3, 400~402・404 1/4)
SD63(404) SD69(402・403) SD90(405~408) SD91(388~401)



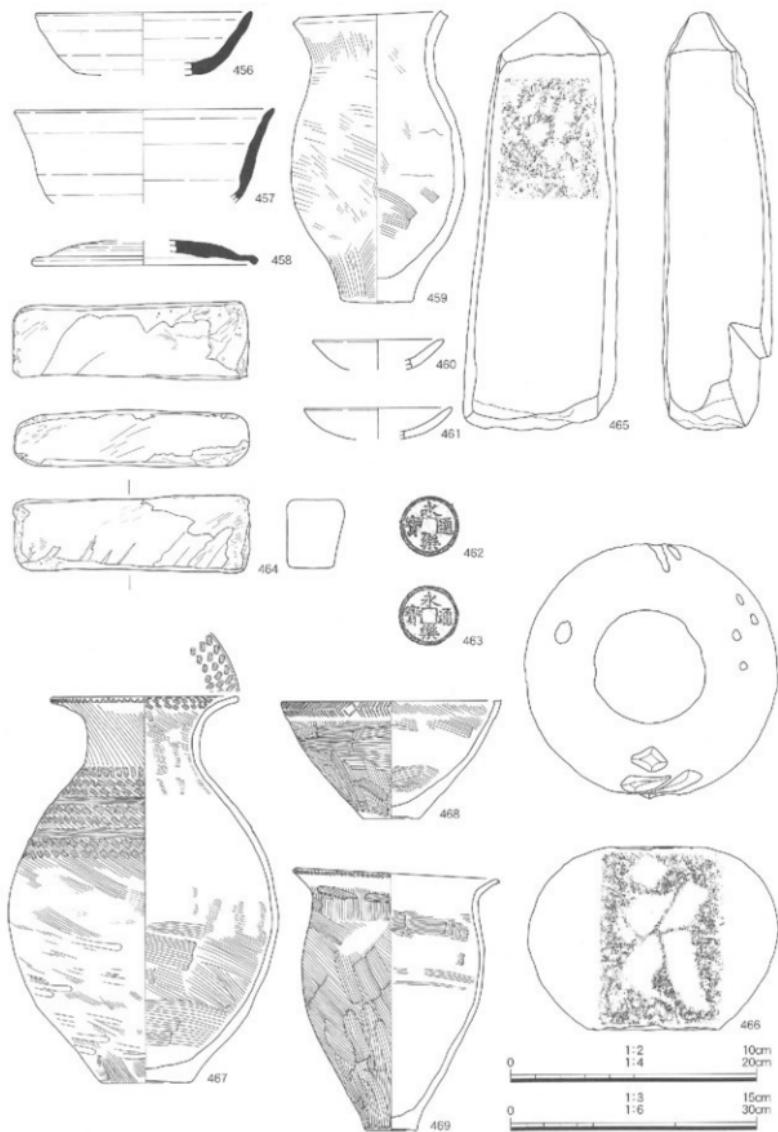
第35図 遺物実測図【G地区】(421 1/2, 409~411・413~415・417~420・422~427 1/3, 412・416 1/4)
SD73 (409~423) 包含層 (424~427)



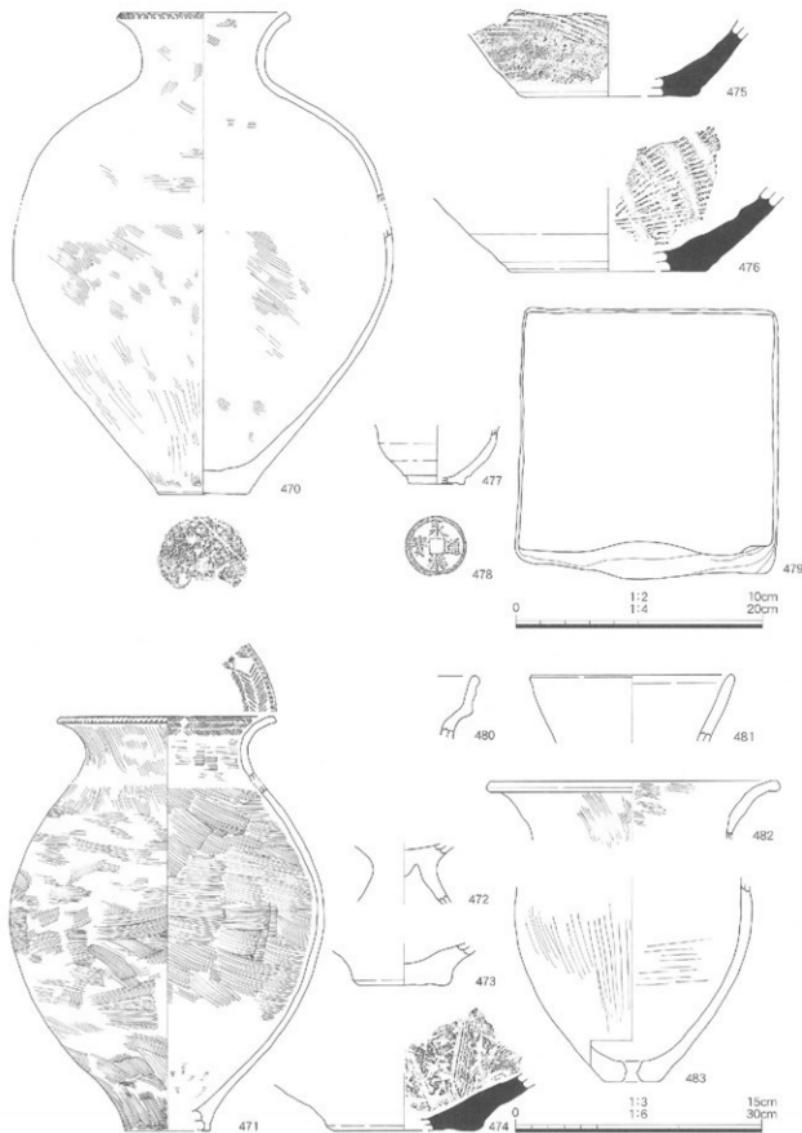
第36図 遺物実測図〔H地区〕(428~430・432~436 1/3, 431・437~443 1/4)
SX01(428~443)



第37図 遺物実測図〔H地区〕(444・446~449 1/3, 445・450~455 1/4)
SX01(444~455)



第38図 遺物実測図〔H地区〕(462・463 1/2, 456~458・460・461・464 1/3, 459・467~469 1/4, 465・466 1/6)
SD73(456~466) SD97(467・468) SK151(469)



第39図 遺物実測図〔H・I地区〕(478 1/2, 472~477・480~483 1/3, 470・471 1/4, 479 1/6)
H地区: SD98(470) 包含層(471~474) I地区: SD73(475~479) SD113(480~483)

第4章 考察

調査成果の概要

平成9年度より11年度へかけて実施された町道北高木小林線建設に伴う今回の調査は、小林遺跡の東西を二分する中心を南北に継断する幅員16m・延長約560mを対象として行われた。

小林遺跡は、発掘調査の結果、弥生時代中期の遺物を最古とし、近世末へかけて断続的に営まれた複合遺跡であることが判明している。

弥生時代の遺跡

弥生時代中期の遺物がD・E・G・H区、後期の遺物がC区の溝・土坑の各遺構内から出土している。その際に、調査区の西側半分から主に出土している傾向があることから、今調査では住居跡・建物跡は確認されていないが、当該期の集落本体は調査区の西側に拡がる可能性が考えられる。

また、出土土器は、櫛描文土器を主体とするもので、法仏式～白江式の併行期に含まれる土器群と思われる。なかには、外來系の土器として信州地方の栗林式系土器が少量みられ、信州地方との交流があったことを伺わせる。

古墳時代の遺跡

古墳時代前期の土師器は、F区の109号土坑とH区の1号土器窪りから出土している。109号土坑は断面が漏斗状の円形土坑で、底部に廃棄された状態で4個体分の甕が出土した。1号土器窪りは明確な遺構からの一括遺物とは言い難いが、量的にも多く、ほぼ一時期の良好な土器群と判断される。内容はすべて土師器であり、壺・甕・蓋・有孔鉢・高杯（赤彩）・器台（赤彩）である。今調査から出土した古墳時代の土師器については、古墳時代前期前半の古府クルビ式～前期後半の高畠式の併行期に含まれる上器群と考えられる。これらの出土遺物から、調査区周辺において、古墳・古墳時代の集落跡が存在している可能性が考えられる。

奈良・平安時代の遺跡

出土遺物の約半分はこの時期を主体とし、須恵器の形態等から8世紀前半～10世紀前半頃のものがある。遺構はA～I全調査区で、この時期のものが確認されたが、調査区中央の旧用水のカクランの影響が強く、遺構全体の拡がりを確認できなかった。今調査では墨書き土器が出土しており、識字層の存在が考えられる。当遺跡北側には木簡や墨書き土器が大量出土し、射水郡古代莊園の可能性がある北高木遺跡が立地していることにも、背景としての関連が考えられる。

中世の遺跡

中世の遺物としては、珠洲・中世土師器等が出土している。しかし、包含層や遺構内の他の時期の遺物に混じっての散発的な出土であり、この時期に断定できる遺構は検出できなかった。

今回の調査区は、神楽川（現：東神楽川）より約200m余り西側に位置している。神楽川は、中世の越中における政治の中心地であり、守護所が置かれていた新湊市放生津城跡に通じており、流域において鉄物や製鉄、水運等の交易活動が盛んになったと想定されている。このことから、中世の遺物が散発的な出土ではあるが、調査区と神楽川までの範囲内に中世期の集落の存在が考えられる。

近世以降の遺跡

近世以降の遺物として近世陶磁器・銅錢・煙管・荷札木簡が出土している。しかし、包含層や遺構内の他の時期の遺物に混在して散発的に出土しており、この時期に断定できる遺構は検出できなかった。荷札木簡は米の分配に関する内容より、この時期より水田として利用されていたと考えられる。

参考文献

- 青木一彦他 1996 「射水平野の遺跡－古代の北陸道を探る－」『大境』第18号 富山考古学会
- 赤澤徳明他 1997 『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』 桂書房
- 荒井 隆 1997 『市内遺跡調査概報VI』 高岡市教育委員会
- 荒井 降他 1999 『石塚遺跡調査概報V』 高岡市教育委員会
- 荒井 降他 2001 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 高岡市教育委員会
- 安念幹倫他 1995 『北高木遺跡発掘調査報告書』 大島町教育委員会
- 池野 正男 1998 「富山県出土の古代文字資料」『古代北陸と出土文字資料』 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
- 池野正男他 2002 『石名木舟遺跡発掘調査報告』 富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所
- 稻垣 尚美 1999 『H S-04 遺跡発掘調査報告』 小杉町教育委員会
- 上野 敬他 1995 『二口かみあれた遺跡』 志雄町教育委員会
- 大橋 康二 1988 『古伊万里』 別冊太陽63 平凡社
- 大橋 康二 1993 『肥前陶磁』 ニューサイエンス社
- 岡本淳一郎 1999 「佐野台地における古墳出現期の土器について」『紀要富山考古学研究』第2号
他 富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所
- 尾野寺克実 1998 『二口油免遺跡発掘調査概要』 大門町教育委員会
- 鬼頭 清明 1990 『木簡』 ニューサイエンス社
- 久々 忠義 1991 『大島町荒煙遺跡発掘調査概要』 大島町教育委員会
- 久々忠義他 1984 『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編－』 上市町教育委員会
- 坂詰秀一他 1982 『板碑研究入門』 ニューサイエンス社
- 鳥田修一他 1998 『八塚C遺跡』 大島町教育委員会
- 高梨清志他 2000 『浦田遺跡発掘調査報告(3)』 舟橋村教育委員会
- 竹脇久雄他 1989 『大島町史』 大島町
- 田嶋 明人 1986 「土師器よりみた古墳時代土器群の変遷」『漆町遺跡I』 石川県立埋蔵文化財センター
- 田中 明 2000 『水上・本閣発遺跡』 大島町教育委員会
- 根津 明義 2000 『須田藤の木遺跡調査報告』 高岡市教育委員会
- 藤田富士夫 1989 『玉』 ニューサイエンス社
- 間宮正光他 2002 『倉谷古墳群調査報告』 高岡市教育委員会
- 宮田進一他 2000 『八塚C遺跡(2)』 大島町教育委員会
- 山口 辰一 1987 『石塚遺跡調査概報I』 高岡市教育委員会
- 山口 辰一 1988 『石塚遺跡調査概報II』 高岡市教育委員会
- 山口 辰一 1995 『石塚遺跡調査概報III』 高岡市教育委員会
- 山口 辰一 1996 『石塚遺跡調査概報IV』 高岡市教育委員会
- 山口辰一他 1996 『市内遺跡調査概報IV』 高岡市教育委員会
- 山本正敏他 1998 『五社遺跡発掘調査報告』 富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所
- 古例 康暢 1989 『珠洲の名陶』 珠洲焼資料館

第5章 自然科学分析

(株)吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田 文男

1. 試料

遺物出土材 3点
(SD 73【F地区】・SB 03-P 4【G地区】)

2. 方法

試料より木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察し、組織的特徴から樹種の同定を行った。また、観察した顕微鏡像を撮影記録した。（撮影倍率10×、40×、100×、400×）

3. 結果

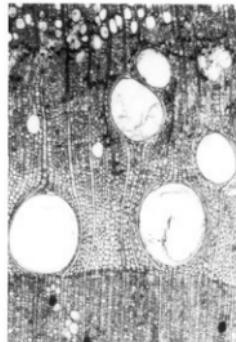
①ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)
環孔材である。木口では円形ないし梢円形で大体単独の大道管 ($\sim 500 \mu\text{m}$) が年輪にそって幅のかなり広い孔圈部を形成している。孔圈部は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は單穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の單列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短筒型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木韻織が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

②ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)
木口では仮道管を持ち、早材から晚材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晚材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて單列であった。数珠状木端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

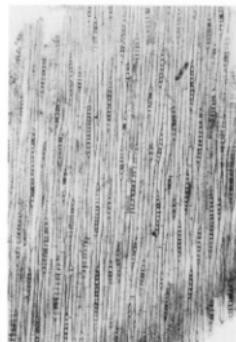
③スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)
木口では仮道管を持ち、早材から晚材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晚材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて單列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

参考文献

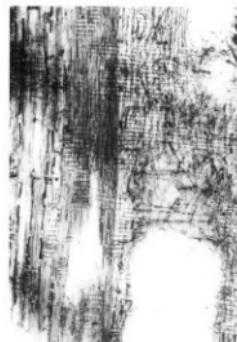
- 島地 謙・伊藤隆夫（1988）『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣
島地 謙・伊藤隆夫（1982）『図説木材組織』 地球社
島地 謙・須藤彰司・原田 浩（1982）『木材の組織』 森北出版
伊藤隆夫（1995～）『日本産広葉樹林の解剖学的記載 I～IV』 京都大学木質科学研究所
北村四郎・村田 源（1979）『原色日本植物図鑑木本編 I・II』 保育社



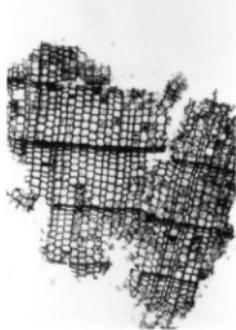
① SD73出土流木（第17図）
ブナ科クリ属クリ
木口 40倍



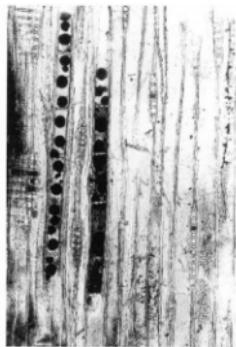
板目 40倍



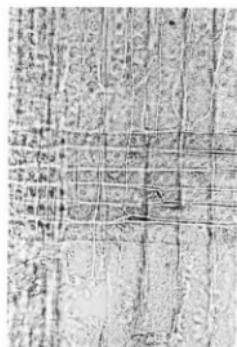
柾目 40倍



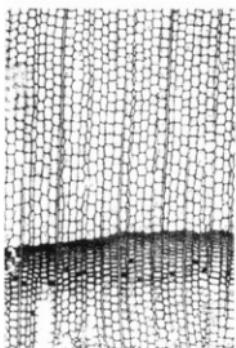
② SD73出土流木（第17図）
ヒノキ科アスナロ属
木口 40倍



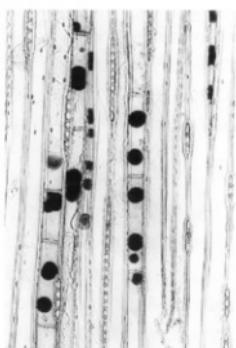
板目 100倍



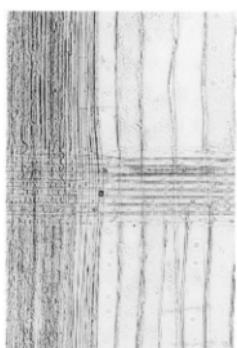
柾目 400倍



③ SD03-P4出土柱根（第18図）
スギ科スギ属スギ
木口 40倍



板目 100倍



柾目 100倍

第1表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
1	A	6	3	SD01		須恵器	杯B	11.5	6.8	3.9	5Y7/1 灰白色	
2	A	6	2	SD01		須恵器	杯B	14.0	8.2	3.8	N6/0 灰色	8C第2
3	A	6	3	SD01		須恵器	杯A	12.8	9.4	3.6	2.5Y8/1 灰白色	
4	A	6	28	SD01		須恵器	杯A	12.0	8.8	4.0	5Y7/1 灰白色	体部外面に墨書「長」
5	A	6	4	SD01		須恵器	蓋	12.7			N6/0 灰色	
6	A	6	5	SD01		須恵器	盞	16.2			7.5Y6/1 灰色	内面自然釉付着
7	A	6	5	SD01		土師器	碗	14.4			2.5Y7/2 灰黄色	内面黒色
8	A	6	4	SD01		弥生土器	壺	16.7			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期
9	A	6	4	SD01		土師器	甕				2.5Y8/2 灰白色	
10	A	6	2	SD01		土師器	甕				2.5Y8/2 灰白色	
11	A	8	5	SD01		土師器	高杯				7.5YR7/4 にぶい橙色	
12	A	6	4	SD01		土師器		21.6			10YR6/2 灰黄褐色	
13	A	14	2	SD03		須恵器	杯	11.3		3.8	5Y8/1 灰白色	7C第2?
14	A	19	2	SD03		須恵器	蓋	12.7			N7/0 灰白色	
15	A	16	2	SD03		須恵器	蓋	13.8			5Y7/1 灰白色	
16	A	11	2	SD03		土師器			5.2		5YR7/6 橙色	
17	A	19	2	SD03		土師器			5.8		10YR7/3 にぶい黄褐色	
18	A	13	2	SD03		土師器	甕	11.2			2.5Y8/2 灰白色	7C後半~8C前半
19	A	10	9		表土	須恵器	杯	12.9			2.5Y8/1 灰白色	
20	A	6	3		2a層	須恵器	杯A	13.8	10.2	3.5	2.5Y8/2 灰白色	
21	A	20	5		表土	須恵器	杯B		10.3		7.5Y7/1 灰白色	
22	A	10	9		表土	須恵器	杯B		11.3		N7/0 灰白色	
23	A	10	5		表土	須恵器	蓋				7.5Y7/1 灰白色	
24	A	5	4		2a層	須恵器	蓋	15.5			N7/0 灰白色	
25	A	20	5		表土	須恵器	蓋				5Y7/1 灰白色	
26	A	20	2		2a層	珠潤	壺	22.4			N6/0 灰色	
27	A	47	24		2a層	珠潤			19.7		N6/0 灰色	
28	A	4	2		2a層	土師器	辻切7		3.7		2.5Y8/2 灰白色	
29	A	9	3		2a層	土師器	高杯		7.9		2.5Y8/1 灰白色	
30	A	20	2		2a層	土師器	皿		4.6		2.5Y7/3 浅黃色	
31	B	28	2	SD09		須恵器	杯A	12.4	8.6	3.3	5Y7/1 灰白色	
32	B	31	2	SD09		須恵器	杯A	11.9	8.9	3.5	5Y7/1 灰白色	
33	B	28	2	SD09		須恵器	杯B		5.8		N7/0 灰白色	
34	B	33	2	SD09		須恵器	杯B		7.8		N7/0 灰白色	
35	B	28	2	SD09		須恵器	蓋				N6/0 灰色	
36	B	28	2	SD09		須恵器	蓋				2.5Y7/1 灰白色	
37	B	27	2	SD09		須恵器	甕	32.3			N6/0 灰色	
38	B	29	2	SD09		土師器	甕	25.4			10YR8/3 浅黃褐色	8C後半
39	B	26	3	SD10		須恵器	杯B		6.3		5Y6/1 灰色	
40	B	26	3	SD10		須恵器	杯B	14.9	9.8	3.8	7.5Y6/1 灰色	

第2表 遺物観察表

番号	地区名	座標		造形番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
41	B	25	2	SD10		須恵器	杯	13.2			5Y7/1 灰白色	
42	B	26	2	SD10		須恵器	杯A		7.9		N6/0 灰色	
43	B	25	3	SD10		中世土師器	皿	7.8	6.6	1.7	10YR6/3 にぶい黄褐色	
44	B	26	4	SD10		須恵器	壺		9.2		N6/0 灰色	外面自然釉付着
45	B	26	24	SD10		珠淵	壺		12.2		N6/0 灰色	
46	B	26	3	SD10		珠淵	擂鉢		14.1		N6/0 灰色	
47	B	46	35	SD33		須恵器	双耳瓶				N7/0 灰白色	9C末~10C前半
48	B	48	5	SD33		須恵器	双耳瓶				5YR6/4 にぶい橙色	9C末~10C前半
49	B	41	5	SD33		須恵器	双耳瓶				N7/0 灰白色	9C末~10C前半
50	B	43	5	SD33		須恵器	杯B	11.9	6.4	3.4	25Y7/1 灰白色	
51	B	47	5	SD33		須恵器	杯B			6.7	7.5Y7/1 灰白色	
52	B	45	8		2a層	須恵器	杯A	12.0	9.0	2.2	25Y7/1 灰白色	
53	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	11.3	8.4	2.7	5Y7/1 灰白色	
54	B	40	3		2a層	須恵器	杯A	10.8	7.0	3.4	7.5Y7/1 灰白色	
55	B	43	2		2a層	須恵器	杯A	11.6	8.4	3.0	7.5Y7/1 灰白色	
56	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	12.0	9.9	2.9	N7/0 灰白色	
57	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	11.8	8.8	3.1	5Y7/1 灰白色	ヘラ切り痕未調整
58	B	30	9		2a層	須恵器	杯A	14.3	11.2	2.6	7.5Y7/1 灰白色	
59	B	35	3		2a層	須恵器	杯B	10.9	5.4	4.8	7.5YR6/2 桃褐色	
60	B	36	2		2a層	須恵器	杯B	12.1	8.3	3.5	N7/0 灰白色	
61	B	27	25		2a層	須恵器	杯B	11.6	6.9	4.7	5Y8/1 灰白色	
62	B	36	4		2a層	須恵器	杯A	11.8	8.1	3.3	5Y7/1 灰白色	底部外画ヘラ記号
63	B	40	8		2a層	須恵器	杯A			7.4	7.5Y7/1 灰白色	底墨外画に墨書「□人」
64	B	43	3		2a層	須恵器	壺	12.0		3.2	25Y7/2 桃黃色	8C~9C前半
65	B	47	2		2a層	須恵器	壺	11.8			N6/0 灰色	8C~9C前半
66	B	45	3		2a層	須恵器	壺	12.2			N7/0 灰白色	8C~9C前半
67	B	29	2		2a層	須恵器	壺	12.8			N6/0 灰色	8C~9C前半
68	B	28	2		2a層	須恵器	壺	14.7			N6/0 灰色	8C~9C前半
69	B	46	3		2a層	須恵器	壺	14.4		2.5	N6/0 灰色	8C~9C前半
70	B	36	2		2a層	須恵器	壺	18.5			25Y8/1 灰白色	8C~9C前半
71	B	33	3		2a層	須恵器	甕	19.5			10YR6/1 桃褐色	
72	B	27	2		2a層	須恵器		28.4			N7/0 灰白色	
73	B	24	2		2a層	珠淵	甕				N6/0 灰色	
74	B	42	3		2a層	珠淵	甕				7.5Y7/1 灰白色	
75	B	27	2		2a層	珠淵	甕				N7/0 灰白色	
76	B	42	3		2a層	珠淵	擂鉢	31.9			N7/0 灰白色	13C中葉~14C第3
77	B	37	3		中世土師器	皿	7.6				10YR8/3 淡黄褐色	内面煤付着
78	B	45	3		中世土師器	皿	8.6		1.4		10YR8/2 灰白色	外面煤付着
79	B	38	2		2a層	土師器	椀	10.8			25Y8/2 灰白色	内面黑色
80	B	44	8		2a層	土師器	椀	11.8			25Y7/2 桃黃色	内面煤付着

第3表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
81	B	27	2		2a層	青磁	碗	12.2			N7/0 灰白色	軸窓7.5GY7/1 明緑灰色
82	B	30	2		2a層	伊万里	紅皿	5.2	1.4	1.3	N8/0 灰白色	
83	C	61	7	SD35		須恵器	杯A	12.4	9.2	3.2	7.5Y7/1 灰白色	
84	C	62	3	SD35		須恵器	杯A	13.4	9.2	3.6	5Y7/1 灰白色	
85	C	63	3	SD35		須恵器	杯B		6.4		2.5Y7/1 灰白色	重ね焼き痕
86	C	61	7	SD35		須恵器					10YR6/1 黄褐色	内面自然釉 6C代?
87	C	65	3	SD35		弥生土器	甌	14.7			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期
88	C	64	3	SD35		土師器				5.4		10YR7/2 にぶい黄褐色
89	C	62	4	SD35		土師器			3.7			10YR7/2 にぶい黄褐色
90	C	61	7	SD35		土師器	甌				2.5Y7/2 灰黄色	足録の脚
91	C	61	7	SD35		土師器	甌				2.5Y6/1 黄灰色	足録の脚 外面葉付着
92	C	71	8	SD36		須恵器	杯B	11.9	6.4	3.4	5Y8/1 灰白色	
93	C	71	8	SD36		須恵器	蓋				N7/0 灰白色	
94	C	72	3	SD36		土師器					10YR7/4 にぶい黄褐色	
95	C	71	7	SD36		土師器	甌				7.5YR7/2 明褐灰色	
96	C	70	2	SK18		須恵器	杯	11.0	6.4		5Y7/1 灰白色	
97	C	75	7		2a層	須恵器	杯II		6.0		7.5Y7/1 灰白色	7C第2
98	C	63	3		2a層	須恵器	杯	11.0			7.5Y7/1 灰白色	
99	C	56	3		2a層	須恵器	杯A	11.7	8.4	3.7	2.5Y7/1 灰白色	
100	C	54	3		2a層	須恵器	杯A	12.6	7.5	2.6	N7/0 灰白色	
101	C	55	3		2a層	須恵器	杯B		5.9		N7/0 灰白色	
102	C	66	3		2a層	須恵器	杯B		7.6		N6/0 灰色	
103	C	62	3		2a層	須恵器	杯B		7.2		7.5Y7/1 灰白色	
104	C	63	7		2a層	須恵器	杯B	14.7	9.0	4.2	7.5Y7/1 灰白色	
105	C	76	3		2a層	須恵器	蓋				N7/0 灰白色	
106	C	54	3		2a層	須恵器	甌				2.5Y7/1 灰白色	外面自然釉付着
107	C	64	3		2a層	須恵器	円面甌				N6/0 灰色	体部外部ヘラ記号
108	C	72	7		2a層	越中瀬戸	皿	10.0	4.0	2.5	7.5YR7/3 にぶい褐色	印文花 重ね焼き痕
109	C	66	3		2a層	伊万里	紅皿	4.7	1.7	1.4	7.5Y8/1 灰白色	18C末~幕末頃
110	C	55	3		2a層	中世土師器	皿	8.6			2.5Y8/2 灰白色	
111	C	70	3		2a層	土師器	ミニチャ	3.0	3.8	3.2	2.5Y7/2 灰黄色	5C後半
112	C	69	3		2a層	土師器					10YR8/2 灰白色	外面赤彩
113	C	56	7		2a層	土師器	高杯				2.5Y8/2 灰白色	
114	C	62	3		2a層	土師器	高杯				7.5YR7/4 にぶい褐色	
115	C	57	3		2a層	珠洲			12.2		N7/0 灰白色	
116	C	55	3		2a層	珠洲	擂鉢	30.4			N6/0 灰色	
117	C	69	5		2a層	金属製品	錢					開元通寶
118	C	67	2		2a層	金属製品	錢					寛永通寶
119	D	97	4	SD37		須恵器	杯A		9.0		5Y7/1 灰白色	
120	D	92	3	SD37		須恵器	杯	12.3	9.4		7.5Y7/1 灰白色	

第4表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
121	D	91	3	SD37		須恵器	杯	16.8		7.5Y6/1 灰色		
122	D	89	3	SD37		須恵器	杯B		5.6	N6/0 灰色		
123	D	88	4	SD37		須恵器	杯B		6.2	5Y7/1 灰白色		
124	D	85	4	SD37		須恵器	杯B		7.4	N7/0 灰白色		
125	D	84	4	SD37		須恵器	杯B		7.8	2.5Y7/1 灰白色		
126	D	85	4	SD37		須恵器	蓋	12.6		N6/0 灰色		
127	D	85	4	SD37		須恵器	蓋	15.2		5Y6/1 灰色		
128	D	87	4	SD37		須恵器	壺	16.5		7.5YR6/1 淡灰色	6C後半～7C前半	
129	D	87	5	SD37		須恵器	壺	12.3		7.5Y7/1 灰白色		
130	D	88	4	SD37	中壇土師器	皿		6.7		1.5 2.5Y8/2 灰白色		
131	D	87	4	SD37	中壇土師器	皿		9.0		2.5Y8/2 灰白色		
132	D	88	3	SD37	中壇土師器	皿		12.0		10YR8/3 浅黃褐色		
133	D	103	4	SD37	越中瀬戸	皿		10.4		5YR7/4 にぶい橙色		
134	D	86	3	SD37	越中瀬戸	皿		11.1	4.4	1.8 10YR7/4 にぶい黄褐色	削り出し高台	
135	D	105	4	SD37	越中瀬戸	皿			4.7	10YR7/2 にぶい黄褐色	削り出し高台	
136	D	99	4	SD37	伊万里	碗		10.0		N8/0 灰白色	团鶴 18C後半	
137	D	83	4		2a層	須恵器	杯B		5.4	2.5Y7/1 灰白色		
138	D	88	4		2a層	須恵器	杯B		5.2	5Y7/1 灰白色		
139	D	107	4		2a層	須恵器	杯B		7.6	N7/0 灰白色		
140	D	100	8		2a層	須恵器	杯B		7.6	7.5Y7/1 灰白色		
141	D	83	4		2a層	須恵器	杯B		9.3	7.5Y7/1 灰白色	内底面ヘラ記号	
142	D	99	4		2a層	須恵器	杯	9.7		2.5Y7/2 灰褐色		
143	D	89	7		2a層	須恵器	杯	10.8		7.5Y7/1 灰白色		
144	D	104	4		2a層	須恵器	杯	14.3		N7/0 灰白色		
145	D	99	8		2a層	須恵器	蓋	13.9		N7/0 灰白色	8C後半	
146	D	95	4		2a層	唐津	擂鉢		8.8	2.5YR5/3 にぶい赤褐色		
147	D	98	4		2a層	上師器	高杯			7.5YR8/3 浅黃褐色		
148	D	96	2		2a層	土師器	高杯			5YR7/6 橙色		
149	D	96	2		2a層	土師器	小型壺			2.5Y8/2 灰白色	5C中業～後半	
150	D	89	3		2a層	土師器	碗		6.5	10YR8/2 灰白色	内面黒色	
151	D	88	5		2a層	中壇土師器	皿	9.8		2.5Y7/2 灰褐色	内外面炭化物付着	
152	D	86	4		2a層	越中瀬戸	皿	11.4	4.2	2.6 7.5YR7/3 にぶい橙色	削り出し高台	
153	D	86	4		2a層	金襴製品	錢					
154	D	93	8		2a層	金襴製品	錢				寛永通寶	
155	E	132	4	SD37		須恵器	杯B		7.0	N7/0 灰白色		
156	E	117	5	SD37		須恵器	杯B		6.7	N7/0 灰白色		
157	E	134	4	SD37		珠洲				N6/0 灰色	外側ヘラ記号	
158	E	132	4	SD37		須恵器	甕			10YR7/1 灰白色	8C代	
159	E	125	5	SD37		珠洲	擂鉢			N6/0 灰色	14C後半～15C前半	
160	E	135	5	SD37		弥生土器	鉢	19.7		2.5Y8/2 灰白色	弥生中期	

第5表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種 別	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎 上	備 考
		X	Y									
161	E	130	4	SD37		伊万里	盃	8.8	3.8	3.0	N8-0 灰白色	
162	E	130	4	SD37		伊万里	碗		4.2		7.5Y8/1 灰白色	
163	E	133	4	SD37		伊万里	碗		4.2		2.5Y7/1 灰白色	
164	F	162	5	SD37		石製品	勾玉				25GY6/1 オリーブ灰色	研磨途中未製品
165	E	134	4	SD37		金属製品	煙管					吸口部
166	E	133	5	SD37		金属製品	錢					寛永通寶
167	E	134	3		3層	木製品	木簡				2.5Y7/3 浅黃色	近世荷札木簡?
168	E	119	3	SK56		土師器	壺	15.4			7.5TR7/4 にぶい橙色	外面煤付着
169	E	125	4	SD62		土師器			6.8		10YR7/3 にぶい黃褐色	外底面煤付着
170	F	151	4	SD37		須恵器	杯B		2.7		N7/0 灰白色	
171	F	143	4	SD37		須恵器	壺蓋	14.4			5Y7/1 灰白色	8C後半
172	F	148	4	SD37		須恵器	壺				N6/0 灰色	13C中葉～後半
173	E	134	3		2a層	須恵器	杯	11.4			5Y8/1 灰白色	
174	E	130	3		2a層	須恵器	杯B	10.1	6.3	3.8	N6/0 灰色	
175	E	130	3		2a層	須恵器	杯B				N7/0 灰白色	
176	F	157	8		2a層	須恵器	杯	12.4			7.5Y7/1 灰白色	
177	F	150	9		2a層	須恵器	杯B				5G6/1 緑灰色	
178	F	143	3		2a層	須恵器	瓶	6.2			N7/0 灰白色	
179	F	162	3		2a層	弥生土器	壺	13.2			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
180	E	136	5		2a層	石製品					N7/0 灰白色	菅玉未製品?
181	F	158	7		2a層	金属製品	煙管					首部
182	F	160	7		2a層	金属製品	煙管					吸口部
183	A	5	5	SD18		須恵器	杯A	11.1	7.3	3.3	5Y8/1 灰白色	外底面ヘラ記号
184	A	10	7	SD20		土師器	壺	18.6			10YR7/2 にぶい黃褐色	古墳前期
185	A	10	7	SD20		土師器	壺	19.5			2.5Y7/2 灰黄色	古墳前期
186	B	47	4	SK26		須恵器	杯B				5Y7/1 灰白色	
187	B	47	5	SK26		土師器	碗		6.5		10YR7/3 にぶい黃褐色	
188	B	46	5	SK26		土師器	壺	18.7			10YR7/2 にぶい黃褐色	古墳前期
189	A	10	8		2b層	須恵器	杯A	10.9	7.8	2.9	5YR7/1 明褐灰色	
190	A	4	2		2b層	須恵器	杯A	11.7	8.6	3.6	5Y8/2 灰白色	
191	A	4	5		2b層	須恵器	杯B	10.2	6.7	4.7	2.5Y7/1 灰白色	
192	A	19	3		2b層	須恵器	杯B	13.4	7.6	3.3	5Y6/1 灰色	8C第2
193	A	5	8		2b層	須恵器				5.5	5YR6/1 褐灰色	
194	A	19	3		2b層	珠洲	壺				5Y7/1 灰白色	13C中葉～後半
195	A	19	3		2b層	土師器	鉢	27.6			2.5Y7/1 灰白色	
196	A	13	5		3層	土師器	壺	15.9			10YR8/3 浅黃褐色	古墳前期
197	A	13	5		3層	土師器	壺	17.5			2.5Y7/2 灰黄色	古墳前期
198	B	41	2		2b層	須恵器	杯A	11.4	6.6	3.1	25YR6/4 にぶい褐色	焼成不良
199	B	27	1		2b層	須恵器	杯A	11.4	7.5	3.5	2.5Y7/1 灰白色	
200	B	24	8		3層	須恵器	杯A	11.2	7.8	3.0	5Y6/2 灰オリーブ色	

第6表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎上	備考
		X	Y									
201	B	28	8		2b層	須恵器	杯B		6.8		5Y8/1 灰白色	
202	B	36	2		2b層	須恵器	杯B		6.6		N7/0 灰白色	
203	B	36	2		2b層	須恵器					N6/0 灰色	外面自然釉 6C代?
204	B	41	2		2b層	須恵器	蓋	11.8		2.2	N7/0 灰白色	
205	B	32	1		2b層	須恵器	蓋				5Y7/1 灰白色	
206	B	48	3		2b層	須恵器	蓋	17.0		3.9	5Y6/1 灰色	
207	B	37	2		2b層	須恵器	壺	26.4			N7/0 灰白色	
208	B	24	2		2b層	土師器	器台				7.5YR8/4 浅黄橙色	内外面赤彩 占墳前期
209	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	8.4	5.6	1.6	2.5Y8/2 灰白色	
210	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	7.3	5.6	1.4	2.5Y8/2 灰白色	
211	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	7.8	4.9	1.7	10YR8/2 灰白色	
212	B	33	4		3層	土製品	土鍤				10TR7/2 にぶい黄橙色	
213	B	28	4		3層	土製品	土鍤				2.5Y8/2 灰白色	
214	B	30	6		2b層	金屬製品	錢					大觀通寶
215	B	40	9		2b層	金屬製品	錢					寛永通寶
216	B	36	7		2b層	金屬製品	錢					寛永通寶
217	C	63	3	SD47		須恵器	杯A		8.6		5Y7/1 灰白色	内底面ヘラ記号
218	C	62	4	SD47		土師器		10.9			2.5Y7/2 灰黄色	
219	C	62	4	SD47		土師器	壺	15.6			10TR6/3 にぶい黄橙色	
220	C	63	5	SK40		弥生土器?	高杯				10TR7/3 にぶい黄橙色	弥生後期?
221	C	63	5	SK40		弥生土器	壺	14.4	2.0	17.4	2.5Y7/2 灰黄色	外面墨付着 弥生後期
222	C	60	4	SK35		須恵器	蓋	11.8			N7/0 灰白色	内面墨痕
223	C	61	5	SK32		須恵器	杯B				7.5Y8/1 灰白色	
224	C	61	5	SK32		須恵器	杯	16.2			5Y7/1 灰白色	
225	C	61	5	SK32		須恵器	蓋	17.5			5Y8/1 灰白色	
226	C	61	6	SK32		珠洲	壺		14.6		5Y7/1 灰白色	
227	C	65	3		3層	弥生土器	器台				10YR8/2 灰白色	弥生後期
228	C	64	4		3層	土師器		9.9			7.5YR7/4 にぶい橙色	
229	C	65	3		3層	弥生土器	器台		16.6		2.5Y7/2 灰黄色	弥生後期
230	C	64	4		3層	土師器			5.4		2.5Y8/2 灰白色	外面墨付着 外底面ヘラ記号
231	C	63	4		3層	土師器			5.2		10TR7/3 にぶい黄橙色	外面墨付着 外底面ヘラ記号
232	C	64	4		3層	土師器	器台				10TR7/2 にぶい黄橙色	
233	C	64	4		3層	土師器	器台				10TR7/3 にぶい黄橙色	内孔4箇所
234	C	64	4		3層	土師器	壺	14.5			10TR7/2 にぶい黄橙色	
235	C	65	5		3層	土師器	壺	16.0			7.5YR8/3 浅黄橙色	
236	C	64	4		3層	土師器	壺	17.3			2.5Y7/2 灰黄色	
237	C	62	4		3層	須恵器	蓋				N7/0 灰白色	
238	C	72	5		2b層	須恵器	蓋	15.5		3.7	7.5Y7/1 灰白色	
239	C	69	4		3層	須恵器	壺	14.0			7.5Y7/1 灰白色	
240	C	62	5		3層	須恵器	杯B	11.7	6.4	4.1	N6/0 灰色	

第7表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
241	C	68	5		2b層	須恵器	杯B	14.8	10.2	3.7	2.5Y8/1 灰白色	
242	C	62	3		2b層	須恵器	杯B		7.8		5Y7/1 灰白色	外底面墨痕
243	C	73	7		3層	須恵器	杯A	13.4	9.6	3.1	7.5Y7/1 灰白色	
244	C	64	3		2b層	須恵器	高杯		9.8		N6/0 灰色	6C後半～7C前半？
245	C	69	4		3層	須恵器	甕				5Y7/2 灰白色	
246	C	69	5		2b層	土製品	土錘				2.5Y8/2 灰白色	
247	C	61	5		3層	弥生土器	甕	15.0			7.5YR7/4 にぶい褐色	弥生後期
248	C	62	3		3層	土師器	甕	15.7			10YR7/3 にぶい褐色	
249	C	62	4		3層	土師器	甕		5.7		2.5Y8/2 灰白色	外底面ヘラ記号
250	C	63	4		3層	土師器	甕		5.6		10YR8/1 灰白色	外底面ヘラ記号
251	C	61	4		3層	土師器	甕	14.6			2.5Y7/2 黄褐色	
252	C	58	4		3層	弥生土器	甕	12.7			2.5Y7/3 浅黄色	弥生後期
253	C	62	4		3層	弥生土器	甕	15.7			5Y7/1 灰白色	弥生後期
254	C	58	4		2b層	弥生土器	台付鉢		4.6		5YR7/6 橙色	
255	C	61	3		2b層	土師器	甕				7.5YR7/4 にぶい褐色	古墳前期
256	C	63	5		3層	土師器	甕	4.2	2.4	7.3	10YR7/2 にぶい褐色	ミニチュア土器
257	C	56	7		3層	弥生土器	高杯				10YR8/3 浅黄褐色	弥生後期
258	C	57	2		3層	弥生土器	高杯				7.5YR8/3 浅黄褐色	弥生後期
259	C	63	2		2b層	弥生土器	器台		20.8		2.5Y8/2 灰白色	外面赤彩 弥生後期
260	C	63	2		2b層	弥生土器				6.6	10YR7/2 にぶい褐色	
261	D	98	4	SD48		須恵器	甕	22.0			N7/0 灰白色	
262	D	87	4	SD48		須恵器	杯B		7.0		N7/0 灰白色	
263	D	87	4	SD48		土師器	甕		5.6		2.5Y8/2 灰白色	内面黒色
264	D	106	3	SD51		土師器	甕	15.8			10YR7/2 にぶい褐色	
265	D	106	3	SD51		弥生土器	甕				10YR8/2 灰白色	弥生中期
266	D	107	4	SD51		弥生土器		18.6			10YR8/2 灰白色	弥生中期
267	D	106	3	SD51		弥生土器	無頭甕	9.0			2.5Y8/3 淡黄色	弥生中期後半
268	D	83	4		2b層	須恵器	杯A	12.5			2.5Y8/1 灰白色	
269	D	99	3		2b層	須恵器	杯B		6.2		N7/0 灰白色	
270	D	84	4		2b層	須恵器	杯B	10.6	6.2	4.1	7.5Y7/1 灰白色	
271	D	85	5		3層	須恵器	杯B	14.0	7.2	6.5	N6/0 灰色	
272	D	83	7		3層	須恵器	杯	17.0			N7/0 灰白色	
273	D	99	3		3層	須恵器		13.0			2.5Y7/1 灰白色	
274	D	99	5		2b層	珠洲	擂鉢		11.6		7.5Y7/1 灰白色	I3C中甕～I4C第3
275	D	84	4		2b層	須恵器	甕	45.0			N7/0 灰白色	8C代
276	D	94	3		2b層	土師器	甕	15.7	7.2	31.3	2.5Y7/2 黄褐色	
277	D	106	3		3層	弥生土器	甕	29.0			10YR8/2 灰白色	弥生中期
278	D	94	3		2b層	土師器	甕	25.8			10YR8/2 灰白色	
279	D	95	2		2b層	土師器	甕	17.5			2.5Y8/2 灰白色	
280	D	107	7		3層	土師器				7.5	10YR8/2 灰白色	

第8表 遺物觀察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
281	E	127	3	SK76		弥生土器	壺	14.1		10YR8/3 淡黃橙色	弥生中期	
282	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	18.8		25Y7/1 灰白色	弥生中期	
283	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	18.0		25Y7/3 淡黃色	弥生中期	
284	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	17.5		25Y8/2 灰白色	弥生中期	
285	E	127	3	SK76		弥生土器	無頸壺	6.8		25Y8/3 淡黃色	弥生中期	
286	E	127	4	SK76		弥生土器	無頸壺	9.4		10YR8/3 淡黃橙色	弥生中期	
287	E	127	4	SK76		弥生土器		4.7		25Y6/2 淡黃色	外面煤付着	弥生中期
288	E	127	4	SK76		弥生土器		5.8		7.5YR7/6 橙色	弥生中期	
289	E	127	4	SK76		弥生土器		5.4		10YR6/2 淡黃褐色	外面煤付着	弥生中期
290	E	127	4	SK76		弥生土器		7.5		25Y7/2 淡黃色	弥生中期	
291	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	15.6		10YR8/4 淡黃橙色	外面煤付着	弥生中期
292	E	128	4	SK76		弥生土器	壺	18.3		25Y7/2 淡黃色	弥生中期	
293	E	126	3	SK76		弥生土器	壺	19.4		10YR7/3 にぶい黄褐色	外面煤付着	弥生中期
294	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	21.3	6.5	29.0	10YR8/3 淡黃橙色	外面煤付着 底部穿孔
295	E	127	3	SK76		弥生土器	壺	19.4		10YR8/2 灰白色	弥生中期	
296	E	127	3	SK76		弥生土器	壺	16.0		10YR7/2 にぶい黄褐色	外面煤付着	弥生中期
297	E	127	4	SK76		弥生土器	壺	16.7		25Y7/1 灰白色	外面煤付着	弥生中期
298	E	127	4	SK76		弥生土器	台付鉢	18.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	弥生中期	
299	E	128	4	SK76		弥生土器			7.2	25Y8/2 灰白色	弥生中期	
300	E	128	4	SK76		石製品	砥石					
301	E	120	6	SK81		弥生土器	壺	18.5		25Y6/1 黄灰色	弥生中期	
302	E	120	7	SK81		弥生土器	壺	20.9		25Y8/3 淡黃色	弥生中期	
303	E	120	7	SK81		弥生土器	壺	18.8		10YR7/3 にぶい黄褐色	弥生中期	
304	E	120	6	SK81		弥生土器	壺	16.0		10YR7/3 にぶい黄褐色	弥生中期	
305	E	120	7	SK81		弥生土器	壺	15.9		10YR7/3 にぶい黄褐色	弥生中期	
306	E	120	7	SK81		弥生土器	壺		5.7	7.5YR8/4 淡黃橙色	外面煤付着	弥生中期
307	E	120	7	SK81		弥生土器	壺		6.4	25Y8/2 灰白色	外面煤付着	弥生中期
308	E	120	7	SK81		弥生土器	壺	14.6		25Y7/3 淡黃色	外面煤付着	弥生中期
309	E	120	7	SK81		弥生土器	壺	19.9		10YR8/2 灰白色	外面煤付着	弥生中期
310	E	120	7	SK81		弥生土器	壺			7.5YR8/3 淡黃橙色	東日本系	弥生中期
311	E	120	7	SK81		弥生土器	壺		8.7	2.5Y8/1 灰白色	東日本系	弥生中期
312	E	135	7	SD73		土師器	壺			10YR7/2 にぶい黄褐色	9C代	
313	E	138	7	SD73		土師器	壺			10YR8/3 淡黃橙色	9C代	
314	E	136	7	SD73		中世土師器	皿	10.5	4.9	1.5	2.5Y8/2 灰白色	内底面煤付着
315	E	131	7	SD73		須恵器	杯	13.8			N7/0 灰白色	
316	E	130	7	SD73		須恵器	杯A		7.9		N7/0 灰白色	
317	E	136	7	SD73		須恵器	蓋	14.4			5Y7/1 灰白色	
318	E	136	7	SD73		須恵器	蓋	15.6			10YR7/2 にぶい黄褐色	
319	E	134	7	SD73		石製品	勾玉				7.5Y8/1 灰白色	ヒスイ
320	E	133	7	SD73		金属製品	錢					開元通寶

第9表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
321	E	114	3	SD70		弥生土器	甕	15.6			10YR7/2 にぶい黄褐色	外面焼付着 弥生中期
322	E	137	3	SK90		弥生土器	甕	13.2			10YR8/2 灰白色	弥生中期
323	E	135	3	SK90		弥生土器			6.8		10YR7/2 にぶい黄褐色	弥生中期
324	E	135	3	SK90		弥生土器	甕	20.4			2.5Y6/1 黄褐色	弥生中期
325	E	130	2	SD71		弥生土器	甕	12.9			7.5YR7/4 にぶい褐色	弥生中期
326	E	130	4	SD71		弥生土器	甕				7.5YR7/4 にぶい褐色	外面焼付着 弥生中期
327	E	133	3	SD72		弥生土器	甕	14.5			7.5YR8/1 灰白色	外面焼付着 弥生中期
328	E	133	2	SD72		弥生土器	甕				10YR7/4 にぶい黄褐色	東日本系？ 弥生中期
329	E	132	5	SD74		須恵器	甕	10.8			5Y7/1 灰白色	
330	E	133	3		3層	須恵器	杯B		6.1		N7/0灰白色	
331	E	126	3		2b層	須恵器	杯B		4.6		N6/0 灰色	
332	E	129	3		2b層	須恵器	杯B		7.0		7.5YR6/1 褐灰色	
333	E	135	7		3層	須恵器	杯B	13.5	8.7	4.0	7.5Y7/1 灰白色	
334	E	125	7		3層	須恵器	杯A		8.0		7.5Y7/1 灰白色	
335	E	114	8		3層	須恵器	杯A		7.2		5Y8/1 灰白色	内部焼付着
336	E	117	3		2b層	須恵器	甕	9.3			N6/0 灰色	
337	E	123	3		2b層	珠洲	擂鉢				N7/0 灰白色	13C中葉～14C第3
338	E	132	4		3層	越中瀬戸	甕	7.0	3.4	1.5	10YR7/3 にぶい黄褐色	
339	E	120	3		3層	弥生土器	鉢	15.4			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
340	E	130	3		2b層	弥生土器				7.3	10YR8/3 浅黄褐色	弥生中期
341	E	134	2		3層	弥生土器				7.8	2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
342	F	157	6	SD73		須恵器	杯H	11.4			2.5Y7/1 灰白色	7C前半
343	F	163	8	SD73		須恵器	杯H			6.7	2.5YR5/1 赤灰色	
344	F	163	8	SD73		須恵器	杯A			7.8	2.5Y7/1 灰白色	
345	F	159	8	SD73		須恵器	杯A	11.7	10.0	3.1	N6/0 灰色	
346	F	155	6	SD73		須恵器	杯A	14.1	9.4	3.0	7.5Y7/1 灰白色	
347	F	156	6	SD73		須恵器	杯	10.1			10YR7/3 にぶい黄褐色	
348	F	158	8	SD73		須恵器	杯B	10.6	6.4	4.4	5Y6/1 灰色	
349	F	156	8	SD73		須恵器	杯B			8.0	2.5Y8/1 灰白色	
350	F	163	8	SD73		須恵器	甕				2.5Y7/1 灰白色	
351	F	156	7	SD73		須恵器	甕	26.1			2.5Y8/1 灰白色	
352	F	155	8	SD73		珠洲	甕				7.5Y6/1 灰色	
353	F	155	6	SD73		珠洲	擂鉢			9.4	N7/0 灰白色	13C中葉～14C第3
354	F	155	8	SD73		珠洲	擂鉢			10.4	7.5YR7/3 にぶい褐色	
355	F	156	5	SD73		越中瀬戸	向付			10.0	2.5Y7/1 灰白色	鉄輪
356	F	159	8	SD73		土師器	甕	15.3			2.5Y7/2 灰黄色	
357	F	145	5	SD73		土師器	高杯				10YR8/3 浅黄褐色	
358	F	154	7	SD73		土師器	高杯				10YR8/2 灰白色	古墳前期
359	F	154	8	SD73		土師器				5.4	5Y5/1 灰色	
360	F	155	6	SD73		土師器				3.4	10YR8/2 灰白色	

第10表 遺物觀察表

番号	地区名	座標		遺物番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
361	F	161	7	SD73		中世土師器	皿	8.5	7.8	1.7	2.5Y8/2 灰白色	
362	F	160	7	SD73		中世土師器	皿	10.6			10YR8/3 浅黄橙色	
363	F	163	8	SD73		石製品	石鏡				10YR5/1 褐灰色	凹基式
364	F	159	8	SD73		石製品	石鏡				5Y6/2 灰オリーブ色	凹基式
365	F	155	7	SD73		金屬製品	錢					朝聖元寶
366	F	161	7	SD73		瓦	平瓦?				2.5Y8/2 灰白色	
367	F	161	7	SD73		石製品	砥石				10YR7/4 にぶい黄橙色	
368	F	161	3	SD80		須恵器	杯II	10.0			5Y8/1 灰白色	7C前半
369	F	161	3	SD80		須恵器	杯II	11.3			10YR8/3 浅黄橙色	7C前半
370	F	161	3	SD80		須恵器	壺	10.0			5Y5/1 灰色	外外面自然釉付着
371	F	160	4	SD80		須恵器	壺	12.6			2.5Y7/1 灰白色	
372	F	161	3	SD80		土師器	壺	19.7			10YR7/4 にぶい黄橙色	9C代
373	F	161	3	SD80		土製品	紡錘車				2.5Y7/2 灰黄色	
374	F	161	3	SD80		珠洲	壺	22.2			2.5Y8/1 灰白色	
375	F	161	3	SD80		珠洲	擂鉢		12.5		N7/0 灰白色	
376	F	151	2	SK109		土師器	壺		5.2		10YR6/2 灰黄褐色	外面煤付着 古墳前期
377	F	151	2	SK109		土師器	壺	14.1	5.8	28.2	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着 古墳前期
378	F	151	2	SK109		土師器	壺	12.1	6.6	22.0	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着 古墳前期
379	F	151	2	SK109		土師器	壺	24.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	
380	F	150	3		3層	須恵器	杯B		7.3		2.5Y8/1 灰白色	墨書「波」ヘラ記号
381	F	163	4		3層	弥生土器	壺	11.4			10YR7/2 にぶい黄橙色	弥生中期
382	F	161	5		3層	弥生土器	壺		8.1		10YR7/3 にぶい黄橙色	
383	F	163	4		3層	弥生土器	壺	20.8			2.5Y7/2 灰黄色	外面彩付着 弥生中期
384	F	163	4		3層	弥生土器			4.5		10YR7/2 にぶい黄橙色	
385	F	163	4		3層	弥生土器			6.9		7.5YR8/3 浅黄橙色	
386	F	145	5		3層	土師器	壺	14.2			5Y4/1 灰色	外面煤付着 古墳前期
387	F	156	3		3層	土師器	高杯				2.5Y6/1 黄灰色	
388	G	194	3	SD91		土師器	壺	14.3			5Y7/1 灰白色	
389	G	193	2	SD91		弥生土器	壺	14.9			7.5YR8/4 浅黄橙色	
390	G	193	3	SD91		弥生土器			7.8		2.5Y7/2 灰黄色	
391	G	193	3	SD91		弥生土器	鉢	20.8			2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
392	G	196	4	SD91		須恵器	蓋	12.4		5.2	N6/0 灰色	6C代
393	G	193	2	SD91		土師器	高杯		8.0		5YR7/6 橙色	
394	G	193	2	SD91		土師器	高杯				5YR7/6 橙色	
395	G	193	2	SD91		土師器	高杯	13.8	7.8	8.2	5YR7/6 橙色	杯部内面黒色処理
396	G	193	2	SD91		土師器	高杯				5YR7/6 橙色	
397	G	191	2	SD91		石製品	石鏡				2.5Y3/1 黑褐色	凸基式
398	G	190	2	SD91		土師器	碗	14.5	2.4	4.9	2.5Y8/2 灰白色	内面黒色処理 6C前半?
399	G	190	2	SD91		土師器	碗	14.9		6.6	5YR7/4 にぶい橙色	
400	G	191	3	SD91		土師器	兜	15.8			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着

第11表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	備考
		X	Y									
401	G	193	3	SD91		土師器	甕	15.0			2.5Y6/1 黄灰色	外面塗付着
402	G	189	4	SD89		弥生土器	無頸甕	7.4	6.0	16.0	2.5Y8/2 灰白色	東日本系？ 弥生中期
403	G	189	4	SD89		弥生土器				5.6	2.5Y8/2 灰白色	
404	G	176	5	SD83		弥生土器	甕	8.8			7.5YR8/4 浅黄橙色	東海系？ 弥生中期
405	G	193	2	SD90		弥生土器				10.8	10YR8/3 浅黄橙色	
406	G	194	2	SD90		弥生土器				5.8	2.5Y6/1 黄灰色	
407	G	194	2	SD90		弥生土器	甕				2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
408	G	194	4	SD90		弥生土器	甕	21.6			10YR8/2 灰白色	弥生中期
409	G	195	7	SD73		弥生土器	甕	22.2			2.5Y6/1 黄灰色	弥生中期
410	G	197	8	SD73		土師器	甕	28.0			5Y4/1 灰色	
411	G	197	8	SD73		土師器	甕	23.0			10YR7/3 にぶい黄橙色	
412	G	195	7	SD73		弥生土器	甕			6.6	2.5Y7/2 灰黄色	
413	G	191	5	SD73		弥生土器	無頸甕	8.3	5.9	11.4	2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
414	G	193	8	SD73		弥生土器				9.0	2.5Y8/2 灰白色	
415	G	194	8	SD73		須恵器	杯B	11.4	6.8	4.1	7.5Y7/1 灰白色	
416	G	196	8	SD73		珠淵	擂鉢	28.9			7.5Y6/1 灰色	
417	G	197	8	SD73		中世土師器	甕	7.0			2.5Y7/2 灰黄色	口端部煤付着
418	G	187	8	SD73		中世土師器	甕	7.5	1.9		2.5Y8/2 灰白色	口端部煤・炭化物付着
419	G	197	8	SD73		中世土師器	甕	11.3			10YR8/2 灰白色	
420	G	186	8	SD73		中世土師器	甕	11.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	
421	G	197	5	SD73		金屬製品	錢					寛永通寶 背波文
422	G	196	5	SD73		伊万里	甕	13.4	6.6	3.9	N7/0 灰白色	砂高台
423	G	198	5	SD73		越中繩戸	甕			3.6	10YR7/3 にぶい黄橙色	鐵軋
424	G	195	2		3層	弥生土器				7.0	2.5Y8/2 灰白色	
425	G	187	3		3層	弥生土器				5.4	10YR8/3 浅黄橙色	
426	G	194	2		3層	土師器	甕	19.6			5Y8/1 灰白色	
427	G	183	4		3層	弥生土器	甕	19.5			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期？
428	H	210	3	SX01		土師器	鉢?	15.9			2.5Y8/3 淡黄色	外面塗付着
429	H	210	2	SX01		土師器	甕				2.5Y8/3 淡黄色	
430	H	210	3	SX01		土師器	甕	12.1		5.0	10YR8/3 浅黄橙色	
431	H	210	3	SX01		土師器	甕	16.0			2.5Y7/2 灰黄色	外面塗付着
432	H	210	2	SX01		土師器	甕	13.4			2.5Y7/1 灰白色	外面塗付着
433	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.5	2.9	22.8	2.5Y8/3 淡黄色	外面塗付着
434	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.4			10YR8/3 浅黄橙色	
435	H	210	2	SX01		土師器	甕	17.0			10YR8/2 灰白色	
436	H	210	2	SX01		土師器	甕	19.0			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面塗付着
437	H	210	3	SX01		土師器	甕	19.1			2.5Y7/2 灰黄色	外面塗付着
438	H	210	2	SX01		土師器	甕	27.0			2.5Y7/2 灰黄色	外面塗・炭化物付着
439	H	210	3	SX01		土師器	甕	14.4	2.2	17.7	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面塗付着
440	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.2	2.1	17.3	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面塗付着

第12表 遺物觀察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
441	H	210	3	SX01		土師器	壺				10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着
442	H	210	3	SX01		土師器	壺		2.4		2.5Y6/1 黄灰色	外面煤付着
443	H	210	3	SX01		土師器	壺	16.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着
444	H	210	2	SX01		土師器	高杯		7.1		10YR8/3 淡黄橙色	外面煤付着
445	H	210	3	SX01		土師器	高杯	20.6	12.6	13.6	2.5Y8/3 淡黄色	内外面赤彩
446	H	210	2	SX01		土師器	器台		12.1		10YR8/2 灰白色	外面赤彩
447	H	210	3	SX01		土師器	器台		12.1		2.5Y8/2 灰白色	
448	H	210	3	SX01		土師器	器台	9.6	12.2	9.5	10YR8/3 淡黄橙色	外面赤彩
449	H	210	3	SX01		土師器	器台	10.3	12.6	9.3	10YR8/2 灰白色	内外面赤彩
450	H	210	3	SX01		土師器	器台	20.1	12.0	11.5	2.5Y8/2 灰白色	外面赤彩
451	H	210	3	SX01		土師器	有孔鉢	17.8		9.3	2.5Y7/2 灰黄色	底部穿孔
452	H	210	3	SX01		土師器	有孔鉢	16.7		10.1	2.5Y8/2 灰白色	底部穿孔
453	H	210	3	SX01		土師器	壺	14.6	8.2	31.3	2.5Y8/3 淡黄色	
454	H	210	3	SX01		土師器	壺				7.5YR8/2 灰白色	
455	H	210	3	SX01		弥生土器	壺	15.0	6.0	29.4	2.5Y8/2 灰白色	弥生終末期
456	H	224	7	SD73		須恵器	杯A	13.0	7.9		3Y7/1 灰白色	
457	H	208	7	SD73		須恵器	杯	15.6			N6/0 灰色	
458	H	209	7	SD73		須恵器	蓋	13.3			7.5Y7/1 灰白色	
459	H	204	7	SD73		弥生土器	壺	11.5	6.0	23.9	2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
460	H	226	7	SD73		中世土師器	皿		7.9		2.5Y7/3 浅黄色	
461	H	226	7	SD73		中世土師器	皿	8.9			10YR8/2 灰白色	
462	H	202	7	SD73		金属製品	錢					永楽通寶
463	H	205	7	SD73		金属製品	錢					永楽通寶
464	H	226	6	SD73		石製品	砥石				2.5GY8/1 灰白色	
465	H	223	7	SD73		石製品	板磚				7.5Y8/1 灰白色	
466	H	208	7	SD73		石製品	水輪				5Y6/2 灰オリーブ色	梵字「バシ」14C末~15C前半
467	H	212	4	SD97		弥生土器	壺	15.0	7.5	31.7	5Y7/1 灰白色	弥生中期
468	H	212	4	SD97		弥生土器	鉢	18.0	4.4	9.6	2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
469	H	208	7	SK151		弥生土器	壺	16.5	4.4	21.5	10YR8/2 灰白色	外面煤付着 弥生中期
470	H	217	3	SD98		弥生土器	壺	13.8	7.6		2.5Y8/3 淡黄色	底部繡獸文 弥生中期
471	H	202	8		3層	弥生土器	壺	17.0	6.9		10YR8/1 灰白色	弥生中期
472	H	210	3		2b層	土師器	高杯				2.5Y7/3 浅黄色	
473	H	210	8		2b層	土師器			6.0		2.5Y8/3 淡黄色	
474	H	212	3		2b層	珠測	播鉢		9.6		5Y7/1 灰白色	
475	I	242	6	SD73		珠測			11.2		10YR6/1 壱灰色	
476	I	234	7	SD73		珠測	播鉢		12.3		N6/0 灰色	
477	I	234	7	SD73		越中漁戸	碗		3.4		5Y8/1 灰白色	
478	I	234	7	SD73		金属製品	錢					永楽通寶
479	I	236	7	SD73		石製品	地輪				5Y6/2 灰オリーブ色	
480	I	240	8	SD113		土師器	壺				2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着
481	I	238	8	SD113		土師器	壺	12.0			10YR7/2 にぶい黄橙色	
482	I	239	8	SD113		土師器	壺	17.4			2.5Y6/3 にぶい黄色	
483	I	240	8	SD113		土師器	壺		3.7		10YR8/2 灰白色	底部穿孔

写 真 図 版

図版1



1.小林遺跡遠景(北から)



2.小林遺跡遠景(南から)

1.造構全景[B地区]
(南から)



2.造構全景[E地区]
(北から)



図版3



1.遺構全景〔E地区〕
(北から)

2.遺構全景〔F地区〕
(北から)



3.遺構全景〔G地区〕
(北から)

4.遺構全景〔H地区〕
(北から)

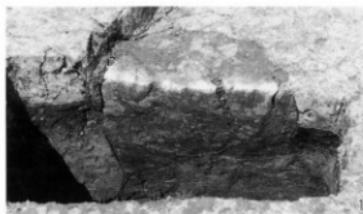


5.遺構全景〔I地区〕
(北から)

6.掘立柱建物〔G地区〕
(北から)

図版4

1.井戸SE01[C地区]
(南から)



2.土坑SK76[E地区]
(南から)



3.土坑SK90[E地区]
(東から)



4.据立柱建物SB03の
柱穴P-4[G地区]
(東から)

5.溝SD107[H地区]
(北から)



6.溝SD73[J地区]
(南から)

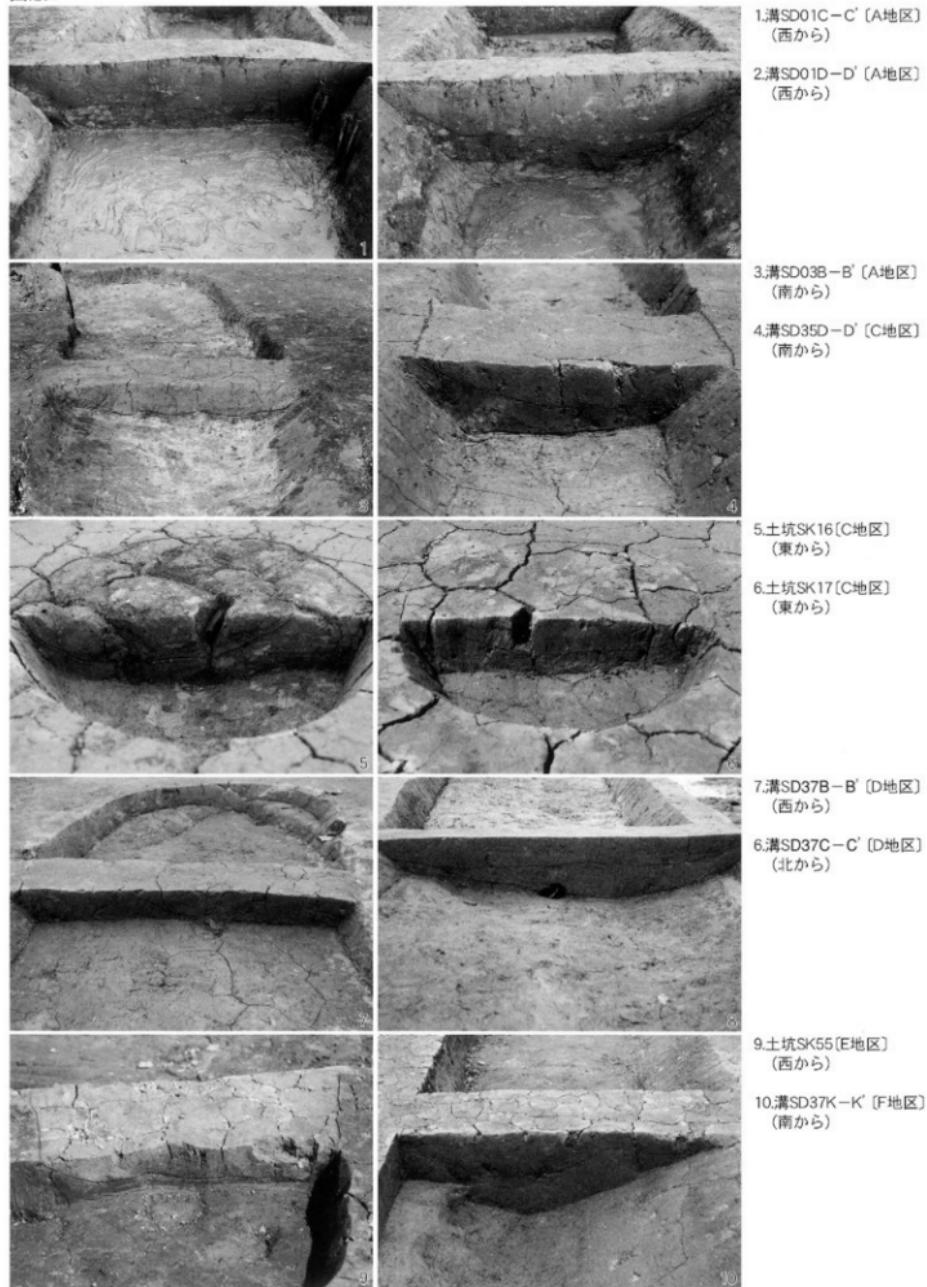


7.作菜風景[C地区]
(北から)



8.作菜風景[E地区]
(北から)

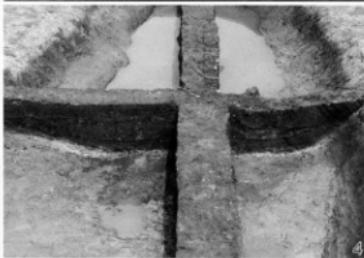
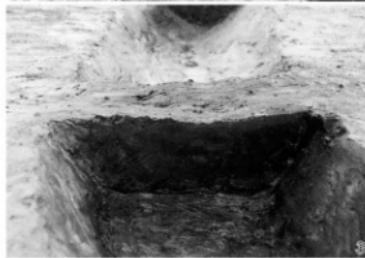
図版5



1.溝SD20A-A' [A地区]
(西から)



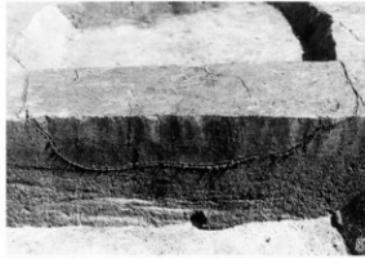
3.溝SD24D-D' [B地区]
(西から)



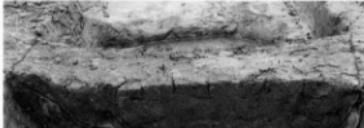
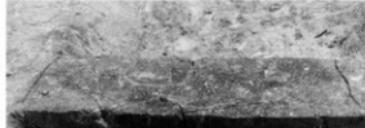
4.土坑SK26B-B' [B地区]
(南から)



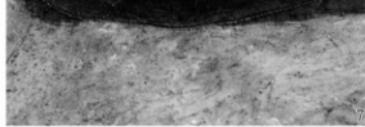
5.溝SD47A-A' [C地区]
(西から)



6.溝SD47B-B' [C地区]
(西から)



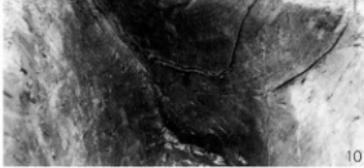
7.溝SD47C-C' [C地区]
(西から)



8.溝SD48A-A' [D地区]
(南から)

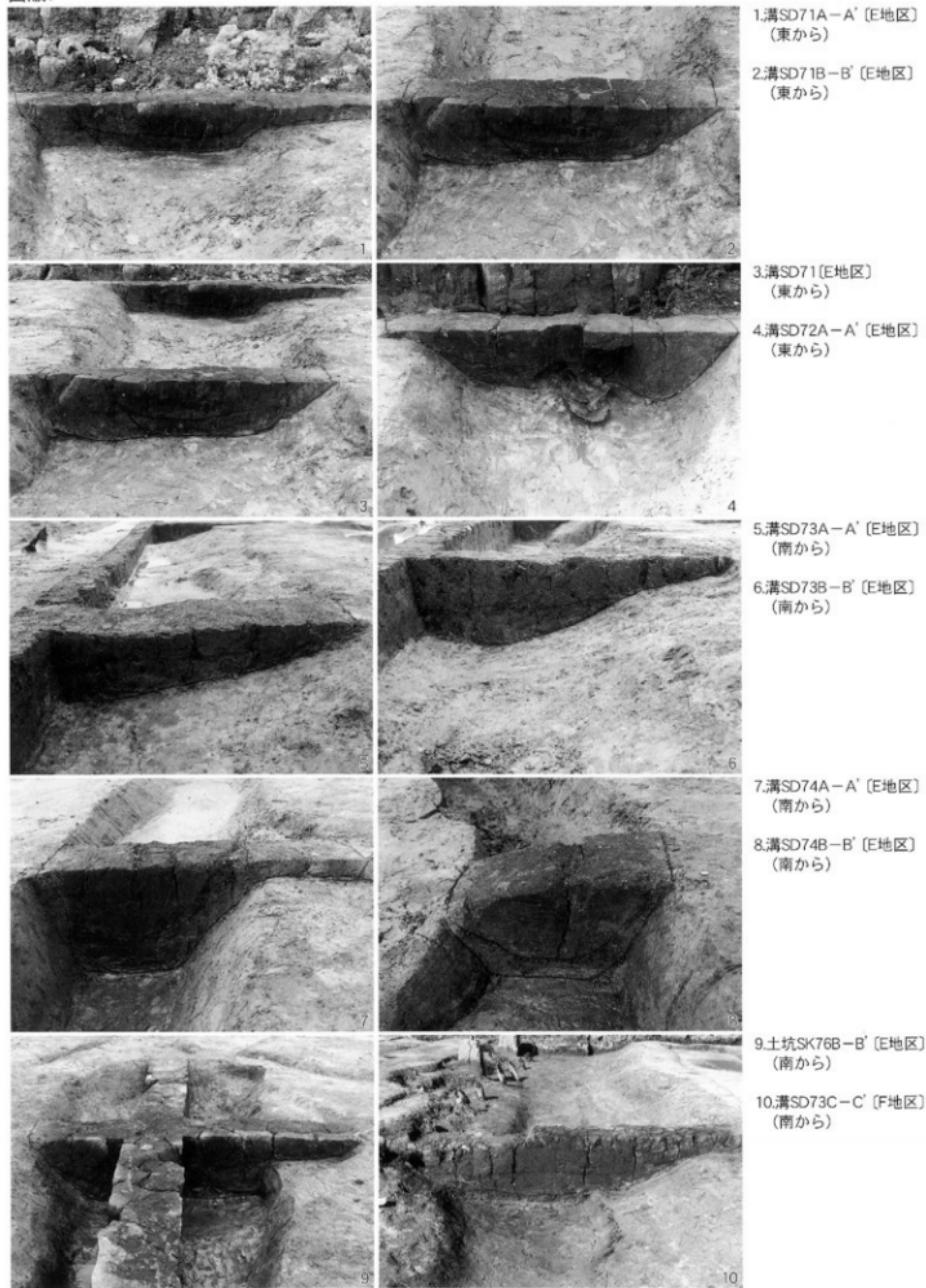


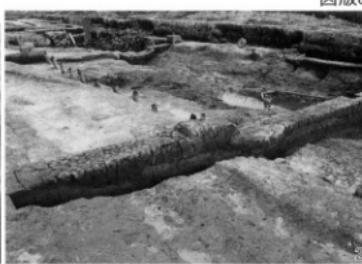
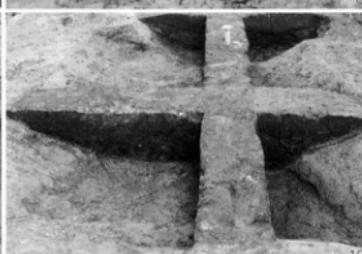
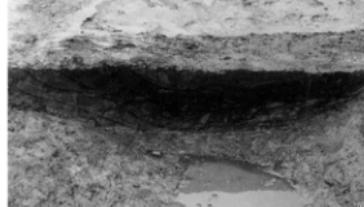
9.溝SD51A-A' [D地区]
(南から)



10.溝SD51B-B' [D地区]
(南から)

図版7



1.溝SD73[F地区]
(南から)3.土坑SK118[F地区]
(東から)4.溝SD83A-A' [G地区]
(西から)5.溝SD83B-B' [G地区]
(南から)6.溝SD89B-B' [G地区]
(西から)7.溝SD91A-A' [G地区]
(南から)8.溝SD97A-A' [H地区]
(東から)

図版9

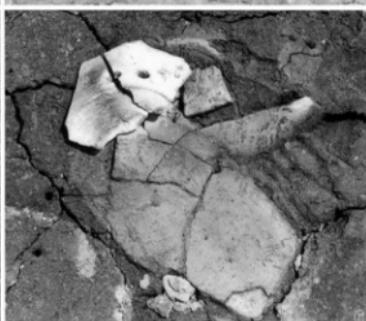


1.溝SD01[A地区]
木坑列出土状況
(北から)



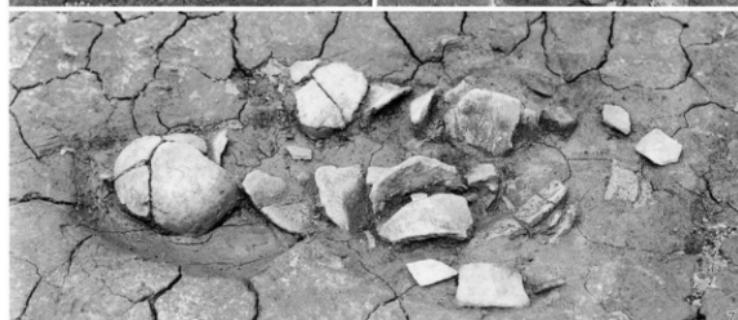
3.溝SD11[B地区]
遺物出土状況(西から)

4.溝SD33[B地区]
遺物出土状況(西から)



5.土坑SK56[E地区]
遺物出土状況(西から)

6.溝SD35[C地区]
遺物出土状況(南から)



7.検出面(X:94 Y:3)
[D地区]
遺物出土状況(東から)

1.土坑SK81[E地区]
遺物出土状況(東から)



1

2.土坑SK81[E地区]
遺物出土状況(東から)



3.土坑SK81[E地区]
遺物出土状況(東から)



2

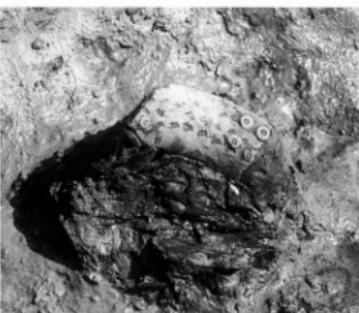
4.溝SD71[E地区]
遺物出土状況(東から)



3

5.溝SD72[E地区]
遺物出土状況(東から)

図版11



1.土坑SK81[E地区]
遺物出土状況(北から)



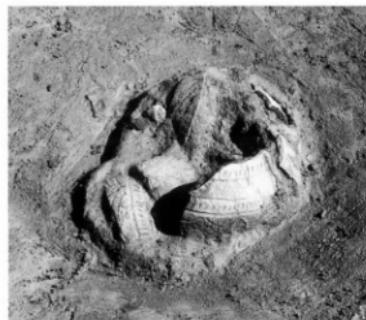
3.土坑SK109[F地区]
遺物出土状況(東から)



4.土坑SK81[E地区]
遺物出土状況(東から)

図版12

1.満SD89[G地区]
遺物出土状況(西から)



2.満SD91[G地区]
遺物出土状況(西から)



3.土器淹りSX01[H地区]
遺物出土状況(東から)



4.土器淹りSX01[H地区]
遺物出土状況(東から)



5.土器淹りSX01[H地区]
遺物出土状況(西から)



図版13



1.溝SD73[H地区]
板磚出土状況(南から)



2.溝SD73[H地区]
水輸出土状況(北から)

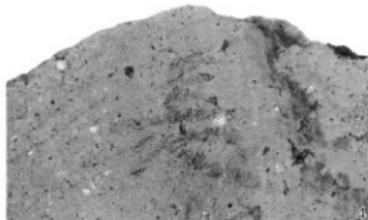


3.溝SD73[H地区]
地輸出土状況(南から)

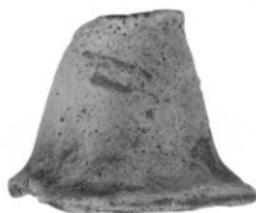
出土遺物
土器(A・B地区)
SD01 SD03 SD09
SD10 包含層



29



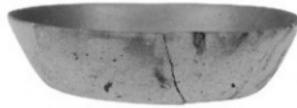
4



11



13



3



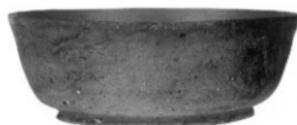
35



32



43



1



45

出土遺物
土器・陶磁器
包含層(B・C地区)



112



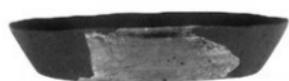
64



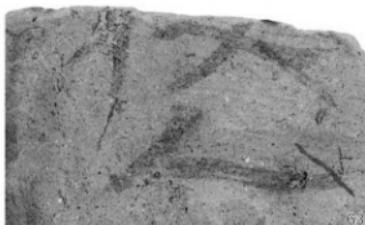
57



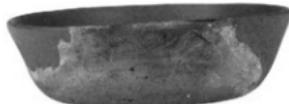
69



58



60



62



108



出土遺物
土器・木製品・石製品・
金属製品〔C～F 地区〕
SD35 SD37 包含層



148



164



149



84



91



167



165



181



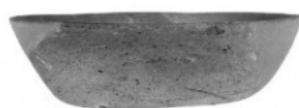
182

出土遺物
土器[A・B地区]
SD18 包含層



190

192



183

191



205

209



206



204



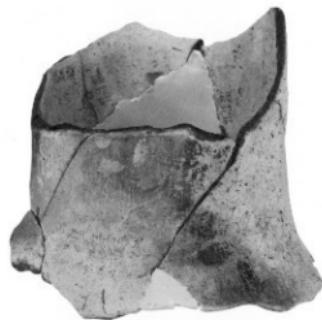
212

213

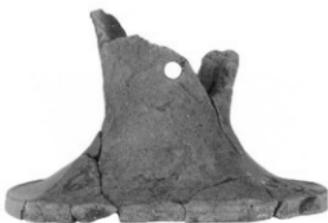
出土遺物
土器[C地区]
SK40 包含層



233



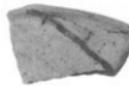
227



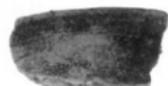
229



221



218



234



230



219



235



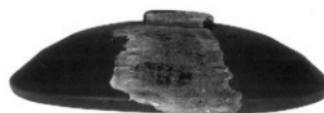
231

図版19

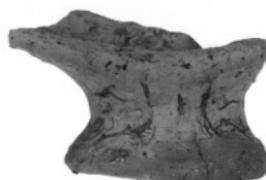
出土遺物
土器[C地区]
包含層



256



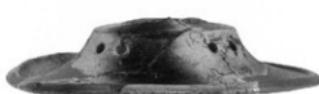
238



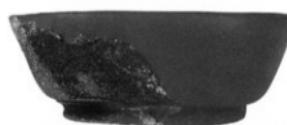
254



243



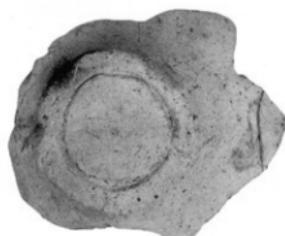
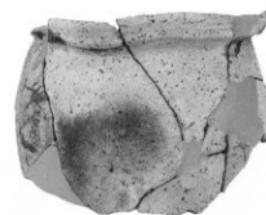
259



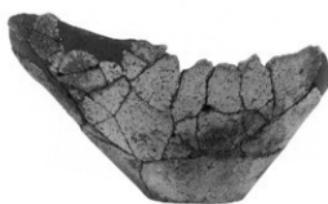
240



251



250

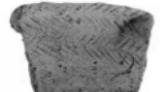


260

出土遺物
土器(D地区)
SD51 包含層



267



266



265



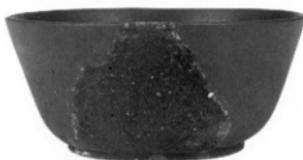
275



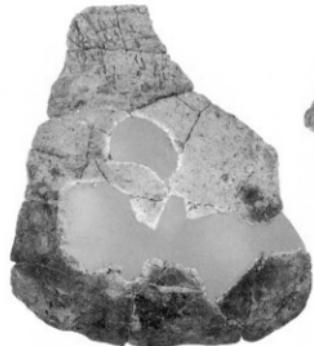
270



278



271



276

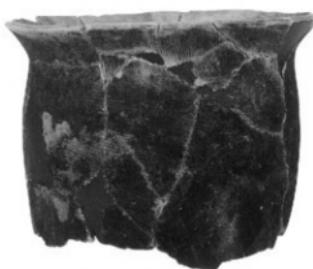




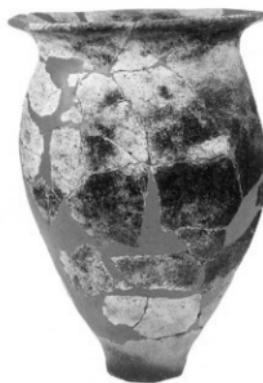
298



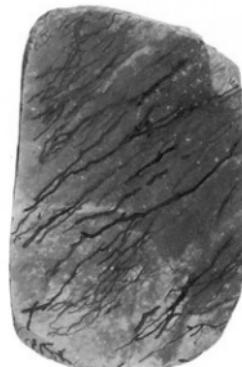
293



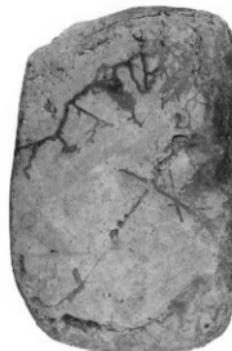
297



295



300



300

出土遺物
土器(E地区)
SK81



301



306



303



308



307



311



310

图版23

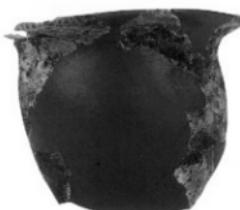
出土遗物
土器・石製品〔E地区〕
SD71～SD73 包含層



319



326



327



321



364



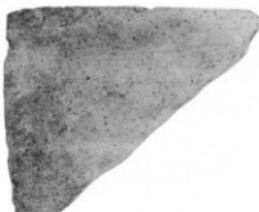
358



363



361



366



出土遺物
土器(F地区)
SD80 SK109 包含層



373



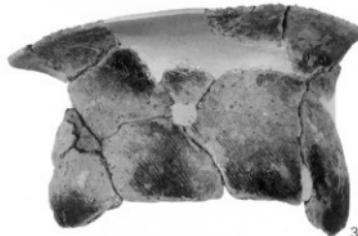
370



378



377



383



384



376



382



393



398



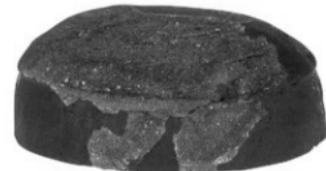
394



399

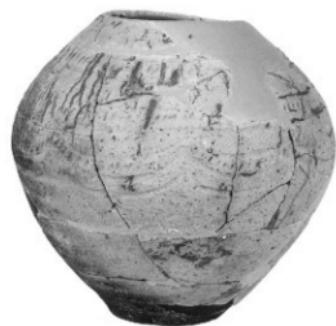


395



392

出土遺物
土器・陶磁器・石製品
[G地区]
SD73 SD83 SD89
SD91



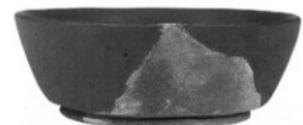
397

402

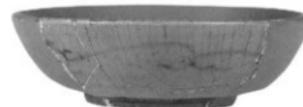


404

413



415



412

422



436

433



441

431



439

440

出土遺物
土器(H地区)
SX01



444



446



448



449



447



445



450

451



452



453

454

出土遺物
土器・石製品〔H地区〕
SD73 SD97 SK151
包含層



459



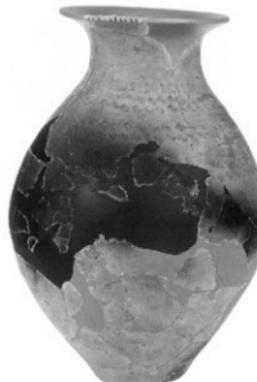
464



468



469



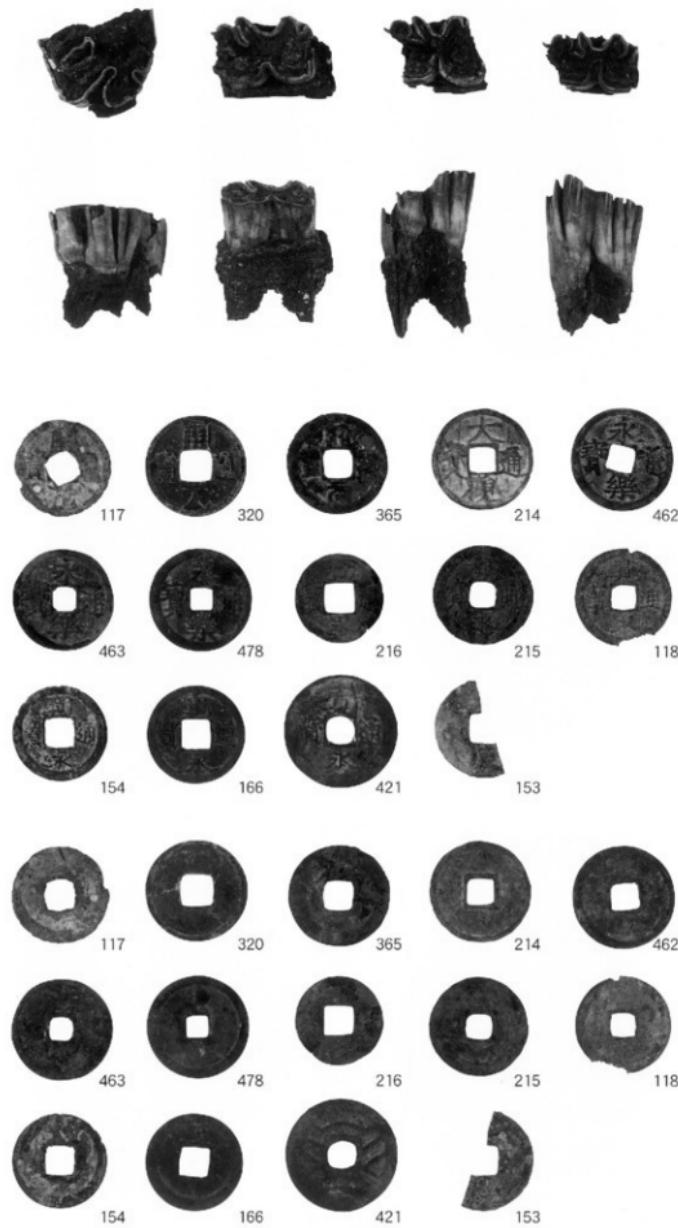
467



471

図版31

出土遺物
獸骨・金属製品
〔B~I地区〕
SD37 SD73 包含層



報告書抄録

ふりがな	こばやしいせき							
書名	小林遺跡							
副書名	町道北高木小林線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
編著者名	田中 明							
編集機関	大島町教育委員会							
所在地	〒939-0292 富山県射水郡大島町小島703 TEL0766-52-3854							
発行年月日	西暦2003年 3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 ° °'	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
こばやしいせき 小林遺跡	こやまほいみずぐん 富山県射水郡 おおしまちょうこばやし 大島町小林	16382	384008	36度 43分 55秒	137度 4分 28秒	平成9年度 19970820～ 19971217 平成10年度 19980511～ 19980909 平成11年度 19990406～ 20000113	1,000m ² 2,300m ² 4,300m ²	幹線町道 建設事業 に伴う事 前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
小林遺跡	集落跡	弥生時代	溝・土坑	弥生土器・石器・勾 玉・砥石				
		古墳時代	溝・土坑・井戸	土師器				
		古代	溝・掘立柱建物・ 土坑	土師器・須恵器				
		中世	溝・土坑	珠渦・中世土師器 瀬戸美濃・石製品				
		近世以降	溝・土坑	肥前陶磁・越中瀬戸 木製品・金糞製品				

富山県射水郡大島町

小林遺跡 -町道北高木小林線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-

2003(平成15)年3月31日 発行

編集・発行 大島町教育委員会

〒939-0292 富山県射水郡大島町小島703 TEL0766-52-3854

印 刷 株式会社 富山フォーム印刷

〒939-8214 富山県富山市黒崎173番1 TEL076-492-5565

